

Oracle9i Discoverer Administrator

チュートリアル

リリース 9.0.2

2002 年 11 月

部品番号 : J05999-01

ORACLE®

Oracle9i Discoverer Administrator チュートリアル, リリース 9.0.2

部品番号 : J05999-01

原本名 : Oracle9i Discoverer Administrator Tutorial, Version 9.0.2

原本部品番号 : A92180-01

原本著者 : N Fry

原本協力者 : P R Brownbridge

Copyright © 2001, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	v
対象読者	vi
このマニュアルの構成	vi
始める前に	vii
関連文書	vii
表記規則	viii
Oracle9i Discoverer の操作	viii
キーボード操作	viii
 1 Discoverer Administrator チュートリアル の概要	
Discoverer Administrator チュートリアル の概要	1-2
 2 レッスン 1: プライベート End User Layer の作成	
レッスン 1: 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer の作成	2-2
演習 1: 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer の作成	2-2
レッスンのまとめ	2-10
 3 レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続	
レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続 .	3-2
演習 1: Discoverer Administrator への接続	3-2
演習 2: ロード・ウィザードを使用した新規ビジネスエリアの作成	3-4
演習 3: 「ワークエリア」の情報の取得	3-14
レッスンのまとめ	3-18

4 レッスン 3: アクセス権限の付与

レッスン 3: アクセス権限の付与	4-2
演習 1: 「権限」ダイアログの「ユーザー → 権限」タブの使用	4-3
演習 2: 「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブの使用	4-5
演習 3: 「権限」ダイアログの「問合せ管理」タブの使用	4-6
演習 4: 「権限」ダイアログの「スケジュールされたワークブック」タブの使用	4-7
演習 5: 「セキュリティ」ダイアログの「ビジネスエリア → ユーザー」タブの使用	4-9
レッスンのまとめ	4-11

5 レッスン 4: ビジネスエリアの変更

レッスン 4: ビジネスエリアの変更	5-2
演習 1: ビジネスエリアへの説明の追加	5-2
演習 2: フォルダの名前変更と説明の追加	5-4
演習 3: Time Information フォルダ内のアイテムの名前変更	5-6
レッスンのまとめ	5-8

6 レッスン 5: カスタム・フォルダを使用した作業

レッスン 5: カスタム・フォルダを使用した作業	6-2
演習 1: カスタム・フォルダの作成	6-2
演習 2: カスタム・フォルダ内の SQL 文の編集	6-5
レッスンのまとめ	6-7

7 レッスン 6: 結合の作成

レッスン 6: 結合の作成	7-2
演習 1: ビジネスエリア内のフォルダ間の結合の作成	7-2
レッスンのまとめ	7-7

8 レッスン 7: アイテムのカスタマイズ

レッスン 7: アイテムのカスタマイズ	8-2
演習 1: ビジネスエリア内のアイテムの非表示化	8-2
演習 2: アイテムの表示軸と表示順序の設定	8-5
演習 3: 値リストの作成	8-7
演習 4: 値リストのアイテム・クラスを表示	8-12
エンド・ユーザーに表示される内容 : Discoverer Plus の値リストからの選択	8-13

演習 5: 代替ソートの作成	8-15
演習 6: 代替ソート・アイテム・クラスの表示	8-20
演習 7: 新規ユーザー定義アイテムの作成	8-21
エンド・ユーザーに表示される内容 : Discoverer Plus でのユーザー定義アイテム	8-23
他のユーザー定義アイテムの例	8-25
所在地レコード・ユーザー定義アイテム	8-25
人員レコード・ユーザー定義アイテム	8-25
月間の給与およびコミッションに基づく年間報酬 (NVL では値 0 を許容) ユーザー定義 アイテム	8-25
集計ユーザー定義アイテム	8-25
レッスンのまとめ	8-26

9 レッスン 8: 複合フォルダの設計

レッスン 8: 複合フォルダの設計	9-2
演習 1: 複合フォルダの作成	9-3
演習 2: 条件の作成	9-6
Discoverer Plus ユーザーに表示される内容	9-8
レッスンのまとめ	9-9

10 レッスン 9: 階層での作業

レッスン 9: 階層での作業	10-2
演習 1: 単一アイテム階層の定義	10-3
Discoverer Plus ユーザーに表示される内容 – 階層のナビゲート	10-7
演習 2: より複雑なアイテム階層の定義	10-8
演習 3: 日付階層テンプレートの作成	10-11
Discoverer Plus ユーザーに表示される内容 – 階層レベル間のナビゲート	10-15
演習 4: アイテムの内容タイプの変更	10-16
Discoverer Plus ユーザーに表示される内容 – ワークシートの外部アプリケーション・ アイコン	10-17
演習 5: ディテール・ドリル・データの定義	10-18
レッスンのまとめ	10-21

11 レッスン 10: サマリー・フォルダの作成によるパフォーマンスの最適化

レッスン 10: サマリー・フォルダの作成によるパフォーマンスの最適化	11-2
演習 1: 自動サマリー管理 (ASM) を使用したサマリー・フォルダの作成	11-3
演習 2: 手動によるサマリー・フォルダの作成	11-8
レッスンのまとめ	11-14

12 レッスン 11: チュートリアルの完了時の作業

レッスン 11: チュートリアル完了時の作業	12-2
演習 1: ビジネスエリアからのサマリー・フォルダの削除	12-3
演習 2: New Video Stores ビジネスエリアの削除	12-3
演習 3: チュートリアル・データベース・ユーザーが所有する EUL の削除	12-4
演習 4: データベースからのチュートリアル・データベース・ユーザーの削除	12-4
レッスンのまとめ	12-5

A Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール

Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール	A-2
Discoverer Administrator チュートリアル・ユーザーがチュートリアル・レッスンを開始するための データベースの前提条件	A-3
Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール時の処理	A-3
チュートリアル・データのインストールに必要な権限	A-6
Discoverer Administrator に初めて接続するときに適用される条件	A-7
EUL の作成が必要な理由	A-7
Discoverer チュートリアル用の EUL、データおよびワークブックのインストール手順	A-7
チュートリアル用プライベート EUL の作成方法	A-8
Discoverer チュートリアル用のインストール方法	A-14
VIDEO5 データベース・ユーザーにチュートリアル EUL 用のアクセス権限を付与する方法	A-20
Video Tutorial Workbook にアクセスするためのパブリック接続の作成方法	A-23
チュートリアル用ビジネスエリアを他の End User Layer にインストールする方法	A-29
チュートリアル用ビジネスエリア、表およびデータをアンインストールする方法	A-33
チュートリアル・データを再インストールする方法	A-36

索引

はじめに

『Oracle9i Discoverer Administrator チュートリアル』へようこそ。このチュートリアルは、Oracle9i Discoverer Administrator の主な機能の使用方法を示す一連のレッスンを提供します。

対象読者

このチュートリアルは、データベースに関する知識と実務経験を持ち、次の分野を理解しているコンピュータ・ユーザーを対象としています。

- SELECT 文。
- データベース権限。
- データベース・ユーザーおよびロール。
- Discoverer Desktop の使用経験も役立ちます。

このマニュアルの構成

各レッスンの冒頭には、概要と演習のリストが記載されています。各レッスンを始める前に、演習のリストを調べて完了までの所要時間を把握してください。

このチュートリアルは、次のレッスンで構成されています。

- [レッスン 1: 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer の作成](#)
- [レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続](#)
- [レッスン 3: アクセス権限の付与](#)
- [レッスン 4: ビジネスエリアの変更](#)
- [レッスン 5: カスタム・フォルダを使用した作業](#)
- [レッスン 6: 結合の作成](#)
- [レッスン 7: アイテムのカスタマイズ](#)
- [レッスン 8: 複合フォルダの設計](#)
- [レッスン 9: 階層での作業](#)
- [レッスン 10: サマリー・フォルダの作成によるパフォーマンスの最適化](#)

始める前に

このチュートリアルを始める前に、Discoverer のチュートリアル用 EUL、データおよびワークブックをインストールする必要があります。まだインストールされていない場合は、[付録 A「Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール」](#)を参照してください。

このチュートリアルを行うには、最初に DBA ロールを持つユーザーとして Discoverer Administrator に接続する必要があります（詳細は、データベース管理者に問い合わせてください）。これは、チュートリアルを実行するための新規データベース・ユーザーを作成する必要があるためです。Discoverer Administrator を通常使用する場合、DBA 権限は必要ありません。

ビデオ販売店のサンプル・データベースは、チュートリアル表への読取りアクセス権が事前に付与されるように設計されているため注意してください。独自のビジネスエリアを作成する場合は、アクセス先となるデータベース表への SELECT アクセス権が必要になります。また、データ表の所有者であるデータベース・ユーザーの名前も知る必要があります。

このチュートリアルは、Discoverer Administrator の基本的な機能と手順の概要を示すものであることに注意してください。このチュートリアルで説明する範囲を超えて Discoverer Administrator で作業している場合は、より詳細な説明が必要になります。『Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド』には、状況依存のヘルプ・システムが付属しており、信頼性の高い情報源として活用できます。

関連文書

詳細は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド』
- 『Oracle9iAS Discoverer Plus ユーザーズ・ガイド』
- Oracle9i Application Server のリリース・ノート

表記規則

このマニュアルで使用する表記規則は、次のとおりです。

表記規則	意味
.	例に含まれる垂直方向の省略記号は、その例に直接関連のない情報が省略されていることを意味します。
...	文またはコマンドに含まれる水平方向の省略記号は、その文またはコマンドのうち、例に直接関連のない部分が省略されていることを意味します。
太字	本文中の太字は、本文、用語集またはその両方に定義されている用語を示します。
< >	山カッコは、ユーザー指定の名前を囲みます。
[]	大カッコは、オプションの句を囲みます。そこから 1 つ選択しても、まったく選択しなくてもかまいません。

Oracle9i Discoverer の操作

キーボード操作

Oracle9i Discoverer では、標準のキーボード操作がサポートされています。標準のキーボード操作とは、[Tab] キー、ニーモニック（[Alt] キーおよび下線付きの文字を使用）およびアクセラレータ（[Alt] キーを押しながら [F4] を押してウィンドウを終了させるなど）を使用することです。

Discoverer Administrator チュートリアル の概要

Discoverer Administrator チュートリアル の概要

このチュートリアルでは、ビジネスの例としてビデオ・レンタル・チェーンを使用し、売上データと在庫データを使用してビジネスエリアを開発する方法を説明します。Discoverer Administrator ソフトウェアには、このチュートリアルで使用するビデオ販売店のデモ・データベース (VIDEO5) が含まれています。チュートリアルのレッスンを始める前に、このデータベースをインストールし、データを移入する必要があります。

チュートリアル・データのインストール方法の詳細は、[付録 A「Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール」](#)を参照してください。

このチュートリアルは、Discoverer Administrator の主な機能の使用法を示す一連のレッスンで構成されています。各レッスンの冒頭には、概要と演習のリストが記載されています。各レッスンを始める前に、演習のリストを調べて完了までの所要時間を把握してください。

このチュートリアルは、次のレッスンで構成されています。

- 「[レッスン 1: 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer の作成](#)」
- 「[レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続](#)」
- 「[レッスン 3: アクセス権限の付与](#)」
- 「[レッスン 4: ビジネスエリアの変更](#)」
- 「[レッスン 5: カスタム・フォルダを使用した作業](#)」
- 「[レッスン 6: 結合の作成](#)」
- 「[レッスン 7: アイテムのカスタマイズ](#)」
- 「[レッスン 8: 複合フォルダの設計](#)」
- 「[レッスン 9: 階層での作業](#)」
- 「[レッスン 10: サマリー・フォルダの作成によるパフォーマンスの最適化](#)」

このチュートリアルを行うには、最初に DBA ロールを持つユーザーとして Discoverer Administrator に接続する必要があります（詳細は、データベース管理者に問い合せてください）。これは、チュートリアルを実行するための新規データベース・ユーザーを作成する必要があるためです。Discoverer Administrator を通常使用する場合、DBA 権限は必要ありません。

ビデオ販売店のサンプル・データベースは、チュートリアル表への読取りアクセス権が事前に付与されるように設計されているため注意してください。独自のビジネスエリアを作成する場合は、アクセス先となるデータベース表への SELECT アクセス権が必要になります。また、データ表の所有者であるデータベース・ユーザーの名前も知る必要があります。

このチュートリアルは、Discoverer Administrator の基本的な機能と手順の概要を示すものであることに注意してください。このチュートリアルで説明する範囲を超えて Discoverer

Administrator で作業している場合は、より詳細な説明が必要になります。信頼性の高い情報源として利用できる『**Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド**』のヘルプを参照してください。

レッスン 1: プライベート End User Layer の 作成

レッスン 1: 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer の作成

このレッスンの所要時間は、約 10 分です。

このレッスンでは、新規チュートリアル・データベース・ユーザー用のプライベート End User Layer (EUL) を作成します。

各チュートリアル・データベース・ユーザーは、独自の EUL を持ちます。これにより、Discoverer Administrator ビジネスエリアの独自バージョンを個別に作成できます。

チュートリアルを完了するには、Discoverer 管理者が事前に VIDEO5 のユーザー、表およびチュートリアル・データをインストールしている必要があります（詳細は、[付録 A 「Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール」](#)を参照）。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- [「演習 1: 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer の作成」](#)

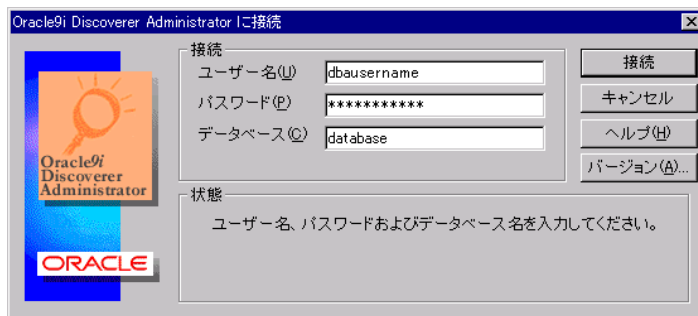
演習 1: 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer の作成

この演習では、新規チュートリアル・データベース・ユーザー用のプライベート End User Layer を作成します。この演習で作成するチュートリアル・データベース・ユーザーを、他のチュートリアル・レッスンで使用します。

新規チュートリアル・データベース・ユーザー用プライベート End User Layer を作成する手順は、次のとおりです。

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」、「Oracle9i Developer Suite - <HOME_NAME>」、「Discoverer Administrator」、「Oracle9i Discoverer Administrator」の順に選択し、「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログを表示します。

図 2-1 「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログ



2. DBA 権限を持つデータベース・ユーザーの名前を入力します (DBA ユーザー名とパスワードの詳細は、データベース管理者に問い合わせてください)。
3. 「パスワード」フィールドにデータベース・ユーザーのパスワードを入力します。
4. 「データベース」フィールドで、次のように操作します。

- デフォルト・データベースに接続している場合は、このフィールドを空白のままにして「接続」をクリックします。

Oracle 8.1.6 以上のデータベースの場合、この接続を機能させるには `tnsnames.ora` ファイルにエントリが必要です (詳細は、Discoverer 管理者に問い合わせてください)。

- デフォルト・データベース以外の Oracle データベースに接続している場合は、適切な SQL*Net 接続文字列を指定して「接続」をクリックします (接続文字列の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください)。
- Oracle 以外のデータベースに接続している場合は、「ODBC:<data source name>」と入力して「接続」をクリックします。

5. 「EUL マネージャ」ダイアログを表示するために、次のいずれかを行います。

Discoverer Administrator の動作は、接続に使用するデータベース・ユーザー用の EUL が作成済みかどうかに応じて異なります。

- End User Layer が存在しない場合、Discoverer Administrator では「**ここで EUL を作成しますか?**」というメッセージを含むダイアログが表示されます。「はい」をクリックして「EUL マネージャ」ダイアログを表示します。
- 1 つ以上の End User Layer が存在する場合は、ロード・ウィザードが表示されます。ロード・ウィザードで「キャンセル」をクリックし、「ツール」→「EUL マネージャ」を選択して「EUL マネージャ」ダイアログを表示します。

図 2-2 「EUL マネージャ」 ダイアログ



6. 「新しい EUL を作成 ...」をクリックします。「EUL 作成ウィザード」ダイアログが表示されます。

図 2-3 「EUL 作成ウィザード」 ダイアログ



このウィザードを使用して、EUL と新規データベース・ユーザーを作成します。作成した新規データベース・ユーザーを、このチュートリアルのすべてのレッスンに使用します。

7. 「新規ユーザーを作成」ラジオ・ボタンを選択します。
8. 次のチェックボックスを選択解除します。
 - 「パブリック シノニムにアクセスを許可する」
 - 「新規 EUL は Oracle Applications ユーザー用のみ」
9. 「ユーザー」フィールドに、admintutor に続けてイニシャルを入力します（ユーザー名が John Smith の場合は admintutorjs など）。

これがチュートリアルに使用するデータベース・ユーザー名となります。
10. 「ユーザー」フィールドに入力したのと同じユーザー名を、「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに入力します。
11. 「EUL 作成ウィザード」ダイアログで、ラジオ・ボタンとチェックボックスが次のように設定されていることを確認します。

図 2-4 「EUL 作成ウィザード」ダイアログ



12. 「次へ」をクリックすると、「EUL 作成ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

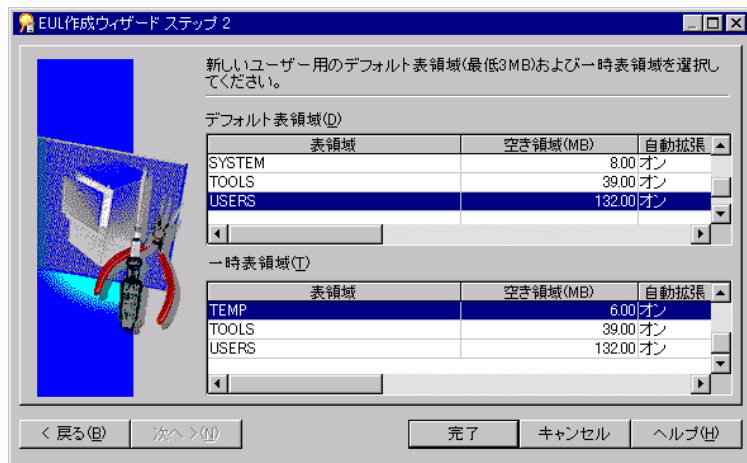
図 2-5 「EUL 作成ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



13. デフォルト表領域と一時表領域を選択します。

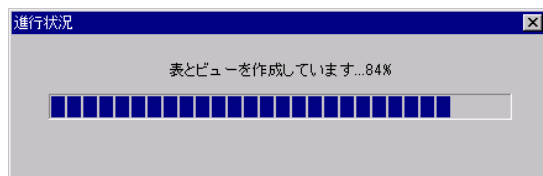
たとえば、デフォルト表領域として「USERS」、一時表領域として「TEMP」を選択します。デフォルト表領域と一時表領域の選択に不明な点がある場合は、データベース管理者に問い合わせてください。

図 2-6 「EUL 作成ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



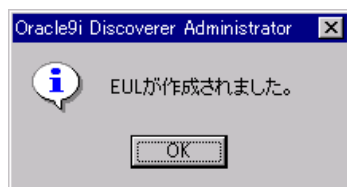
14. 「完了」をクリックすると、Discoverer Administrator により EUL が作成されます。
進行状況を示す進行状況バーが表示されます。

図 2-7 進行状況バー



Discoverer により新規 EUL が作成されると、Discoverer Administrator に EUL が正常に作成されたことを示すメッセージが表示されます。

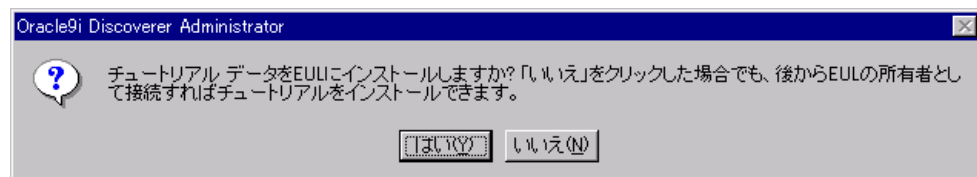
図 2-8 EUL 作成完了メッセージ



注意： 次のステップでは、一連のダイアログを通じて Discoverer Administrator を閉じることができます。これにより、共通の始点から他のチュートリアル・レッスンを開始できます。

15. 「OK」をクリックして、次のダイアログを表示します。

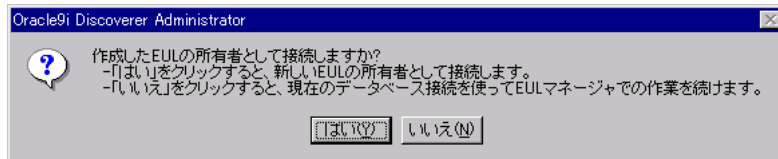
図 2-9 「チュートリアル データを EUL にインストールしますか？」 ダイアログ



16. 「いいえ」をクリックすると、次のダイアログが表示されます。

注意：ここで「いいえ」をクリックするのは、Discoverer 管理者がすでにチュートリアル・データをインストールしているためです。詳細は、Discoverer 管理者に問い合わせるか、[付録 A 「Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール」](#)を参照してください。

図 2-10 「作成した EUL の所有者として接続しますか？」ダイアログ



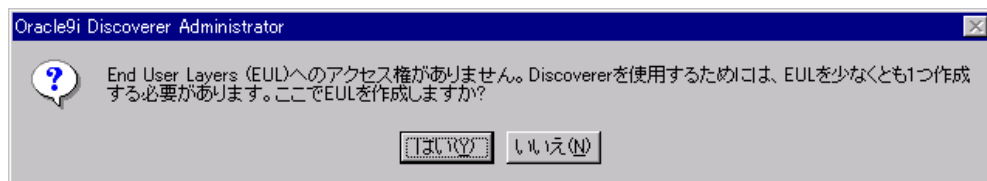
17. 「いいえ」をクリックして「EUL マネージャ」ダイアログを表示します。

図 2-11 「EUL マネージャ」ダイアログ



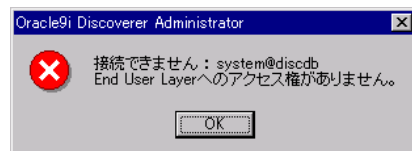
18. 「閉じる」をクリックして「EUL マネージャ」ダイアログを閉じ、次のダイアログを表示します。

図 2-12 「ここで EUL を作成しますか？」 ダイアログ



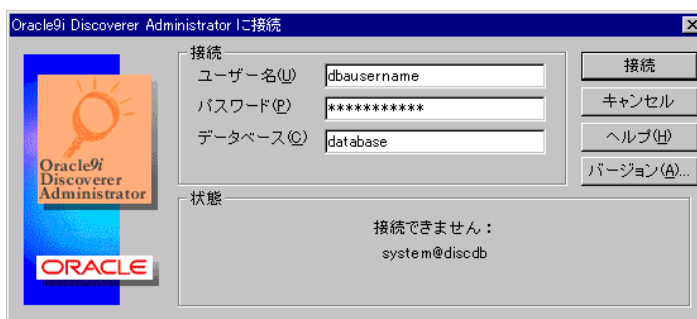
19. 「いいえ」をクリックして「ここで EUL を作成しますか？」ダイアログを閉じ、次のダイアログを表示します。

図 2-13 「接続できません」 ダイアログ



20. 「OK」をクリックして前述のダイアログを閉じ、「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログを表示します。

図 2-14 「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」 ダイアログ



21. 「キャンセル」をクリックして「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログを閉じます。

22. 「ファイル」→「終了」をクリックして Discoverer Administrator を終了します。

この演習では、新規チュートリアル・データベース・ユーザー用のプライベート End User Layer を作成しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでの学習内容は、次のとおりです。

- 新規チュートリアル・データベース・ユーザー用のプライベート EUL の作成

新規チュートリアル・データベース・ユーザー用の新規 EUL の作成を完了したため、次の章のチュートリアル・レッスンに進むことができます。

次のレッスンでは、ビジネスエリアを作成します。詳細は、「[レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続](#)」を参照してください。

レッスン 2: ロード・ウィザードと 「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続

レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続

このレッスンの所要時間は、約 15 分です。

このレッスンでは、Discoverer Administrator に接続し、ビジネスエリアを作成して、「ワークエリア」の情報を取得します。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「演習 1: Discoverer Administrator への接続」
- 「演習 2: ロード・ウィザードを使用した新規ビジネスエリアの作成」
- 「演習 3: 「ワークエリア」の情報の取得」

演習 1: Discoverer Administrator への接続

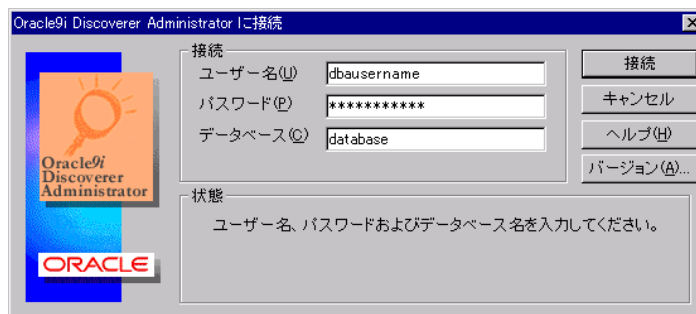
この演習では、レッスン 1 で作成したチュートリアル・データベース・ユーザーとして、Discoverer Administrator に接続します。

他のチュートリアルの演習に進むには、チュートリアル・データベース・ユーザーとして Discoverer Administrator に接続する必要があります。

チュートリアル・データベース・ユーザーとして Discoverer Administrator に接続する手順は、次のとおりです。

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」、「Oracle9i Developer Suite - <HOME_NAME>」、「Discoverer Administrator」の順に選択し、「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログを表示します。

図 3-1 「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログ



2. 「ユーザー名」フィールドに、admintutor に続けてイニシャルを入力します（ユーザー名が John Smith の場合は admintutorjs など）。

これは、レッスン 1 で作成したチュートリアル・データベース・ユーザー名です。
Discoverer Administrator チュートリアル以外のレッスンで Discoverer Administrator に接続するときには、この名前を使用します。

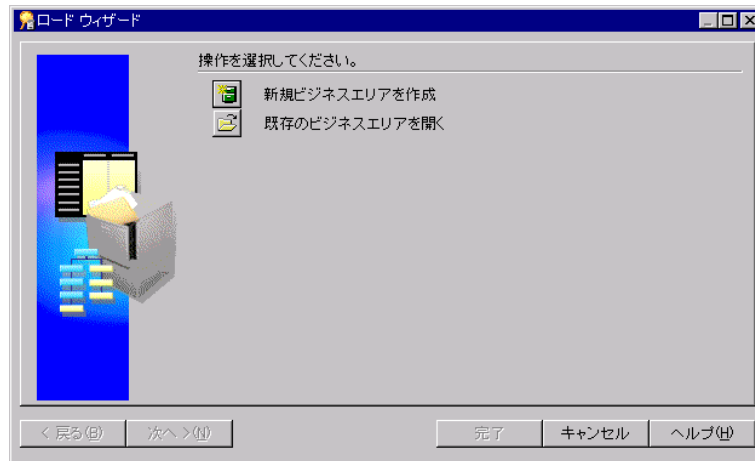
3. 「パスワード」フィールドに、チュートリアル・データベース・ユーザーのパスワード（レッスン 1 で指定）を入力します。

4. 「データベース」フィールドにデータベース接続文字列を入力します。

使用する接続文字列がわからない場合は、データベース管理者に問い合せてください。

5. 「接続」をクリックして「ロードウィザード」ダイアログを表示します。

図 3-2 「ロードウィザード」ダイアログ



Discoverer Administrator に接続後は、他のチュートリアル演習に進むことができます。

この演習では、レッスン 1 で作成したチュートリアル・データベース・ユーザーとして、Discoverer Administrator に接続しました。

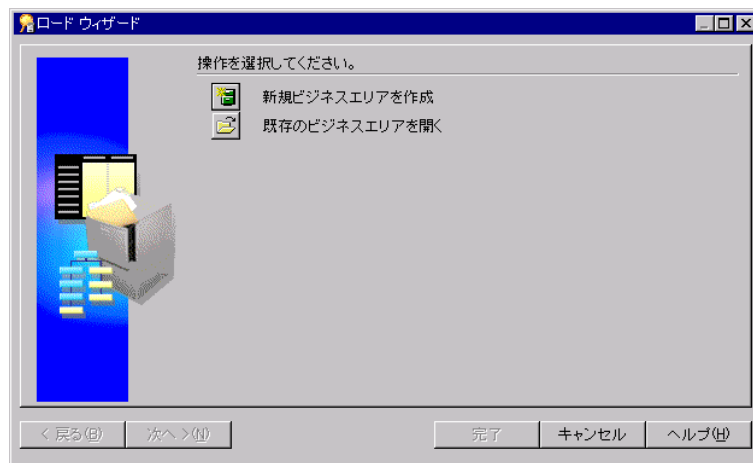
演習 2: ロード・ウィザードを使用した新規ビジネスエリアの作成

この演習では、チュートリアル用に作成された VIDEO5 表を使用して、新規ビジネスエリアを作成します。「ロードウィザード」の各ステップに表示される指示に従って操作します。

ロード・ウィザードを使用して新規ビジネスエリアを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ロードウィザード」ダイアログを表示します。

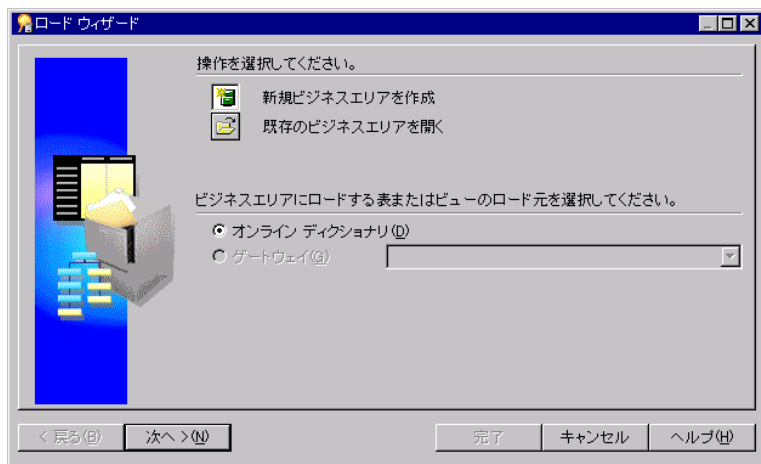
図 3-3 「ロードウィザード」ダイアログ



2. 「新規ビジネスエリアを作成」をクリックします。

データベースの表と列に関する情報のロード元を指定するようにプロンプトが表示されます。この情報は、メタデータと呼ばれます。

図 3-4 「ロード ウィザード」 ダイアログ



3. 「オンラインディクショナリ」ラジオ・ボタンを選択します。

通常は、オンライン・ディクショナリから、Oracle データベースの表と列に関する情報を取得します。

4. 「次へ」をクリックすると、「ロード ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

「ロード ウィザード ステップ 2」では、データベース・リンクを指定し（必要な場合）、ビジネスエリアに含める表を所有するデータベース・ユーザーを識別できます。

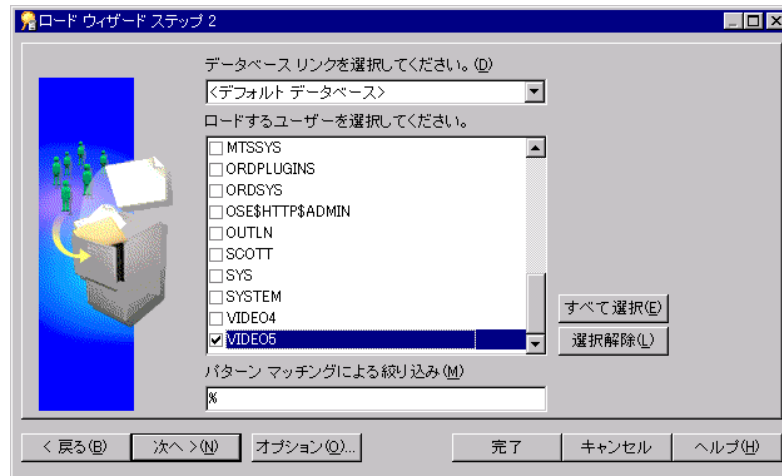
図 3-5 「ロード ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



5. 「データベース リンクを選択してください。」ドロップダウン・リストから「デフォルト データベース」が選択されていることを確認します。
6. VIDEO5 データベース・ユーザーの隣のチェックボックスを選択して、このユーザーが所有するオブジェクトを新規ビジネスエリアに含めるように指定します。
7. 「パターン マッチングによる絞り込み」フィールドに % 記号が指定されていることを確認します。

% 記号はワイルドカードです。% ワイルドカードを使用すると、選択したデータベース・ユーザーに属する表とビューをすべて含めるように指定したことになります。
8. 先に進む前に、「ロード ウィザード ステップ 2」ダイアログが次のように設定されていることを確認します。

図 3-6 「ロード ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



9. 「次へ」をクリックすると、「ロード ウィザード ステップ 3」ダイアログが表示されます。

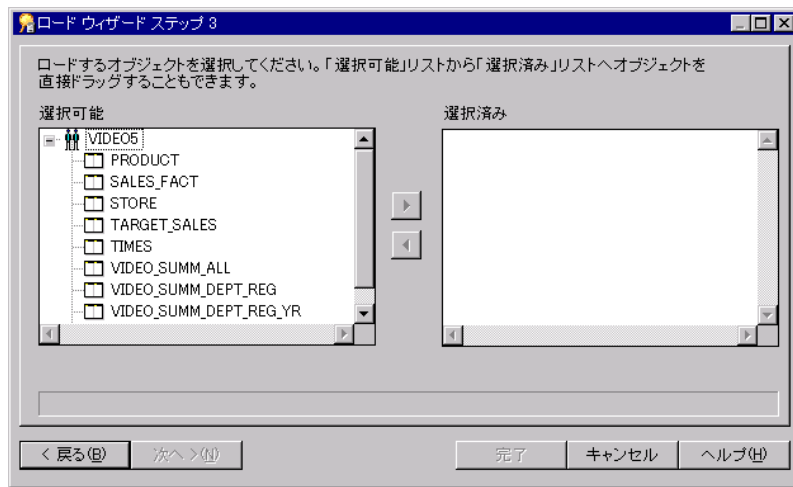
図 3-7 「ロード ウィザード ステップ 3」 ダイアログ



「ロードウィザードステップ3」ダイアログでは、新規ビジネスエリアに表とビューを個別に含めることができます。

10. VIDEO5 データベース・ユーザーの左のプラス記号 (+) をクリックして、このユーザーが所有する表を表示します。

図 3-8 「ロードウィザードステップ3」ダイアログ



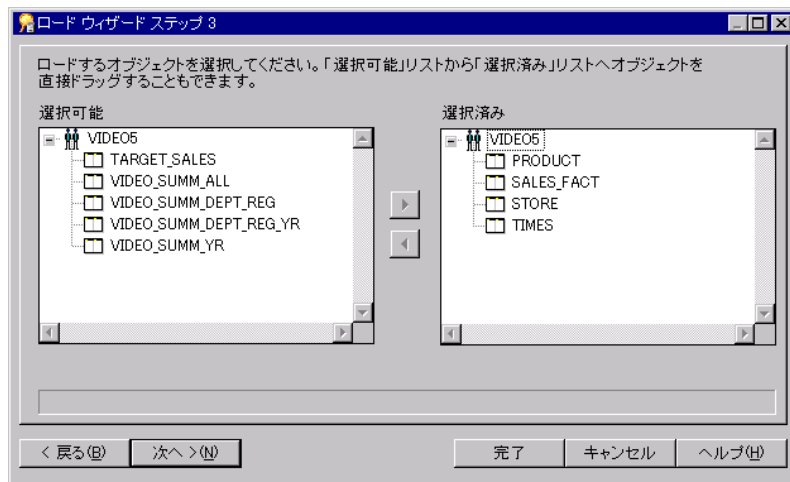
「選択可能」リストに、VIDEO5 データベース・ユーザーが所有するすべてのオブジェクトが表示されます。これらのオブジェクトがすべて表示されるのは、「ロードウィザードステップ2」ダイアログで % ワイルドカードを使用したためです。

11. ビジネスエリアにロードする次の表を、「選択可能」リストから「選択済み」リストに移動します。

- PRODUCT
- STORE
- TIMES
- SALES_FACT

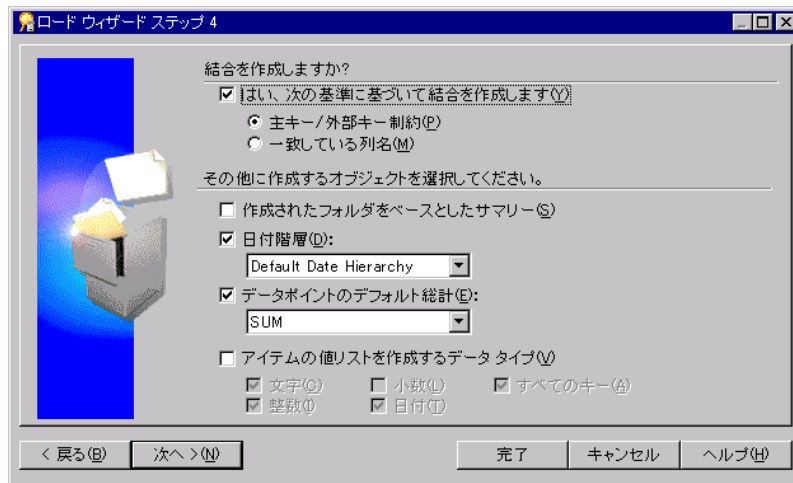
同時に複数の表を選択するには、[Ctrl] キーを押しながら別の表をクリックします。

図 3-9 「ロード ウィザード ステップ 3」 ダイアログ



12. 「次へ」をクリックすると、「ロード ウィザード ステップ 4」ダイアログが表示されます。

図 3-10 「ロード ウィザード ステップ 4」 ダイアログ

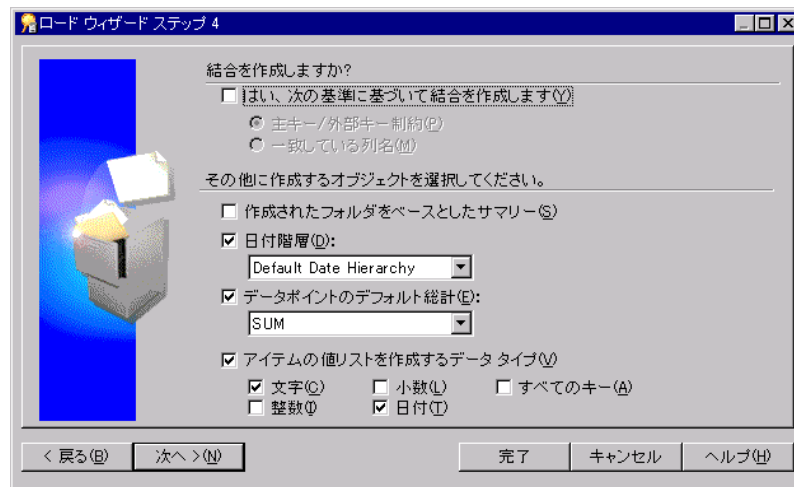


「ロードウィザードステップ 4」では、新規ビジネスエリア用の階層、値リストおよび結合を自動的に生成できます。それぞれのプロパティは、ユーザーのニーズにあわせて後で変更できます。

注意：このダイアログに含まれるコントロールの詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

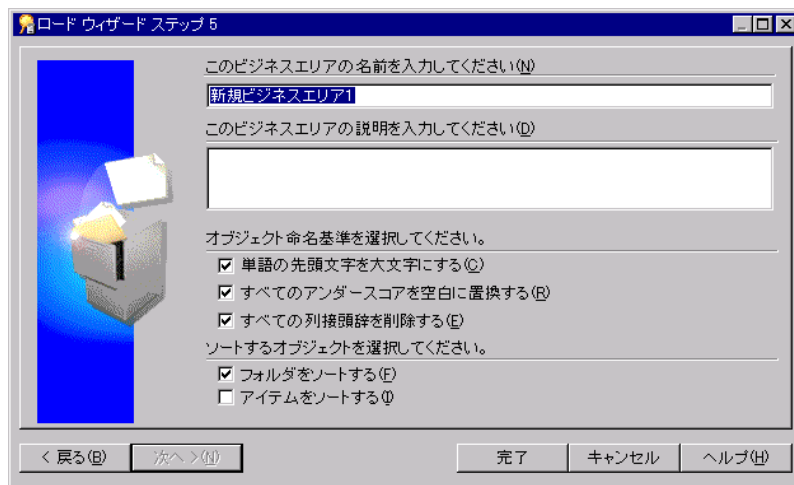
13. 次のチェックボックスを選択解除します。
 - 「はい、次の基準に基づいて結合を作成します」 チェックボックス（結合は、「[レッスン 6: 結合の作成](#)」で手動で作成します。）
 - 「作成されたフォルダをベースとしたサマリー」 チェックボックス
14. 「日付階層：」 チェックボックスを選択します（ドロップダウン・リストのデフォルト値は変更しないでください）。
15. 「データポイントのデフォルト総計：」 チェックボックスを選択します（ドロップダウン・リストのデフォルト値は変更しないでください）。
16. 「アイテムの値リストを作成するデータ タイプ」 チェックボックスを選択し、Discoverer Administrator で文字アイテムと日付アイテムの値リストが次のように作成されるように指定します。
 - 次のチェックボックスを選択解除します。
 - 「小数」 チェックボックス
 - 「すべてのキー」 チェックボックス
 - 「整数」 チェックボックス
 - 次のチェックボックスを選択します。
 - 「文字」 チェックボックス
 - 「日付」 チェックボックス
17. 「ロードウィザードステップ 4」 ダイアログに、設定が次のように表示されていることを確認します。

図 3-11 「ロード ウィザードステップ 4」 ダイアログ



18. 「次へ」をクリックすると、「ロード ウィザード ステップ 5」ダイアログが表示されます。

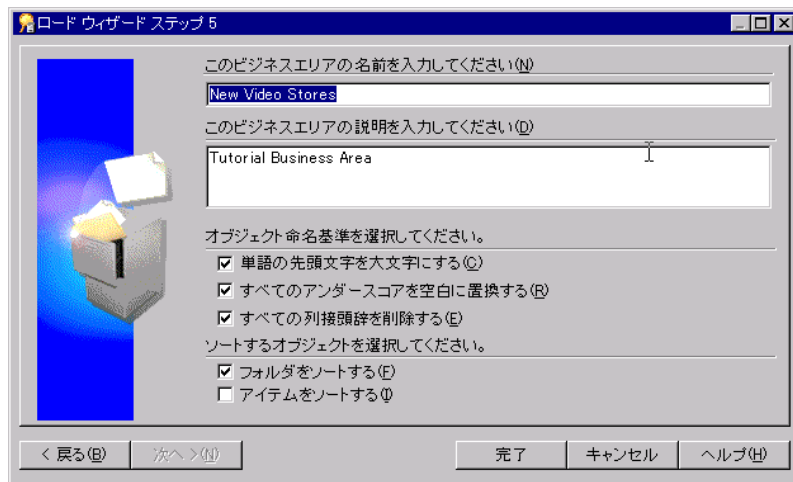
図 3-12 「ロード ウィザードステップ 5」 ダイアログ



「ロードウィザードステップ5」ダイアログでは、ビジネスエリア名を指定し、オブジェクト名を生成し、フォルダとアイテムをソートできます。

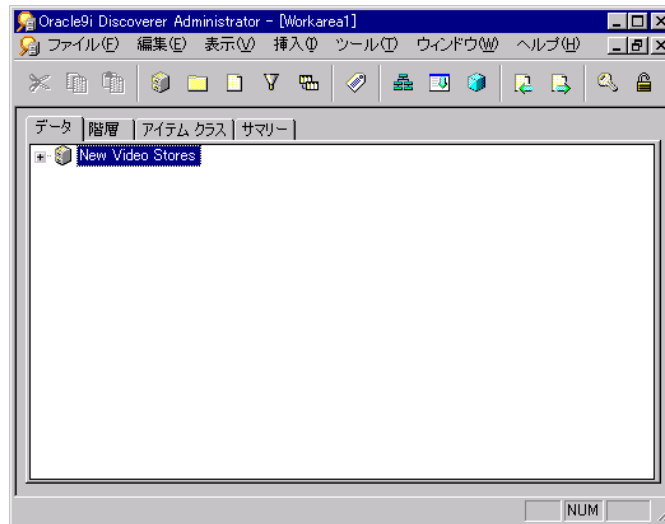
19. 「このビジネスエリアの名前を入力してください」フィールドに「New Video Stores」と入力します。
20. 「このビジネスエリアの説明を入力してください」フィールドに「Tutorial Business Area」と入力します。
21. 次のチェックボックスを選択して、データベース・オブジェクト名からフォルダ名とアイテム名を作成する方法を指定します。
 - 「単語の先頭文字を大文字にする」チェックボックス
 - 「すべてのアンダースコアを空白に置換する」チェックボックス
 - 「すべての列接頭辞を削除する」チェックボックス
22. フォルダとアイテムの内容をソートするかどうかを次のように指定します。
 - 「フォルダをソートする」チェックボックスを選択します。
 - 「アイテムをソートする」チェックボックスを選択解除します。
23. 先に進む前に、「ロードウィザードステップ5」ダイアログが次のように設定されていることを確認します。

図 3-13 「ロードウィザードステップ5」ダイアログ



24. 「完了」をクリックすると、新規ビジネスエリアが作成されます。
ビジネスエリアの作成中には、進行状況バーが表示されます。
ビジネスエリアの作成後に、「ワークエリア」が表示されます。

図 3-14 Discoverer Administrator の「ワークエリア」の「データ」タブ



この演習では、チュートリアル用に作成された VIDEO5 表を使用して、Discoverer Administrator で新規ビジネスエリアを作成しました。

次の演習では、「ワークエリア」の情報を取得します。

演習 3: 「ワークエリア」の情報の取得

この演習では、「ワークエリア」の「データ」タブに表示されるフォルダ、アイテム、値リストおよび「Administration Edition タスクリスト」を調べます。

「ワークエリア」の他のタブについては、以降のチュートリアルレッスンで調べます。

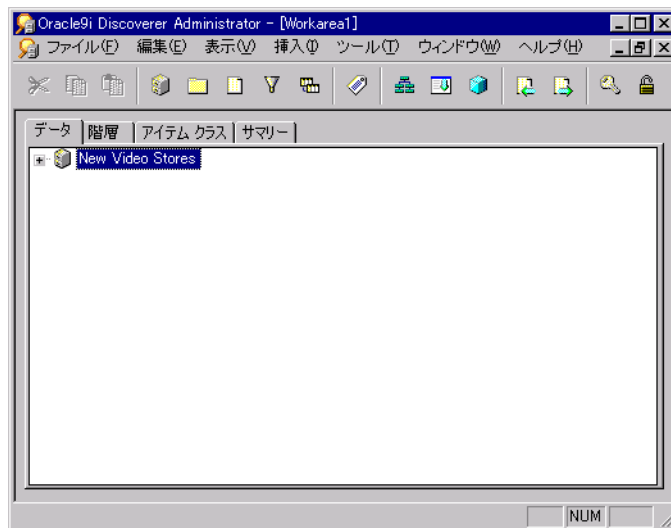
「ワークエリア」上部にある 4 つのタブを使用すると、「ワークエリア」の各ページにアクセスできます。各タブでは、ビジネスエリアの様々な設計要素を操作できます。

「ワークエリア」はビジネスエリアの主要ビューであり、ここでフォルダとアイテムを変更し、エンド・ユーザー用にデータのビジネス・ビューを作成します。

「ワークエリア」の「データ」タブの情報を取得する手順は、次のとおりです。

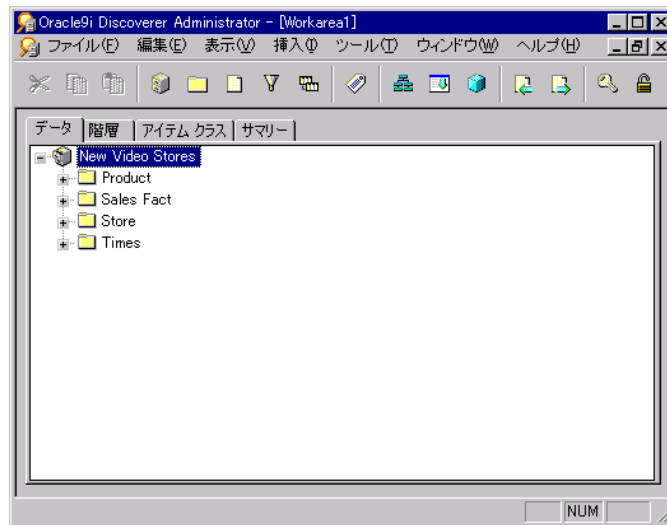
1. まだ表示されていない場合は、「ワークエリア」の「データ」タブを表示します。

図 3-15 Discoverer Administrator の「ワークエリア」の「データ」タブ



2. 「New Video Stores」ビジネスエリアの左のプラス記号 (+) をクリックして、ビジネスエリア内のフォルダを表示します。

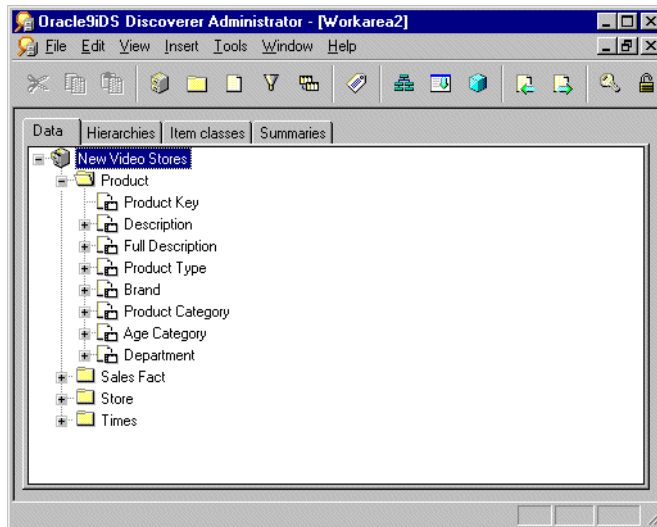
図 3-16 Discoverer Administrator の「ワークエリア」の「データ」タブ



「New Video Stores」ビジネスエリア内の各フォルダは、「[演習 2: ロード・ウィザードを使用した新規ビジネスエリアの作成](#)」で VIDEO5 データベース・ユーザーからロードした表を表しています。

3. Product フォルダの左のプラス記号 (+) をクリックして、このフォルダ内のアイテムを表示します。

図 3-17 Discoverer Administrator の「ワークエリア」の「データ」タブ

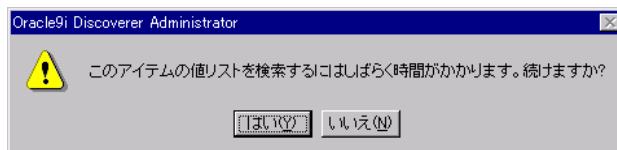


Product フォルダ内のアイテムは、Product データベース表の列を表します。

4. Description アイテム (図 3-17 を参照) の左のプラス記号 (+) をクリックして、「[演習 2: ロード・ウィザードを使用した新規ビジネスエリアの作成](#)」で Discoverer Administrator により作成された値リストを表示します。

アイテムの左のプラス記号 (+) を初めてクリックすると、警告ダイアログが表示されます。

図 3-18 警告ダイアログ



5. 「はい」をクリックして Description アイテムの値リストを表示します。

図 3-19 Discoverer Administrator の「ワークエリア」の「データ」タブ

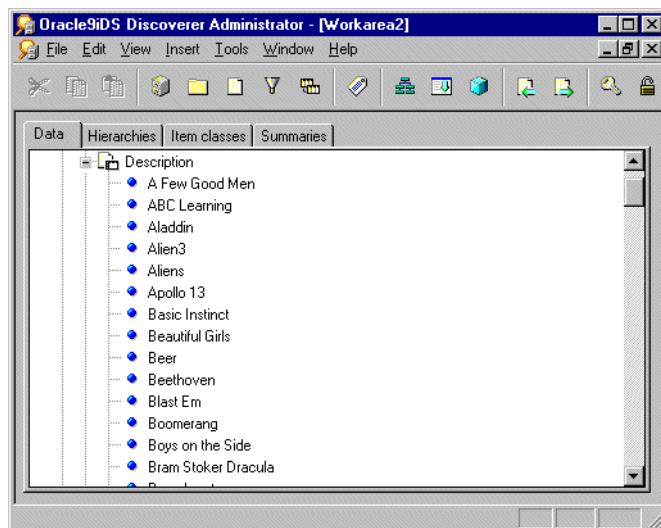
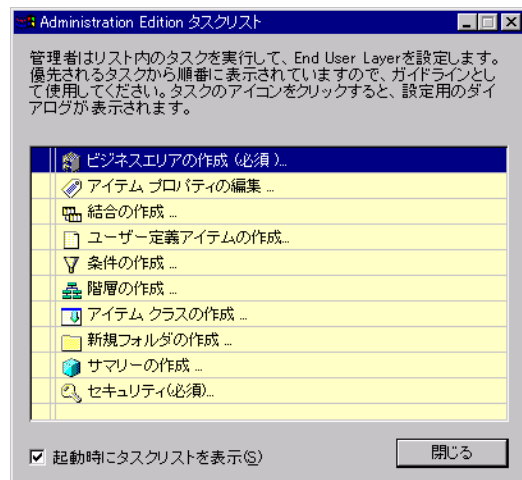


図 3-19 では、各製品の説明を示す値リスト（この例では、各ビデオ・テープの説明）が表示されています。

デフォルトでは、「Administration Edition タスクリスト」も表示されます。

図 3-20 「Administration Edition タスクリスト」



「Administration Edition タスクリスト」をビジネスエリアの基本的な準備手順の参考として使用し、表示される作業を対話形式で開始できます。このチュートリアルでは、「Administration Edition タスクリスト」を使用する必要はありません。ただし、進行状況を把握する上で役立ちます。

この演習では、「ワークエリア」の「データ」タブに表示されるフォルダ、アイテム、値リストおよび「Administration Edition タスクリスト」を調べました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、Discoverer Administrator に接続し、ビジネスエリアを作成して、「ワークエリア」の情報を取得しました。

次の演習では、アクセス権限を付与することで、ビジネスエリアのデータを Discoverer Plus および Discoverer Viewer のエンド・ユーザーが使用できるようにします。

レッスン 3: アクセス権限の付与

レッスン 3: アクセス権限の付与

このレッスンの所要時間は、約 15 分です。

このレッスンでは、ユーザーにアクセス権限を付与し、ビジネスエリアに対してセキュリティ・アクセス権を付与します。

アクセス権限により、ビジネスエリア内のデータを表示して使用できるユーザーが決定されます。「権限」ダイアログと「セキュリティ」ダイアログを使用して、適切なデータベース・ユーザーのアクセス権および権限を設定します。アプリケーションのデータベース表へのデータ・アクセス権は、データベース管理者により制御され、Discoverer Administrator の影響を受けません。データベース・ユーザーが Discoverer を使用するには、アプリケーションのデータベース表への SELECT アクセス権が必要です。

このチュートリアルでのビジネスエリアの作成者であり所有者は、データベース・ユーザー Administrator [イニシャル] です。他のユーザーに新規ビジネスエリアに対するアクセス権限を付与できるのは、このユーザーのみです。このユーザーは、管理権限も他のユーザーに付与できます。

「権限」および「セキュリティ」ダイアログを使用した作業の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「演習 1: 「権限」ダイアログの「ユーザー → 権限」タブの使用」
- 「演習 2: 「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブの使用」
- 「演習 3: 「権限」ダイアログの「問合せ管理」タブの使用」
- 「演習 4: 「権限」ダイアログの「スケジュールされたワークブック」タブの使用」
- 「演習 5: 「セキュリティ」ダイアログの「ビジネスエリア → ユーザー」タブの使用」

演習 1: 「権限」ダイアログの「ユーザー → 権限」タブの使用

この演習では、「権限」ダイアログの「ユーザー → 権限」タブを使用して、VIDEO5 データベース・ユーザーに「Desktop Edition の使用」（つまり Desktop/Discoverer Plus の使用）権限を付与します。

「権限」ダイアログでは、データベース・ユーザーにアクセス権限を付与できます。このダイアログには、4 つのタブ（「ユーザー → 権限」、「権限 → ユーザー」、「問合せ管理」および「スケジュールされたワークブック」）があります。

「ユーザー → 権限」タブには、Discoverer Administrator および Discoverer Plus で使用可能な権限のリストが表示されます。各権限の隣のチェックボックスを使用すると、指定したデータベース・ユーザーまたはロールに権限を付与したり、取消しできます。

「権限」ダイアログの「ユーザー → 権限」タブを使用する手順は、次のとおりです。

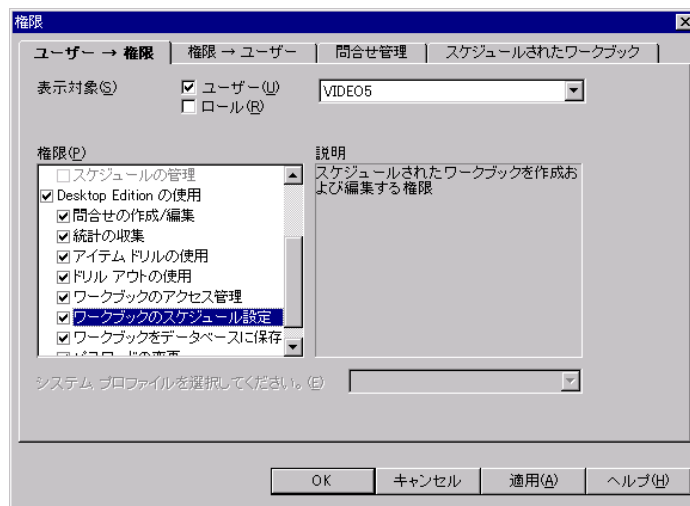
1. Discoverer Administrator に接続していない場合は、[第 3 章「演習 1: Discoverer Administrator への接続」](#)の説明に従って Discoverer Administrator の「ロードウィザード」を表示します。
2. 「キャンセル」をクリックして「ロードウィザード」ダイアログを終了します。
3. 「ツール」→「権限」を選択すると、「権限」ダイアログの「ユーザー → 権限」タブが表示されます。

このタブでは、データベース・ユーザーまたはロールにアクセス権限を付与できます。

- Discoverer Administrator では、データベース・ユーザーはユーザーとして表されます。
- データベース・ロールは Oracle データベースに定義されており、セキュリティ上の目的でユーザーをグループ化する手段です。

注意：データベース管理者は、データベース・ユーザーをロールに割り当て、そのロールを変更して、割当て済みのすべてのデータベース・ユーザーの権限に反映させることができます。Discoverer 管理者は、この方法を使用すると同じ権限セットを何度も再作成せずに済みます。たとえば、「Store Manager」のロールを使用してビデオ・ストア・チェーンのすべての管理者に同じ権限を割り当てることができます。

図 4-1 「権限」 ダイアログ: 「ユーザー → 権限」 タブ



4. 「ユーザー」 チェックボックスを選択します。
5. 「ロール」 チェックボックスを選択解除します。
6. ドロップダウン・リストから「VIDEO5」を選択します。
7. 「権限」 リストで、「Desktop Edition の使用」 チェックボックスを選択し、「Desktop Edition の使用」 ヘッダーの下の権限セットをアクティブにします。
8. 「Desktop Edition の使用」 チェックボックスの下位にある権限をすべて選択します。

注意： ロールとシステム・プロファイルは、Oracle データベースの機能です。Oracle 以外のデータベースを使用している場合、この機能は使用できません。また、「権限の設定」、「スケジュールの管理」、「ワークブックのスケジュール設定」および「パスワードの変更」の各権限は使用できません。

9. この時点では「OK」をクリックしないでください。

この演習では、「権限」 ダイアログの「ユーザー → 権限」タブを使用して、VIDEO5 データベース・ユーザー用の「Desktop Edition の使用」権限を設定しました。

演習 2: 「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブの使用

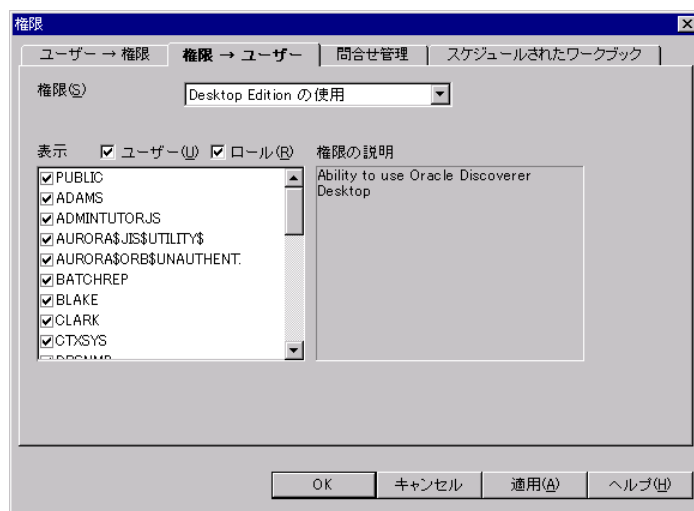
この演習では、「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブを使用します。

「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブには、すべてのデータベース・ユーザーおよびロールのリストが表示されます。各データベース・ユーザーまたはロールの隣のチェックボックスを使用すると、そのユーザーまたはロールに対して指定の権限を付与したり、取消しできます。

「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブを使用する手順は、次のとおりです。

1. 「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブを表示します。

図 4-2 「権限」ダイアログ: 「権限 → ユーザー」タブ



このタブには、指定した権限または権限セットへのアクセス権を持つユーザーとロールのリストが表示されます。このタブを使用して、特定のユーザーまたはロールにアクセス権限を付与したり、取消しできます。

2. ドロップダウン・リストから「Desktop Edition の使用」を選択します。
3. ユーザーとロールのリストから「VIDEO5」チェックボックスを選択します。

VIDEO5 データベース・ユーザーの「Desktop Edition の使用」権限を取り消す場合は、「VIDEO5」チェックボックスを選択解除します。

4. 「適用」をクリックします。この時点では「OK」をクリックしないでください。

この演習では、「権限」ダイアログの「権限 → ユーザー」タブを使用しました。

演習 3: 「権限」ダイアログの「問合せ管理」タブの使用

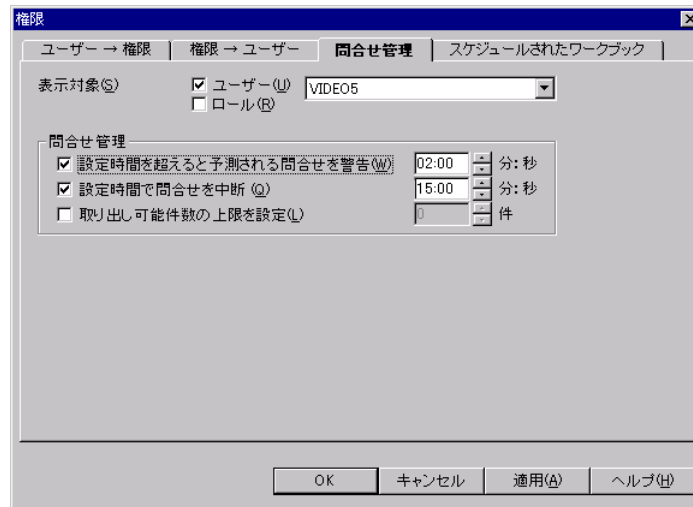
この演習では、データベース・ユーザー VIDEO5 の問合せ制限を設定します。

「権限」ダイアログの「問合せ管理」タブには、問合せの実行制限のリストが表示されます。このリストを使用して、指定したデータベース・ユーザーまたはロールの問合せ実行制限を設定できます。

データベース・ユーザー VIDEO5 の問合せ制限を設定する手順は、次のとおりです。

1. 「権限」ダイアログの「問合せ管理」タブを表示します。

図 4-3 「権限」ダイアログ: 「問合せ管理」タブ



このタブでは、指定したデータベース・ユーザーまたはロールの問合せ取だし制限を設定できます。この演習では、データベース・ユーザー VIDEO5 の問合せ制限を設定します。

2. 「ユーザー」チェックボックスを選択します。
3. 「ロール」チェックボックスを選択解除します。
4. ドロップダウン・リストから VIDEO5 データベース・ユーザーを選択します。

5. 問合せ取出し制限を次のように設定します。
 - 「設定時間を超えると予測される問合せを警告」 チェックボックスを選択し、時間を 2:00 分に設定します。
 - このオプションを使用できるのは、Oracle データベースを使用している場合のみです。
 - 「設定時間で問合せを中断」 チェックボックスを選択し、時間を 15:00 分に設定します。
 - 「取り出し可能件数の上限を設定」 チェックボックスは、上限が設定されないように選択解除します。
6. 「適用」をクリックします。この時点では「OK」をクリックしないでください。
この演習では、データベース・ユーザー VIDEO5 の問合せ制限を設定しました。

演習 4: 「権限」ダイアログの「スケジュールされたワークブック」タブの使用

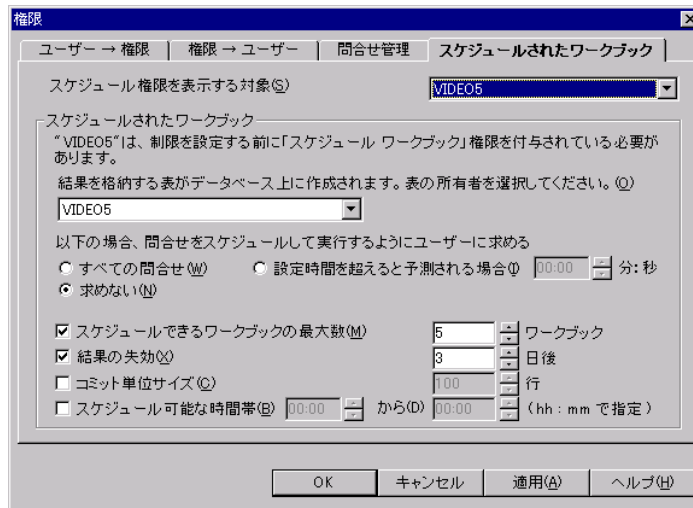
この演習では、Discoverer Plus および Desktop でのワークブックのスケジュールに関する制限を設定します。

「権限」ダイアログの「スケジュールされたワークブック」タブには、スケジュールされたワークブックの実行制限が表示されます。これにより、該当する権限を持つデータベース・ユーザーまたはロールごとに、ワークブックのスケジュールに関する様々なパラメータを設定できます。

Discoverer Plus および Desktop でのワークブックのスケジュール制限を設定する手順は、次のとおりです。

1. 「権限」ダイアログの「スケジュールされたワークブック」タブを表示します。

図 4-4 「権限」 ダイアログの「スケジュールされたワークブック」タブ



2. ダイアログの上部にあるドロップダウン・リストから、VIDEO5 データベース・ユーザーを選択します。
3. 「結果を格納する表がデータベース上に作成されます。表の所有者を選択してください。」ドロップダウン・リストから、VIDEO5 データベース・ユーザーを選択します。
4. 「以下の場合、問合せをスケジュールして実行するようにユーザーに求める」の下で「求めない」ラジオ・ボタンを選択します。
5. 「スケジュールできるワークブックの最大数」チェックボックスを選択し、最大数を 5 に設定します。
6. 「結果の失効」チェックボックスを選択し、日数を 3 日に設定します。
7. 次のチェックボックスを選択解除します。
 - 「コミット単位サイズ」
 - 「スケジュール可能な時間帯」
8. 「OK」をクリックします。

この演習では、Discoverer Plus および Desktop でのワークブックのスケジュールに関する制限を設定しました。

演習 5: 「セキュリティ」ダイアログの「ビジネスエリア → ユーザー」タブの使用

この演習では、VIDEO5 データベース・ユーザーに New Video Stores ビジネスエリアへのアクセス権限を付与します。

「セキュリティ」ダイアログには上位のセキュリティ・レベルが用意されており、特定のビジネスエリアを表示して使用できるデータベース・ユーザーを指定できます。

VIDEO5 データベース・ユーザーに New Video Stores ビジネスエリアへのアクセス権限を付与する手順は、次のとおりです。

1. 「ツール」→「セキュリティ」を選択して、「セキュリティ」ダイアログを表示します。
2. 「ビジネスエリア → ユーザー」タブを表示します。

図 4-5 「セキュリティ」ダイアログ: 「ビジネスエリア → ユーザー」タブ

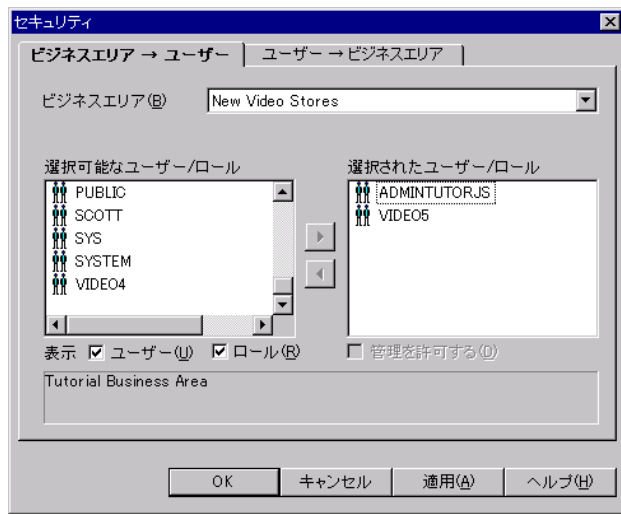


このタブでは、データベース・ユーザーに特定のビジネスエリアへのアクセス権限を付与できます。もう 1 つのタブ（「ユーザー → ビジネスエリア」）では、特定のデータベース・ユーザーに各種ビジネスエリアへのアクセス権限を付与できます。

注意: Discoverer Administrator では、EUL 所有者には New Video Stores ビジネスエリアへのアクセス権限が自動的に付与されます。これは、EUL 所有者がそのビジネスエリアの作成者および所有者であるためです。また、このようなセキュリティ上の変更や、他のユーザーに対する管理権限の付与ができるのは、EUL 所有者のみです。

3. VIDEO5 データベース・ユーザーを、「選択可能なユーザー／ロール」リストから「選択されたユーザー／ロール」リストに移動します。

図 4-6 「セキュリティ」ダイアログ: 「ビジネスエリア → ユーザー」タブ



4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

この演習では、VIDEO5 データベース・ユーザーに New Video Stores ビジネスエリアへのアクセス権限を付与しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、データベース・ユーザーにアクセス権限を付与し、New Video Stores ビジネスエリアを使用するためのセキュリティ・アクセス権限を付与しました。これにより、そのデータベース・ユーザーはビジネスエリアにアクセスして基本的なレポート処理を実行できるようになりました。つまり、データベース・ユーザーがアクセスできるビジネスエリアがあれば、Discoverer Plus と Discoverer Viewer の基本的な機能を使用できます。

このレッスンでは、次の演習を完了しました。

- 演習 1 では、ユーザーの権限を設定しました。
- 演習 2 では、データベース・ユーザーまたはロールの権限を表示しました。
- 演習 3 では、問合せ制限を設定しました。
- 演習 4 では、ワークブックのスケジュール制限を設定しました。
- 演習 5 では、データベース・ユーザーに New Video Stores ビジネスエリアを使用するための権限を付与しました。

次のレッスンでは、データについて使用しやすい拡張ビジネス・ビューをエンド・ユーザーに提供することで、ビジネスエリアの機能を拡張します。

レッスン 4: ビジネスエリアの変更

レッスン 4: ビジネスエリアの変更

このレッスンの所要時間は、約 10 分です。

このレッスンでは、エンド・ユーザーがアクセスする情報を識別しやすいように、ビジネスエリア内の情報にラベルを付けます。そのために、**New Video Stores** ビジネスエリアに説明を追加し、フォルダとアイテムが表すデータを明確に識別できるように、それぞれの名前を変更します。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「[演習 1: ビジネスエリアへの説明の追加](#)」
- 「[演習 2: フォルダの名前変更と説明の追加](#)」
- 「[演習 3: Time Information フォルダ内のアイテムの名前変更](#)」

演習 1: ビジネスエリアへの説明の追加

この演習では、ビジネスエリアに説明を追加します。

ビジネスエリアに関する説明があると、エンド・ユーザーはビジネスエリアの用途を理解しやすくなります。

ビジネスエリアに説明を追加する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示します。
2. 「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックします。
3. 「編集」→「プロパティ」を選択し、「ビジネスエリア プロパティ」ダイアログを表示します。

図 5-1 「ビジネスエリア プロパティ」 ダイアログ



4. 「説明」 フィールドをクリックし、「Stores Information for 1998, 1999 and 2000」と入力します。
5. 「OK」をクリックします。

ヒント: Discoverer の多数のダイアログには、「OK」ボタンと「適用」ボタンがあります。「適用」ボタンをクリックすると、変更内容は有効になりますが、ダイアログは閉じません。引き続き同じダイアログを使用して他のアイテムを変更できます。「OK」ボタンをクリックすると、変更内容が適用されてダイアログが閉じます。「**自動的に変更を保存**」チェックボックスを選択すると、「適用」ボタンをクリックしなくても変更内容が保存されます。

この演習では、ビジネスエリアに説明を追加しました。

演習 2: フォルダの名前変更と説明の追加

この演習では、フォルダの名前を変更して説明を追加します。

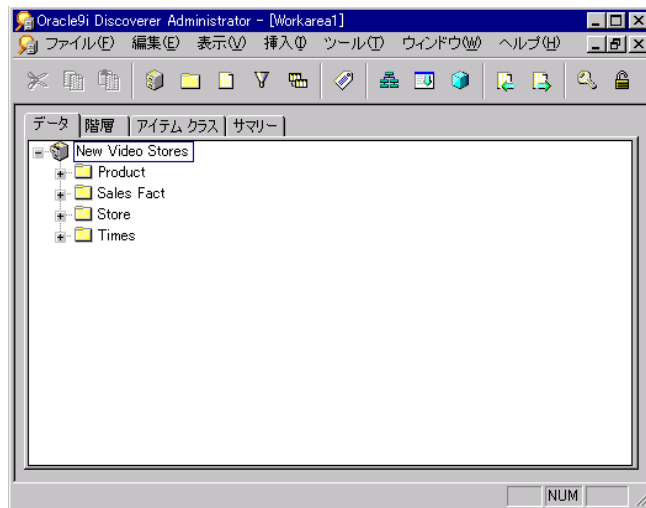
フォルダは、エンド・ユーザーにビジネスエリアの操作中表示される基本要素です。そのため、フォルダにはわかりやすい名前のみでなく、その主な用途を示す説明が必要です。

フォルダの名前を変更して説明を追加する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブで、New Video Stores ビジネスエリアの左のプラス記号 (+) をクリックします。

ビジネスエリア内のフォルダのリストが展開されます。

図 5-2 New Video Stores ビジネスエリアのフォルダ



2. 「ワークエリア」の「データ」タブで Store フォルダをクリックして「編集」→「プロパティ」を選択し、Store フォルダの「フォルダ プロパティ」ダイアログを表示します。

図 5-3 「フォルダ プロパティ」 ダイアログ



3. 「名前」 フィールドをクリックし、「Store」を「Store Information」に変更します。
4. 「説明」 フィールドをクリックし、「Store details including values such as name, floor plan type, and location」と入力します。
このフォルダ名と説明は、Discoverer Plus と Discoverer Viewer に表示されます。
5. 「適用」をクリックし、次の表の「新規フォルダ名」欄に示す新しいテキストを使用して、フォルダごとに前述の手順を繰り返します。

表 5-1 フォルダの名前変更

元のフォルダ名	新規フォルダ名
Product	Product Information
Sales Fact	Sales Details
Times	Time Information

6. フォルダの名前変更を終了した後、「OK」をクリックします。

ヒント:「プロパティ」ダイアログを開いたまま、「ワークエリア」で別のオブジェクトをクリックし、ビューをそのオブジェクトのプロパティに切り替えることができます。

フォルダに意味のある名前を付け、各フォルダの内容を示す説明を指定したため、エンド・ユーザーは新しい名前と説明を確認しながら、レポートに使用するフォルダを決定できるようになりました。

この演習では、フォルダの名前を変更して説明を追加しました。

演習 3: Time Information フォルダ内のアイテムの名前変更

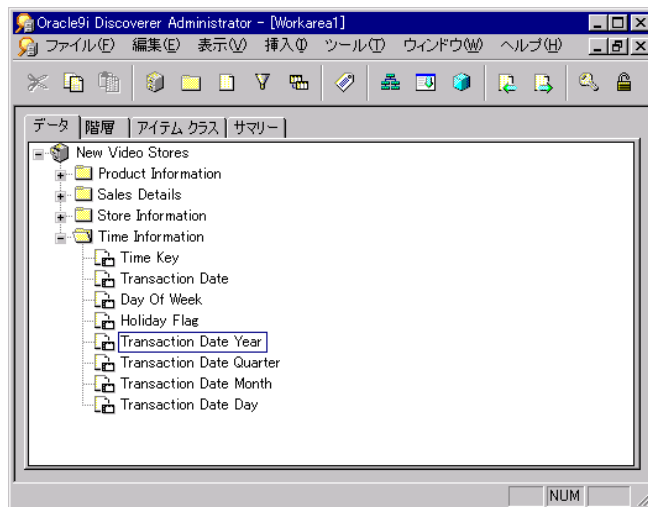
この演習では、Time Information フォルダ内のアイテムの名前を変更します。

通常、データベース列の名前は暗号化されており、エンド・ユーザーにはわかりにくくなっています。列がビジネスエリアにロードされると、それを表すアイテムには選択したオプションに応じて同じ名前が与えられます。フォルダ名を変更して説明を追加できるのと同様に、アイテム名を変更して説明を追加できます。

Time Information フォルダ内のアイテムの名前を変更する手順は、次のとおりです。

1. Time Information フォルダの左のプラス記号 (+) をクリックして、このフォルダ内のすべてのアイテムのリストを表示します。

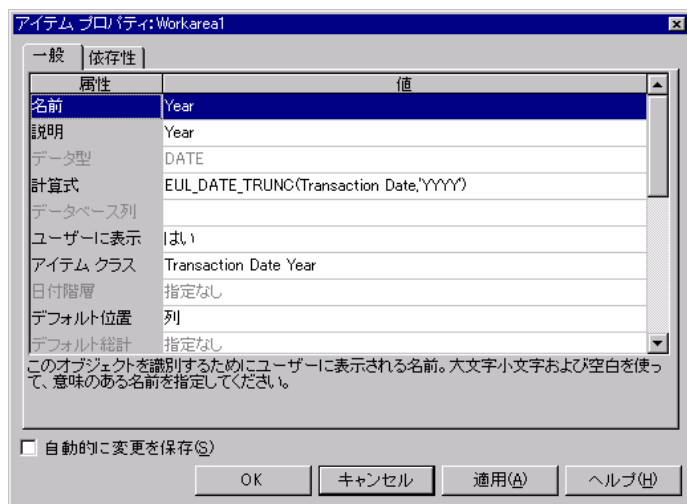
図 5-4 Time Information フォルダ内のアイテムの表示



2. 「ワークエリア」の「データ」タブで「Transaction Date Year」アイテムをクリックします。

3. 「編集」 → 「プロパティ」を選択して、「Transaction Date Year」アイテムの「アイテムプロパティ」ダイアログを表示します。
4. 「名前」フィールドをクリックし、「Transaction Date Year」を「Year」に変更します。
5. 「適用」をクリックします。

図 5-5 「アイテム プロパティ」ダイアログ：「一般」タブ



6. 他のアイテム名を次のように変更します。
 - 「Transaction Date Quarter」を「Quarter」に
 - 「Transaction Date Month」を「Month」に
 - 「Transaction Date Day」を「Day」に

「名前」フィールドの変更結果は、「ヘディング」フィールドにも自動的に登録されます（「ヘディング」フィールドは、スクロール・バーを使用しないと表示されない場合があります）。

説明も変更できます。ただし、日付または時刻関連アイテムの場合は、デフォルトの説明で十分です。
 7. アイテムの名前変更を終了後に「OK」をクリックします。
- この演習では、Time Information フォルダ内のアイテムの名前を変更しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、エンド・ユーザーがアクセスする情報を識別しやすいように、ビジネスエリア内の情報にラベルを付けました。

このレッスンでは、次の演習を完了しました。

- 演習 1 では、ビジネスエリアに説明を追加しました。
- 演習 2 では、フォルダの名前を変更して説明を追加しました。
- 演習 3 では、フォルダ内のアイテムの名前を変更して説明を追加しました。

次のレッスンでは、カスタム・フォルダを作成して、ビジネスエリアの機能をさらに拡張します。

レッスン 5: カスタム・フォルダを使用した作業

レッスン 5: カスタム・フォルダを使用した作業

このレッスンの所要時間は、約 5 分です。

このレッスンでは、カスタム・フォルダを作成し、カスタム・フォルダを定義する SQL 文の編集方法を学習して、ビジネスエリアの機能をさらに拡張します。

Discoverer フォルダはデータベース内のデータを参照する SQL 文であり、データベース・ビューと同様にデータを表します。この段階まで作業に使用してきた単純なフォルダは、End User Layer に格納されている SQL 文を参照します。

Discoverer Administrator では、指定した任意の SQL 文に基づいてカスタム・フォルダを作成できます。UNION、CONNECT BY、MINUS、INTERSECT などの集合演算子とシノニムを使用して、複雑な結果セットを表すカスタム・フォルダをすばやく設定できます。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「[演習 1: カスタム・フォルダの作成](#)」
- 「[演習 2: カスタム・フォルダ内の SQL 文の編集](#)」

演習 1: カスタム・フォルダの作成

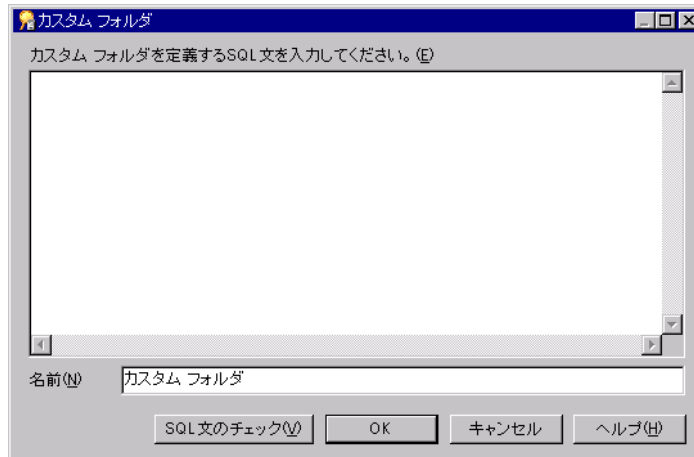
この演習では、少数の可能な値を持つアイテム用に EUL 内でローカルの値リストを作成する、カスタム・フォルダを作成します。この演習により、曜日をアルファベット順ではなく論理順に表示できます。作成する値リスト（曜日など）には、後でチュートリアルに使用する番号が付いています（詳細は、「[レッスン 7: アイテムのカスタマイズ](#)」を参照）。

SQL 文を使用して 2 つのアイテムを持つカスタム・フォルダを作成します。一方のアイテムは曜日を表す値リスト（DAY_OF_WEEK）で、他方は代替ソート順序を表します（ALTERNATE_SORT）。

カスタム・フォルダを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックします。
2. 「挿入」→「フォルダ」→「新規カスタム フォルダの作成」を選択すると、「カスタムフォルダ」ダイアログが表示されます。

図 6-1 「カスタム フォルダ」 ダイアログ



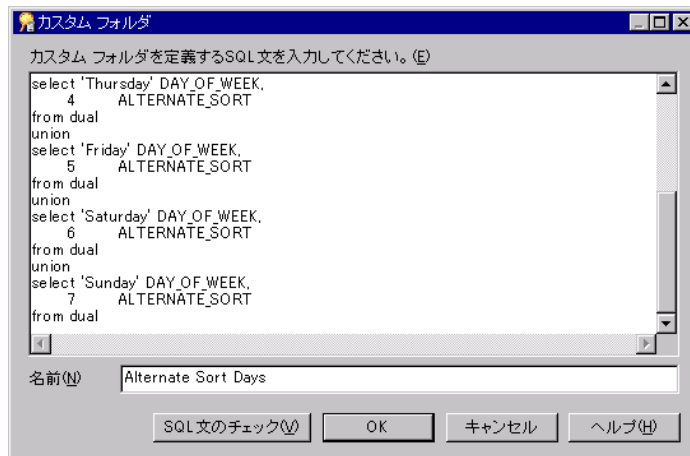
3. 次の SQL 文を「カスタム フォルダ」ダイアログに入力（またはカット・アンド・ペースト）します。

```
select 'Monday'   DAY_OF_WEEK,
       1          ALTERNATE_SORT
from dual
union
select 'Tuesday'  DAY_OF_WEEK,
       2          ALTERNATE_SORT
from dual
union
select 'Wednesday' DAY_OF_WEEK,
       3          ALTERNATE_SORT
from dual
union
select 'Thursday'  DAY_OF_WEEK,
       4          ALTERNATE_SORT
from dual
union
select 'Friday'    DAY_OF_WEEK,
       5          ALTERNATE_SORT
from dual
union
select 'Saturday'  DAY_OF_WEEK,
       6          ALTERNATE_SORT
from dual
```

```
union
select 'Sunday'    DAY_OF_WEEK,
       7          ALTERNATE_SORT
from dual
```

4. 「名前」フィールドに「Alternate Sort Days」と入力して、デフォルトのテキスト「カスタム フォルダ」を置き換えます。

図 6-2 「カスタム フォルダ」ダイアログ



5. 「SQL 文のチェック」をクリックします。

SQL 文がチェックされ、有効かどうかを示すプロンプトが表示されます。

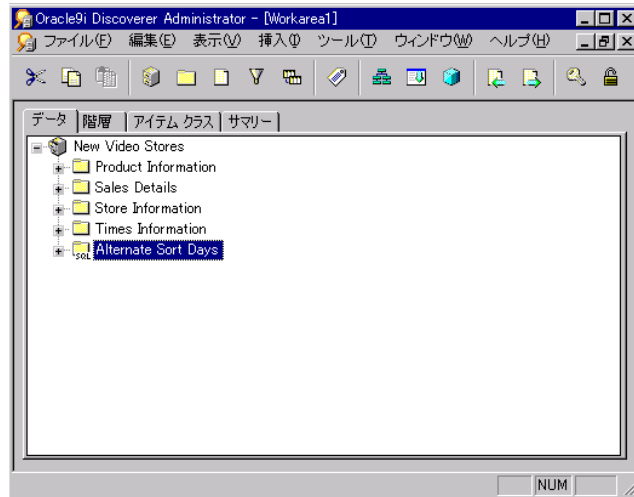
SQL 文が無効な場合は、次の手順で操作します。

 - a. 「OK」をクリックしてプロンプトを閉じます。
 - b. SQL 文を訂正します。
 - c. もう一度「SQL 文のチェック」をクリックします。

SQL 文が有効な場合は、次の手順で操作します。

 - a. 「OK」をクリックしてプロンプトを閉じます。
 - b. 「OK」をクリックして「カスタム フォルダ」を閉じると、カスタム・フォルダが作成されます。

図 6-3 「ワークエリア」: 「データ」タブ



新規カスタム・フォルダがビジネスエリアに表示されます。フォルダ・アイコン上の「SQL」というラベルに注意してください。このラベルは、これが単一フォルダや複合フォルダではなくカスタム・フォルダであることを示します。

この演習では、少数の可能な値を持つアイテム用に EUL 内でローカルの値リストを作成する、カスタム・フォルダを作成しました。

演習 2: カスタム・フォルダ内の SQL 文の編集

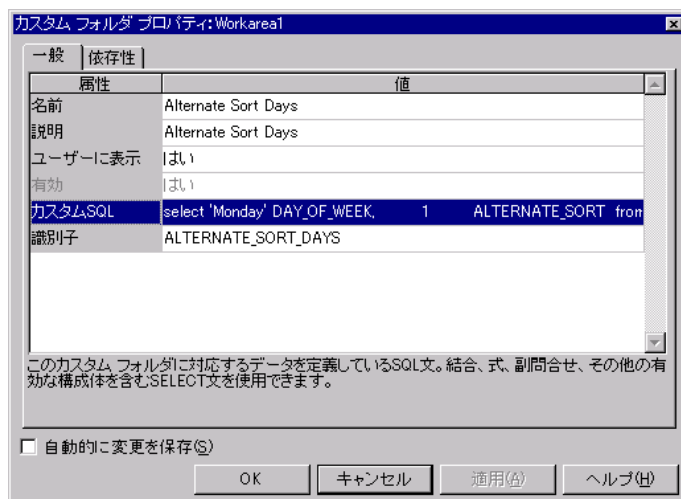
この演習では、カスタム・フォルダ内で SQL 文を編集する方法を学習します。

カスタム・フォルダ内の SQL 文を編集する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、「Alternate Sort Days」カスタム・フォルダをクリックします。
2. 「編集」→「プロパティ」を選択して、「カスタム フォルダ プロパティ」ダイアログを表示します。

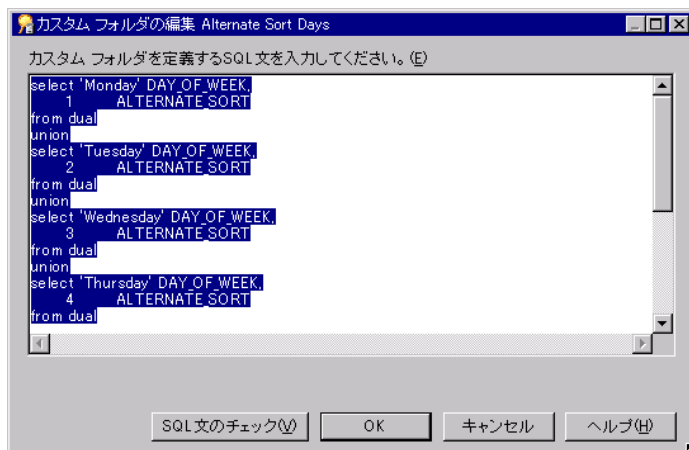
「カスタム SQL」フィールドに、フォルダを定義する SQL 文が表示されます。「カスタム フォルダ プロパティ」ダイアログのサイズを変更すると、より多くの SQL 文を表示させることができます。

図 6-4 「カスタム フォルダ プロパティ」 ダイアログ



3. 「カスタム SQL」 フィールドをクリックして、SQL 文を含む「カスタム フォルダの編集」ダイアログを表示します。

図 6-5 「カスタム フォルダの編集」 ダイアログ



この SQL 文は編集しないでください。この手順の目的は、必要に応じて SQL 文を編集する方法が理解できるように、「カスタム フォルダの編集」ダイアログへのアクセス方法を示すことです。

4. 「キャンセル」をクリックして「カスタム フォルダの編集」ダイアログを終了します。
5. 「キャンセル」をクリックして「カスタム フォルダプロパティ」ダイアログを終了します。

この演習では、カスタム・フォルダ内で SQL 文を編集する方法を学習しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、カスタム・フォルダを作成し、カスタム・フォルダを定義する SQL 文の編集方法を学習して、ビジネスエリアの機能をさらに拡張しました。

このレッスンでは、次の演習を完了しました。

- 演習 1 では、カスタム・フォルダを作成しました。
- 演習 2 では、カスタム・フォルダ内で SQL 文を編集する方法を学習しました。

次のレッスンでは、フォルダ間の結合を作成します。

レッスン 6: 結合の作成

レッスン 6: 結合の作成

このレッスンの所要時間は、約 10 分です。

このレッスンでは、ビジネスエリア内のフォルダ間に必要な結合を作成する方法を学習し、フォルダ間の関連付けを改善します。

通常、データ分析には複数のフォルダにある情報が必要です。複数のフォルダ間で分析を行うには、各フォルダを結合でリンクする必要があります。結合は、データベースおよびビジネスエリア設計の一部です。Discoverer 管理者は結合を作成して、エンド・ユーザーがビジネス分析に必要とする情報を提供できます。

注意：エンド・ユーザーは結合を作成できないため、エンド・ユーザーに複数フォルダからの情報を組み合わせたレポートを作成させる場合は、フォルダが結合されていることを確認する必要があります。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「[演習 1: ビジネスエリア内のフォルダ間の結合の作成](#)」

演習 1: ビジネスエリア内のフォルダ間の結合の作成

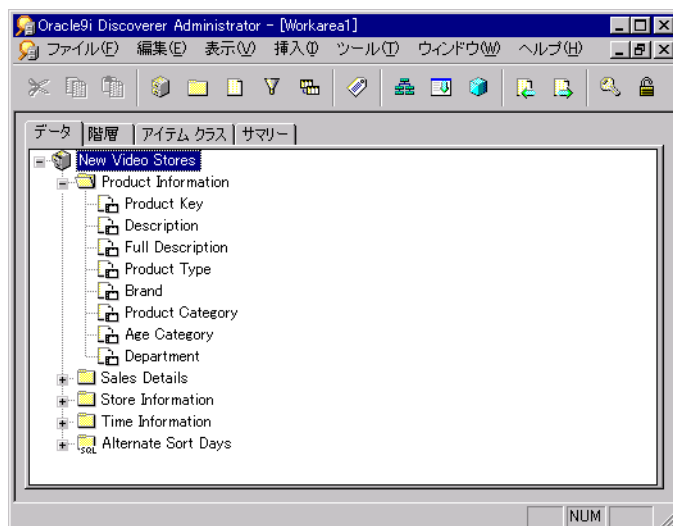
この演習では、「[レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続](#)」でロードしたフォルダ間でデータを関連付けて、ビジネスエリア内のフォルダ間に結合を作成します。

マスター表のキーをディテール表の対応するキーに結合し、各フォルダの結合を作成します。

フォルダ間に結合を作成する手順は、次のとおりです。

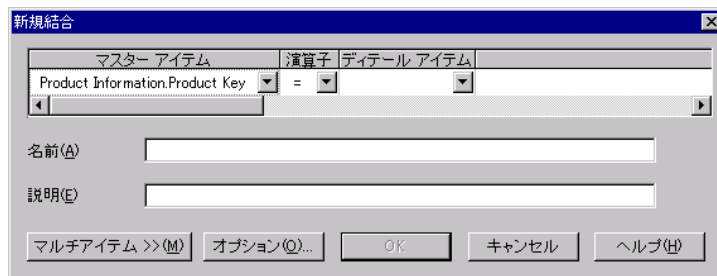
1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアの左のプラス記号 (+) をクリックしてフォルダを表示します。
2. Product Information フォルダの左のプラス記号 (+) をクリックしてアイテムを表示します。

図 7-1 「ワークエリア」: 「データ」タブ



3. 「Product Information.Product Key」 アイテムをクリックし、「挿入」 → 「結合」を選択して「新規結合」ダイアログを表示します。

図 7-2 「新規結合」ダイアログ



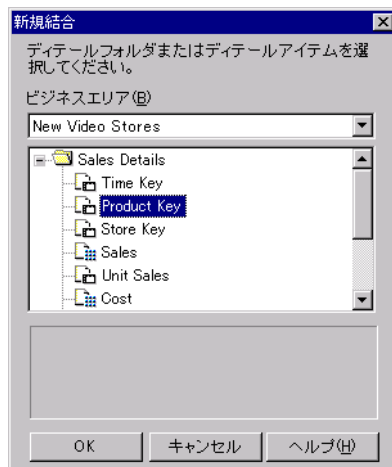
「新規結合」ダイアログには、「Product Information.Product Key」がマスター・アイテムとして表示されています。

4. 「演算子」ドロップダウン・リストから「=」（等号）を選択します。

作成できる結合のタイプが表示されます。等号は等価結合を表します。等価結合では、指定したアイテムに同じ値を持つ行が結合されます。

5. 「ディテールアイテム」ドロップダウン・リストをクリックして、2 番目の「新規結合」ダイアログを表示します。

図 7-3 「新規結合」ダイアログ



「新規結合」ダイアログには New Video Stores ビジネスエリア内のフォルダが表示され、結合のディテール部分として使用するフォルダとアイテムを選択できます。

6. 「Sales Details.Product Key」を選択します。
7. 「OK」をクリックすると、「新規結合」ダイアログの「ディテールアイテム」フィールドに「Sales Details.Product Key」が表示されます。

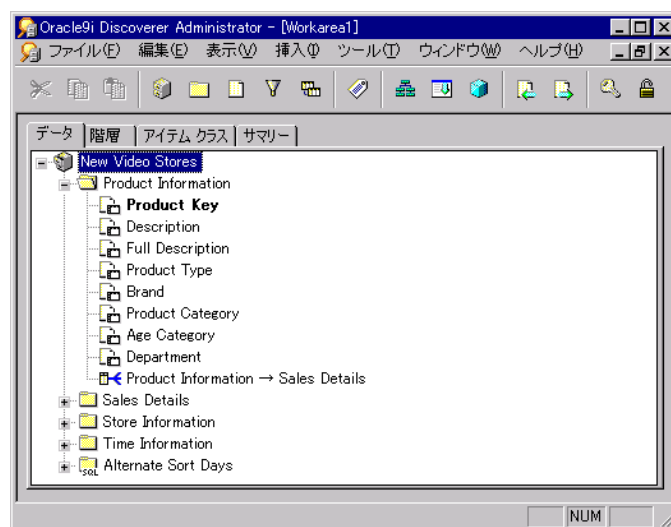
図 7-4 「新規結合」 ダイアログ



8. 「OK」をクリックすると、結合が Product Information フォルダ内のアイテムとして表示されます。

注意： 結合名を入力しなくても、「OK」をクリックすると Discoverer Administrator によりデフォルト名が自動的に作成されます。

図 7-5 「ワークエリア」：「データ」タブ



注意： Product Information フォルダの左に表示されているアイコンは、Product Information.Product Key がマスター・アイテムで、Sales Details.Product Key がディテール・アイテムであることを示します。この 1 対多の関係では、製品レコードごとに多数の売上詳細レコードがあります。

9. この演習の前述の手順を繰り返して、次のフォルダの結合を作成します。

- Store Information
- Time Information

注意：前述のフォルダの結合を作成する場合は、次の表のように適切なマスターおよびディテールのフォルダおよびキー値を使用してください。

表 7-1 作成する結合のマスターとディテールの関係

フォルダ名	必須のマスター・フォルダ およびキー	必須のディテール・フォルダ およびキー
Store Information:	Store Information.Store Key	Sales Details.Store Key
Time Information:	Time Information.Time Key	Sales Details.Time Key

Product Information、Store Information、Time Information および Sales Details の各フォルダ間の結合を作成後は、Discoverer Plus および Discoverer Viewer で分析に使用できます。

注意：フォルダを Discoverer Plus および Discoverer Viewer のエンド・ユーザーに使用可能にするには、Discoverer Administrator で結合を作成する必要があります。エンド・ユーザーがワークシートを作成するためにアイテムまたはフォルダを選択すると、選択されたフォルダと結合しているフォルダのみが使用可能になります。そのため、2つのフォルダ間に結合を作成しなければ、選択されていないフォルダもそのアイテムもワークシートには使用可能になりません。

結合の作成と編集の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

この演習では、「[レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続](#)」でロードしたフォルダ間でデータを関連付けて、ビジネスエリア内のフォルダ間に結合を作成しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、ビジネスエリア内のフォルダ間に必要な結合を作成する方法を学習し、フォルダ間の関連付けを改善しました。

このレッスンでは、次の演習を完了しました。

- ビジネスエリア内のフォルダ間に結合を作成しました。

次のレッスンでは、ビジネスエリア内のアイテムをカスタマイズする方法を学習します。

レッスン 7: アイテムのカスタマイズ

レッスン7: アイテムのカスタマイズ

このレッスンの所要時間は、約 20 分です。

このレッスンでは、ビジネスエリア内のアイテムをカスタマイズします。

Discoverer 管理者にとって、Discoverer Plus と Discoverer Viewer でエンド・ユーザーに何を表示するかのみでなく、情報が読みやすく、分析しやすくなるようにデータを表すことも重要です。このレッスンでは、エンド・ユーザーからアイテムを隠す方法、軸構造を変更する方法、値リストとその代替ソートを作成する方法を学習します。また、問合せとレポートに役立つ導出アイテムと集計ユーザー定義アイテムの作成方法についても学習します。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「[演習 1: ビジネスエリア内のアイテムの非表示化](#)」
- 「[演習 2: アイテムの表示軸と表示順序の設定](#)」
- 「[演習 3: 値リストの作成](#)」
- 「[演習 4: 値リストのアイテム・クラスの表示](#)」
- 「[演習 5: 代替ソートの作成](#)」
- 「[演習 6: 代替ソート・アイテム・クラスの表示](#)」
- 「[演習 7: 新規ユーザー定義アイテムの作成](#)」
- 「[他のユーザー定義アイテムの例](#)」

演習 1: ビジネスエリア内のアイテムの非表示化

この演習では、エンド・ユーザーに見えないようにビジネスエリア内のアイテムを非表示にします。

ビジネスエリアには、エンド・ユーザーが見る必要のないアイテムが含まれている場合があります（主キーや外部キーなど）。また、賃金表および就業期間などの機密情報や計算に使用される一部のアイテムは、エンド・ユーザーに対して表示するには不適切な場合があります。次の表に示すアイテムは、結合条件に使用されるためビジネスエリアには不可欠ですが、ビジネス・ユーザーにとっては興味の対象外です。

アイテムを非表示にしても、削除されるわけではなくビジネスエリアに残り、単にエンド・ユーザーに表示されなくなります。ただし、削除されたアイテムは、ビジネスエリアからも削除されます。

通常は、エンド・ユーザーが問い合わせる必要のないアイテムをすべて非表示にすることをお勧めします。これにより、エンド・ユーザーに表示されるアイテムのリストが短くなり、対象を探しやすくなります。

次の表に、New Video Stores ビジネスエリアのフォルダ内で非表示になっている典型的なアイテムを示します。

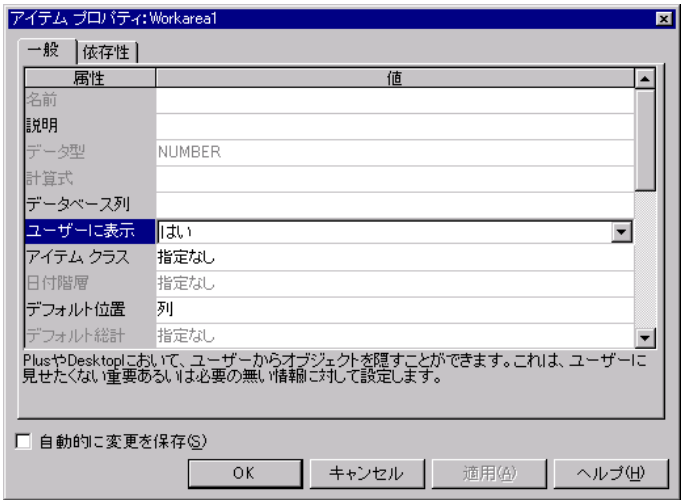
表 8-1 非表示のアイテム

フォルダ	アイテム
Product Information	Product Key
Time Information	Time Key
Store Information	Store Key
Sales Details	Time Key
	Product Key
	Store Key

エンド・ユーザーに対してキー・アイテムを非表示にする手順は、次のとおりです。

1. [Ctrl] キーを押しながら各アイテムを順にクリックし、次のアイテムをすべて選択します。
 - Product Information.Product Key
 - Time Information.Time Key
 - Store Information.Store Key
 - Sales Details.Time Key
 - Sales Details.Product Key
 - Sales Details.Store Key
2. 選択したアイテムの 1 つを右クリックし、ポップアップ・メニューから「プロパティ」を選択して、「アイテム プロパティ」ダイアログを表示します。

図 8-1 「アイテム プロパティ」 ダイアログ



「アイテム プロパティ」 ダイアログに、選択した各アイテムに共通するプロパティが表示されます。

- 3. 「ユーザーに表示」 フィールドを「いいえ」に設定します。
- 4. 「OK」 をクリックします。

注意： ユーザーに対して非表示のアイテムはグレー表示されます。

この演習では、エンド・ユーザーに見えないようにビジネスエリア内のアイテムを非表示にしました。

演習 2: アイテムの表示軸と表示順序の設定

この演習では、アイテムのデフォルトの軸位置を設定し、Discoverer Plus で表示軸を再配置する方法を学習します。

Discoverer Plus のクロス集計ワークシートでは、上軸、横軸およびページ軸という 3 つの軸に沿ってデータを表示できます（詳細は、次の図を参照）。Discoverer Administrator では、各アイテムのデフォルトの軸を指定できます。デフォルトの軸を指定しても、エンド・ユーザーはデータ分析中にアイテムを軸間で切替えます。

アイテムのデフォルト位置を横軸に設定し、表示軸を再配置する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、「Store Information.Region」アイテムをクリックします。
2. 「編集」→「プロパティ」を選択して、「Store Information.Region」アイテムの「アイテム プロパティ」ダイアログを表示します。
3. 「デフォルト位置」フィールドをクリックし、ドロップダウン・リストから「行」を選択します。

図 8-2 「アイテム プロパティ」ダイアログ



4. 「OK」をクリックして、「Store Information.Region」アイテムのデフォルト位置を横軸に設定します。

Discoverer Plus では、エンド・ユーザーは各軸を再配置して、Discoverer Administrator で作成された設定を上書きできます。次の図に、「ワークブック ウィザード ステップ 3」を示します。ここで、エンド・ユーザーは各軸を再配置できます。

図 8-3 「ワークブック ウィザード」 – Discoverer Plus での表示軸の再配置

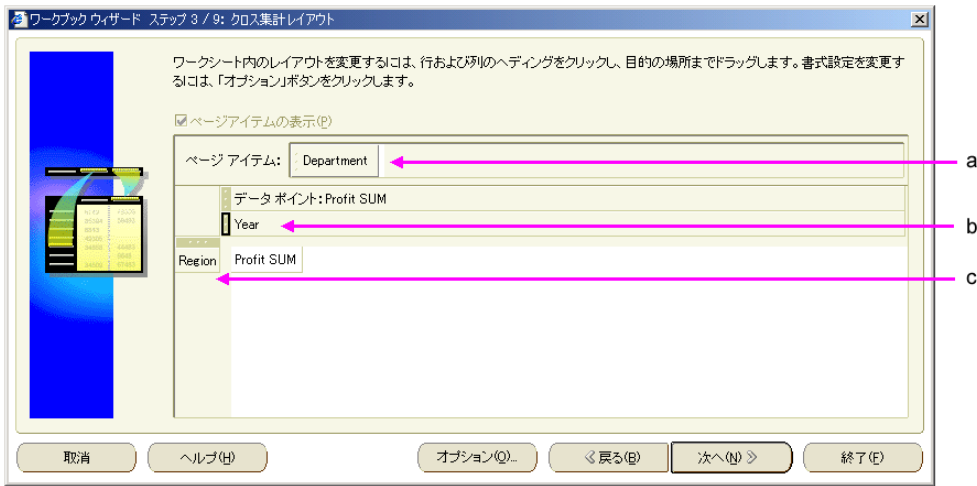
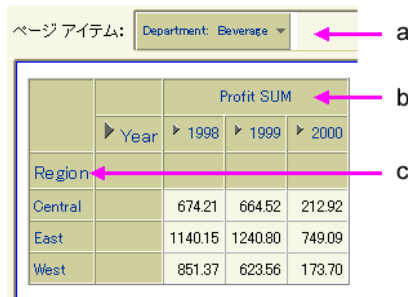


図 8-4 Discoverer Plus による軸の表示方法を示すサンプル・ワークブック



前述の図は、「ワークブック ウィザード」で再配置された軸アイテムが、Discoverer Plus のワークシートにどのように表示されるかを示しています。

前述の図では、次のことに注意してください。

- a. ページ軸
- b. 上軸
- c. 横軸

この演習では、アイテムのデフォルトの軸位置を設定し、Discoverer Plus で表示軸を再配置する方法を学習しました。

演習 3: 値リストの作成

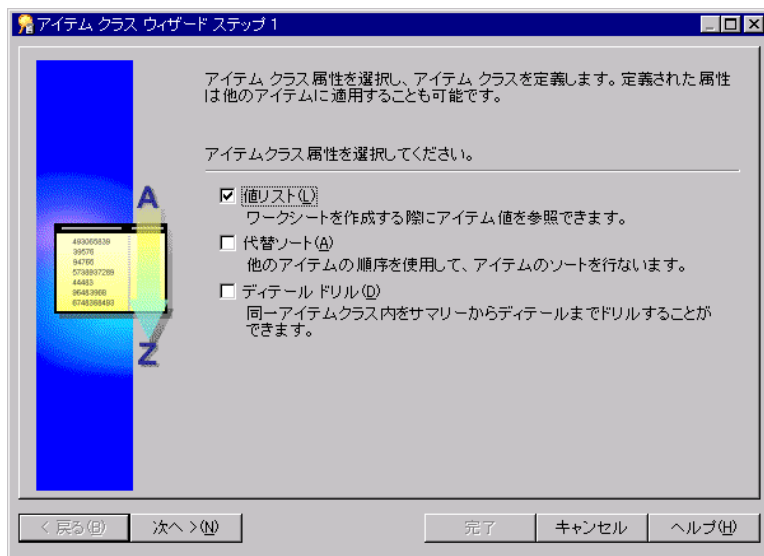
この演習では、New Video Stores ビジネスエリア内の各部門名を表示する値リストを作成します。

値リストを作成するには、アイテム・クラスを使用します。このチュートリアルで使用するアイテム・クラスのほとんどは、「[レッスン 2: ロード・ウィザードと「ワークエリア」を使用した Discoverer Administrator への接続](#)」で EUL をロードしたときに自動的に生成されています。ただし、アイテムが表す一意のデータ値のリストを含む新規アイテム・クラスを作成できます。

値リストを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「アイテム クラス」タブを表示します。
2. 「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックし、「挿入」→「アイテム クラス」を選択して「アイテム クラス ウィザード ステップ 1」ダイアログを表示します。
3. 「値リスト」チェックボックスを選択します。
4. 「代替ソート」チェックボックスを選択解除します。
5. 「ディテール ドリル」チェックボックスを選択解除します。

図 8-5 「アイテム クラス ウィザード ステップ 1」 ダイアログ



6. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ 2」 ダイアログが表示されます。

図 8-6 「アイテム クラス ウィザード ステップ2」 ダイアログ



7. 「Product Information.Department」 アイテムを選択します。
これは、Discoverer で新規アイテム・クラスの値リストを作成するためのソースとして使用されます。
8. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ3」 ダイアログが表示されます。

図 8-7 「アイテム クラス ウィザード ステップ 3」 ダイアログ



9. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ 4」 ダイアログが表示されます。

図 8-8 「アイテム クラス ウィザード ステップ 4」 ダイアログ



10. 「値をソートして重複を取り除く」 チェックボックスを選択します。

11. 「値をワークシート・ウィザードの「アイテムの選択」ページで表示」チェックボックスを選択します。
12. 「値の検索を毎回行う」チェックボックスを選択解除します。
13. 「接続している間、値リストをキャッシュする」チェックボックスを選択します。
14. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ 5」ダイアログが表示されます。
15. 「アイテム クラスの名前」フィールドに「Departments」と入力します。
16. 「説明」フィールドに「Video Store Sales and Rentals」と入力します。

図 8-9 「アイテム クラス ウィザード ステップ 5」ダイアログ



17. 「完了」をクリックすると、Discoverer Administrator により新規アイテム・クラス Departments が作成されます。

この演習では、New Video Stores ビジネスエリア内の各部門名を表示する値リストを作成しました。

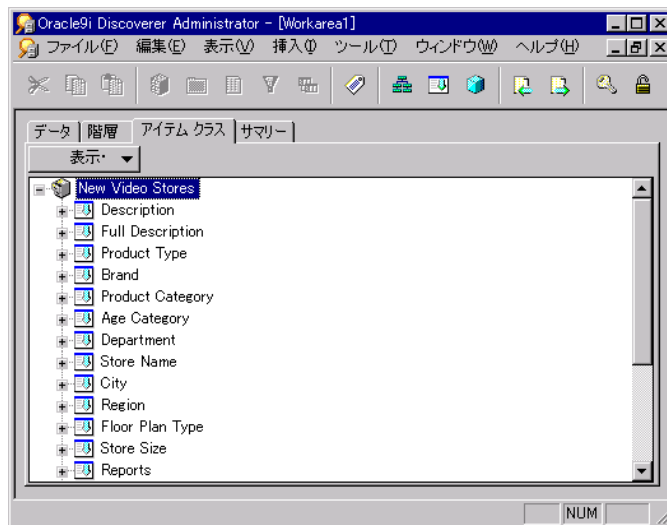
演習 4: 値リストのアイテム・クラスの表示

この演習では、前の演習で作成した値リスト（LOV）のアイテム・クラスを表示します。

前の演習で作成した値リストのアイテム・クラスを表示する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「アイテム クラス」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアの左のプラス記号（+）をクリックして、このビジネスエリア内のすべてのアイテム・クラスを表示します。

図 8-10 「ワークエリア」: 「アイテム クラス」タブ



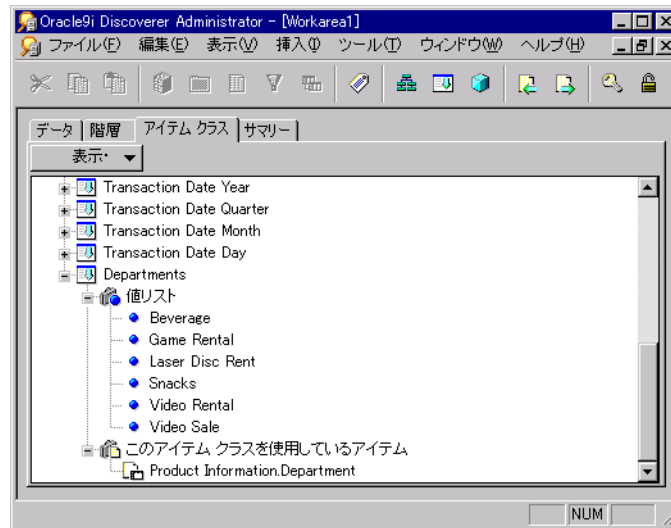
2. 「Departments」アイテム・クラスが表示されるまでアイテム・クラスを下へスクロールします。
3. 作成した「Departments」アイテム・クラスの左のプラス記号（+）をクリックします。
4. 「値リスト」の左のプラス記号（+）をクリックし、このアイテム・クラス（Departments など）の値を表示します。

注意: 値リストを作成するために、Discoverer Administrator ではデータベースから関連表の各行が読み込まれます。表に多数の行がある場合は、値リストが作成されるまでに時間がかかることがあります。その場合は、Discoverer Administrator により続行するかどうかを確認する警告メッセージが表示されます。

5. 「はい」をクリックします。

6. 「このアイテム クラスを使用しているアイテム」の左のプラス記号 (+) をクリックし、このアイテム・クラスを使用するアイテムを表示します。

図 8-11 「ワークエリア」: 「アイテム クラス」タブ



この演習では、前の演習で作成した値リスト（LOV）のアイテム・クラスを表示しました。

エンド・ユーザーに表示される内容 : Discoverer Plus の値リストからの選択

Discoverer Plus では、エンド・ユーザーには Discoverer Administrator で作成された値リストが表示され、それを使用して条件を適用できます。

図 8-12 「ワークブック ウィザード」 – Discoverer Plus の値リストからのアイテム値の選択



ワークシートを作成すると、エンド・ユーザーは図 8-12 のように「使用可能」リストの値リストから特定のアイテム値を選択し、「選択済み」リストに移動して条件を作成します。

演習 5: 代替ソートの作成

この演習では、エンド・ユーザーが標準的でない方法で値リストのアイテムをソートできるように、代替ソートを作成します。

標準的なソートにはアルファベット順、数値順または時間順がありますが、標準外のソートは北=1、南=2、東=3および西=4、または月曜から始まる曜日順のように任意です。

Discoverer の代替ソートでは、別のアイテムにより提供される順序を使用して値リストが順序付けされます（ODBC データベースには適用されません）。

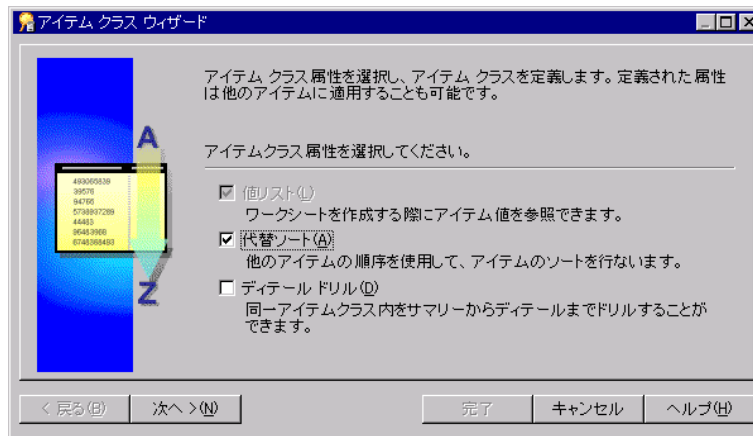
この演習では、Time Information フォルダの Days Of Week アイテム用に代替ソートを作成します。そのためには、代替ソートを定義する新規アイテム・クラスを作成して Days Of Week アイテムに適用します。使用する代替ソートは「Alternate Sort Days」で、これは前に作成したカスタム・フォルダです（詳細は、「[レッスン 5: カスタム・フォルダを使用した作業](#)」を参照）。

注意：代替ソート・アイテム・クラスの作成または編集時には、値リストに使用する列（アイテム）とソート順に使用する列（アイテム）の間に 1 対 1 の関係が存在している必要があります。代替ソート順序を機能させるには、2 つのアイテムを同じフォルダに置く必要があります。

代替ソートを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「挿入」→「アイテム クラス」を選択して、「アイテム クラス ウィザード」ダイアログを表示します。
2. 「代替ソート」チェックボックスを選択します。

図 8-13 「アイテム クラス ウィザード」ダイアログ



3. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

図 8-14 「アイテム クラス ウィザード ステップ 2」ダイアログ



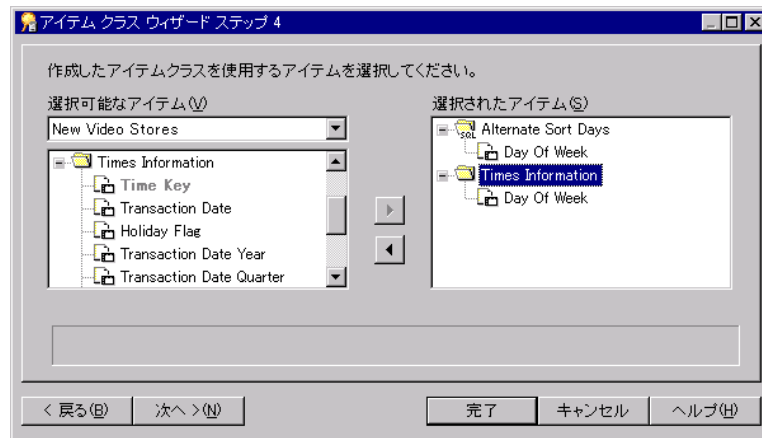
4. 「Alternate Sort Days」カスタム・フォルダから「Day Of Week」を選択します。
これは、値リストを生成するアイテムです。
5. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ 3」ダイアログが表示されます。

図 8-15 「アイテム クラス ウィザード ステップ3」 ダイアログ



6. 「Alternate Sort」 アイテムを選択します。
これは、代替ソート基準を含んでいるアイテムです。
7. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ4」 ダイアログが表示されます。

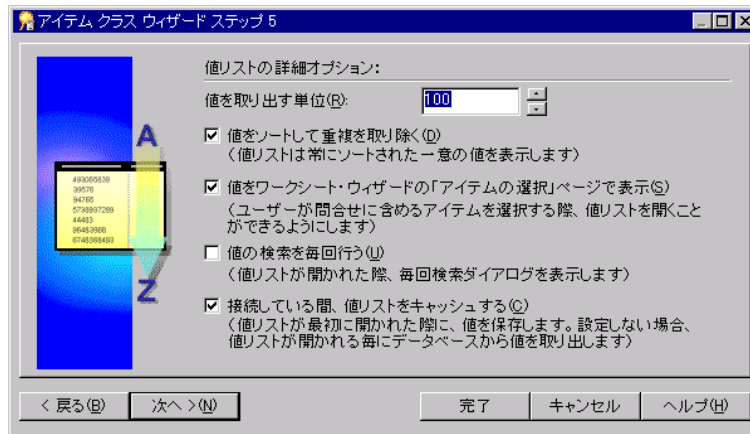
図 8-16 「アイテム クラス ウィザード ステップ4」 ダイアログ



「アイテム クラス ウィザード ステップ 4」 ダイアログでは、代替ソート基準を使用する 1 つ以上のアイテムを選択できます。このレッスンでは、**Time Information** フォルダからアイテムを選択します。

8. 「New Video Stores」ビジネスエリアで「Time Information」フォルダの左のプラス記号 (+) をクリックし、フォルダ・アイテムを表示します。
9. 「**選択可能なアイテム**」リストから「Day Of Week」アイテムを選択し、「**選択されたアイテム**」リストに移動します。
10. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ 5」ダイアログが表示されます。

図 8-17 「アイテム クラス ウィザード ステップ 5」ダイアログ



11. 「値をソートして重複を取り除く」チェックボックスを選択します。
12. 「値をワークシート・ウィザードの「アイテムの選択」ページで表示」チェックボックスを選択します。
13. 「値の検索を毎回行う」チェックボックスを選択解除します。
14. 「接続している間、値リストをキャッシュする」チェックボックスを選択します。
15. 「次へ」をクリックすると、「アイテム クラス ウィザード ステップ 6」ダイアログが表示されます。

図 8-18 「アイテム クラス ウィザード ステップ 6」 ダイアログ



16. 「アイテム クラスの名前」フィールドに「Days of the Week - Alternative Sort」と入力します。
17. 「完了」をクリックすると、Discoverer Administrator により、Time Information フォルダの Days Of Week アイテムで使用される新規アイテム・クラス「Days of the Week - Alternative Sort」が作成されます。

この演習では、エンド・ユーザーが標準的でない方法で値リストのアイテムをソートできるように、代替ソートを作成しました。

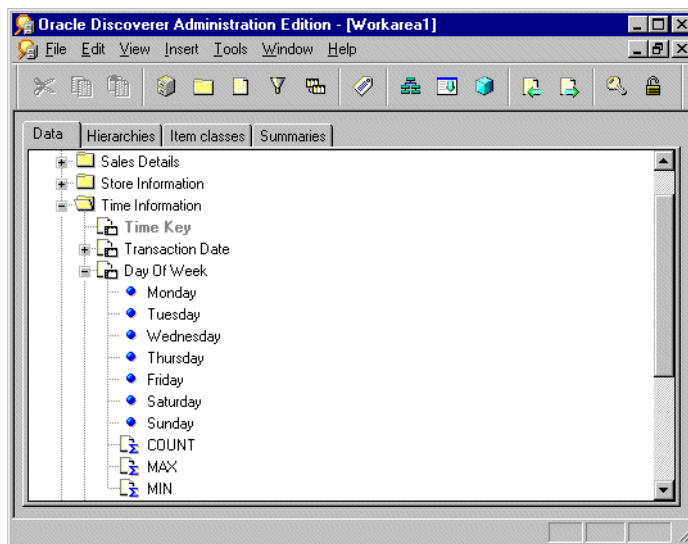
演習 6: 代替ソート・アイテム・クラスの表示

この演習では、前の演習で作成した代替ソートを表示します。

Days Of Week アイテム内で新規に作成した代替ソートを表示する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、Time Information フォルダをクリックします。
2. 「Day Of Week」アイテムの左のプラス記号 (+) をクリックして、作成した代替ソートに基づく値リストを表示します。

図 8-19 「ワークエリア」: 「データ」タブ



曜日をカスタム・フォルダ Alternate Sort Days に定義した順序で表示できることがわかります。

注意: EUL 内でローカルの値リストを作成するのは、Discoverer Plus と Discoverer Viewer でのパフォーマンスを改善するためです。Discoverer では、EUL から値が取り出されるため、データベースから関連表の各行を読み込む必要はありません。詳細は、[第 6 章「演習 1: カスタム・フォルダの作成」](#)を参照してください。

この演習では、前の演習で作成した代替ソートを表示しました。

演習 7: 新規ユーザー定義アイテムの作成

この演習では、利益を売上率として示す新規ユーザー定義アイテムを作成します。

通常、ユーザー定義アイテムはレポートの重要な要素です。典型的なビジネスのユーザー定義アイテムには、次の値が含まれます。

- 利益マージン
- 月当たりの平均収益
- 予測した売上
- 製品の種類ごとの利益率

エンド・ユーザーが必要とするユーザー定義アイテムを作成し、ビジネスエリアの有用性を高めることができます。Discoverer Administrator では、これらのユーザー定義アイテムは Discoverer Plus と Discoverer Viewer で使用できるように EUL に格納されます。

ユーザー定義アイテムの詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

新規ユーザー定義アイテムを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、Sales Details フォルダをクリックします。

注意: 新規アイテムを Sales Details フォルダに作成します。

2. 「挿入」→「アイテム」を選択し、「新規アイテム」ダイアログを表示します。
3. Sales Details フォルダの左のプラス記号 (+) をクリックしてアイテムを表示します。

図 8-20 「新規アイテム」ダイアログ



4. 「名前」フィールドに「Percent Profit」と入力します。

5. 「計算」フィールドに次のテキストを入力します。

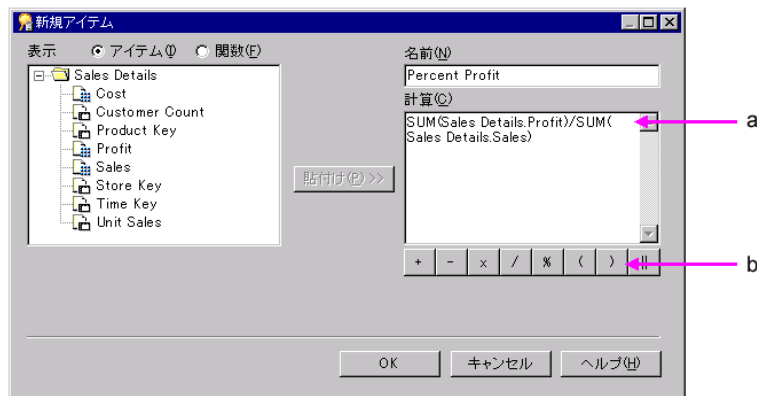
`SUM(Sales Details.Profit)/SUM(Sales Details.Sales)`

ヒント: 計算式を直接入力することもできますが、次の方法を使用すると最小限の入力で済みます。

- アイテムを追加するには、左側のリストからアイテムを選択し、「貼り付け >>」ボタンをクリックして「計算」フィールドに直接貼り付けます。
- 演算子を追加するには、「計算」フィールドの下の演算子ボタンをクリックします。
- データベース関数のリストを表示するには、「関数」ラジオ・ボタンをクリックします。

注意: 計算式は、標準の Oracle 構文に従う必要があります。Oracle 構文の詳細は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。

図 8-21 「新規アイテム」ダイアログ



「新規アイテム」ダイアログでは、次のことに注意してください。

- 「計算」パネル
- 演算子ボタン

6. 「OK」をクリックすると、新規ユーザー定義アイテムがビジネスエリアに保存されます。

この演習では、利益を売上率として示す新規ユーザー定義アイテムを作成しました。

エンド・ユーザーに表示される内容 : Discoverer Plus でのユーザー定義アイテム

次の図に、Discoverer Administrator で作成したユーザー定義アイテムを使用して、Discoverer Plus でエンド・ユーザーに表示される内容を示します。

図 8-22 「ワークブック ウィザード」— Discoverer Plus での「Percent Profit」アイテムの表示



図 8-22 では、Discoverer Administrator で作成されたユーザー定義アイテム「Percent Profit」が、Sales Details フォルダに他のすべてのアイテムとともに表示されています。

エンド・ユーザーは、Discoverer Plus の「ワークブック ウィザード」で、New Video Stores ビジネスエリアから次のアイテムを選択し、テーブル・ワークシートを作成できます。

- Sales Details フォルダの「Profit SUM」、「Sales SUM」および「Percent Profit」
- Store Information フォルダの「City」

Discoverer では、「Percent Profit」アイテム（データベース列ではなくユーザー定義アイテム）が、Sales Details フォルダの他のすべてのアイテムとともに表示されます。

エンド・ユーザーが問合せを実行すると、Discoverer ではワークブックに「Percent Profit」が表示されます。

図 8-23 「Percent Profit」ユーザー定義アイテムのデータが表示されている Discoverer ワークブック

Sales SUM	Profit SUM	Percent Profit	City
¥9,3477	¥3,7117	40%	Atlanta
¥9,2033	¥6,5214	71%	Boston
¥5,0348	¥3,5798	71%	Chicago
¥20,4165	¥12,1846	60%	Cincinnati
¥3,9708	¥2,7776	70%	Dallas
¥9,0674	¥6,4211	71%	Denver
¥3,4783	¥2,5319	73%	Los Angeles
¥17,4113	¥10,8750	62%	Louisville
¥4,1603	¥2,4050	58%	Miami
¥4,6625	¥3,2636	70%	Minneapolis
¥4,0404	¥2,7804	69%	Nashville
¥4,8117	¥3,7219	77%	New Orleans
¥39,6408	¥27,9786	71%	New York
¥10,8908	¥8,2649	76%	Philadelphia
¥4,2364	¥2,7487	65%	Phoenix
¥8,7643	¥6,1942	71%	Pittsburgh

図 8-23 は、ワークブックに「Percent Profit」ユーザー定義アイテムが含まれているため、Discoverer Plus では各行に対して計算が実行され、結果が 1 列に表示されることを示しています。

「Percent Profit」アイテムの数値の表示書式を制御するために、Discoverer Plus ではメニュー・オプション「シート」→「書式」→「データの書式設定」→「数値」を使用して、数値書式が「パーセント形式」カテゴリ・リストの最初のオプションに設定されています。

他のユーザー定義アイテムの例

次の例では、他の種類のユーザー定義アイテムの作成方法を示します。

所在地レコード・ユーザー定義アイテム

例: Sidney Sloan, 21 Great Jones Street Apt. 2B, New York City, New York 10012

- 「名前」: Address
- 「計算」: Name || ',' || Street Line 1 || Street Line 2 || ',' || City || ',' || State || Zip Code

人員レコード・ユーザー定義アイテム

例: Business Analyst in Accounting Department, \$50,000

- 「名前」: Function
- 「計算」: Job Title || 'in' || Department || ',' || Salary

月間の給与およびコミッションに基づく年間報酬（NVL では値 0 を許容）ユーザー定義アイテム

- 「名前」: Compensation
- 「計算」: Salary*12+NVL(Commission, 0)

ヒント: NVL は、NULL を 0 などの代替値に置換できるデータベース関数です。

集計ユーザー定義アイテム

次に例を示します。

- 「名前」: Total Compensation
「計算」: SUM(Salary + NVL(Commission, 0))
- 「名前」: % Commission
「計算」: SUM(Commission)/SUM(Salary)
- 「名前」: Avg. Units per Customer
「計算」: SUM(unit sales)/SUM(customer count)

ユーザー定義アイテムの作成方法の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、ビジネスエリア内のアイテムをカスタマイズし、次の演習を完了しました。

- ビジネスエリア内のアイテムの非表示化
- アイテムの表示軸と表示順序の設定
- 値リストの作成
- 値リストのアイテム・クラスの表示
- 代替ソートの作成
- 代替ソート・アイテム・クラスの表示
- 新規ユーザー定義アイテムの作成

次のレッスンでは、ビジネスエリア内の他のフォルダからのアイテムで構成される複合フォルダを作成します。

レッスン 8: 複合フォルダの設計

レッスン 8: 複合フォルダの設計

このレッスンの所要時間は、約 15 分です。

このレッスンでは、複合フォルダを作成し、そのフォルダ内で条件を作成します。

複合フォルダは、他のフォルダからのアイテムを含む特殊なタイプのフォルダです。単一フォルダからのアイテムを複合フォルダに置くと、実際には元のアイテムを参照することになります。

別々のフォルダからのアイテムを 1 つの複合フォルダにまとめると、エンド・ユーザーによるデータ分析作業を簡素化できます。これにより、エンド・ユーザーは複数のフォルダからアイテムを選択する必要がなくなり、結合はエンド・ユーザーに対して全面的に隠されます。

Discoverer Administrator では、複合フォルダ内の他のアイテムに結合で関連付けられていないアイテムは、複合フォルダに追加できません。

注意：アイテムを他のアイテムと同じ名前で複合フォルダに置くと、Discoverer Administrator により重複アイテムに数値の接尾辞が追加されます。同じ名前を持つ 2 つのアイテムを 1 つのフォルダに置くことはできません。

詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- [「演習 1: 複合フォルダの作成」](#)
- [「演習 2: 条件の作成」](#)

演習 1: 複合フォルダの作成

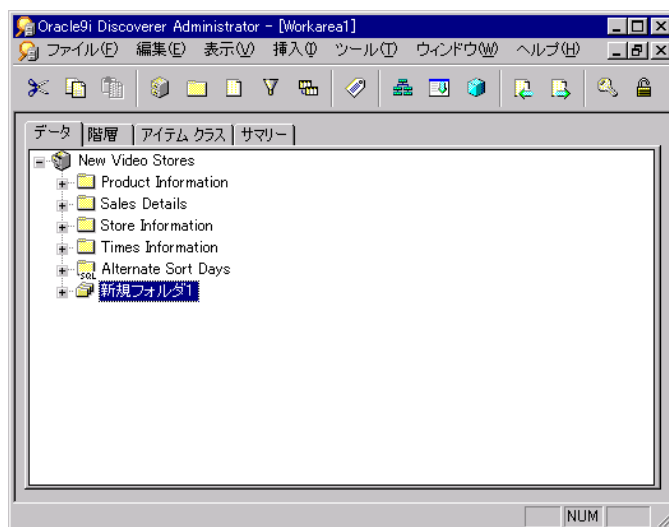
この演習では、エンド・ユーザーが利益、製品タイプ、製品カテゴリなどのビデオ・ストア・ビジネスエリア関連情報の分析に使用できる複合フォルダを作成します。

複合フォルダを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックします。
2. 「挿入」→「フォルダ」→「新規フォルダの作成」を選択します。

New Video Stores ビジネスエリアに新規フォルダ「新規フォルダ 1」が作成されます。

図 9-1 複合フォルダを作成する「ワークエリア」の「データ」タブ



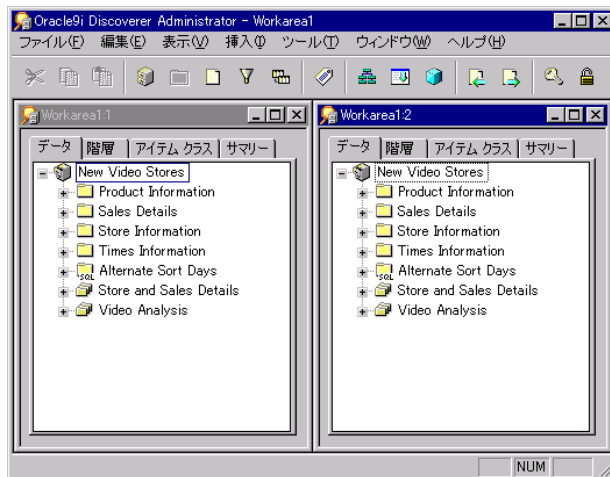
複合フォルダを表すアイコンが、単一フォルダを表すアイコンとは異なることに注意してください。

3. 「新規フォルダ 1」を「Store and Sales Details」に名前変更します。
4. 別の新規フォルダを（前述の手順 1 および 2 に従って）作成し、フォルダ名「Video Analysis」を指定します。

ヒント: アイテムをフォルダ間で簡単にコピーできるように、もう 1 つ「ワークエリア」ウィンドウを開きます。これにより、同じ「ワークエリア」にもう 1 つのビューが表示されます。次のいくつかの手順に、その方法を示します。

5. 「ウィンドウ」→「新しいウィンドウを開く」を選択して、新しい「ワークエリア」ウィンドウを表示します。これは、同じ「ワークエリア」の第2のビューになります。

図 9-2 2つの「ワークエリア」ウィンドウの表示



これでアイテムを複合フォルダに追加する準備ができました。

6. 左の「ワークエリア」ウィンドウで、Store Information フォルダの左のプラス記号 (+) を展開し、次のアイテムを選択します。
 - Store Name
 - City
 - Region
 - Floor Plan Type
 - Store Size
 - Reports

一度に複数のアイテムを選択するには、[Ctrl] キーを押しながら各アイテムをクリックします。

7. 選択したアイテムを右の「ワークエリア」ウィンドウに移動し、Store and Sales Details 複合フォルダにドロップします。

これにより、選択したアイテムが複合フォルダにコピーされます。

他のフォルダからアイテムをコピーするプロセスを繰り返して、エンド・ユーザーに必要なすべてのアイテムを複合フォルダに移入します。

8. 「Sales Details.Profit」 アイテムを Store and Sales Details 複合フォルダにコピーします。
9. 次のアイテムを Product Information フォルダから Store and Sales Details フォルダにコピーします。
 - Description
 - Full Description
 - Product Category
 - Department
10. 次のアイテムを Time Information フォルダから Store and Sales Details フォルダにコピーします。
 - Transaction Date
 - Year

これで Video Analysis フォルダに移入する準備ができました。

11. 次のアイテムを Sales Details フォルダから Video Analysis フォルダにコピーします。
 - Sales
 - Unit Sales
 - Cost
 - Profit
12. 次のアイテムを Store Information フォルダから Video Analysis フォルダにコピーします。
 - Store Name
 - City
 - Region
 - Reports
13. 次のアイテムを Product Information フォルダから Video Analysis フォルダにコピーします。
 - Description
 - Full Description
 - Product Category
 - Department

14. 次のアイテムを Time Information フォルダから Video Analysis フォルダにコピーします。

- Transaction Date
- Year
- Month

15. 第 2 の「ワークエリア」ウィンドウを閉じて、最初のウィンドウを最大化します。

注意：値リストを提供するアイテム・クラスは、2つの複合フォルダ間で共有になっています。複合フォルダにコピーしたアイテムは、元のアイテムのプロパティを継承します。フォルダから元のアイテムの 1 つを削除すると、そのアイテムのすべての参照も削除されます。

この演習では、エンド・ユーザーが利益、製品タイプ、製品カテゴリなどのビデオ・ストア・ビジネスエリア関連情報の分析に使用できる複合フォルダを作成しました。

演習 2: 条件の作成

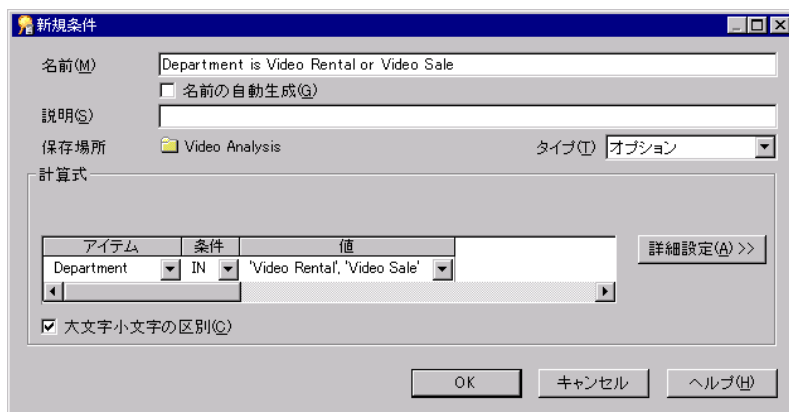
この演習では、複合フォルダ内で条件を作成します。

条件により、取り出される情報がフィルタ処理されます。たとえば、ビデオ・ストア・チェーンの分析用に、Video Sale または Video Rentals 部門のみを選択する条件を作成できます。エンド・ユーザーは、この条件を Discoverer Plus または Discoverer Viewer で使用して、この 2 つの部門における各ビデオ・ストアの最近の販売活動を検討し、どの店舗の利益率が最も高いかを判断できます。

条件を作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示して、「Video Analysis.Department」アイテムをクリックします。
2. 「挿入」→「条件」を選択し、「新規条件」ダイアログを表示します。

図 9-3 「新規条件」 ダイアログ



注意：「アイテム」フィールドには、すでに「Video Analysis.Department」が表示されています。

3. 「条件」フィールドから「IN」演算子を選択します。

これにより、データは多数の値のうちの1つ（Video Sales または Video Rentals など）に制限されます。

4. 「値」ドロップダウン・リストから「値の選択」を選択し、「値」ダイアログを表示します。

図 9-4 「値」ダイアログ



「値」ダイアログでは、「値」フィールドに使用する1つ以上の値を選択できます。

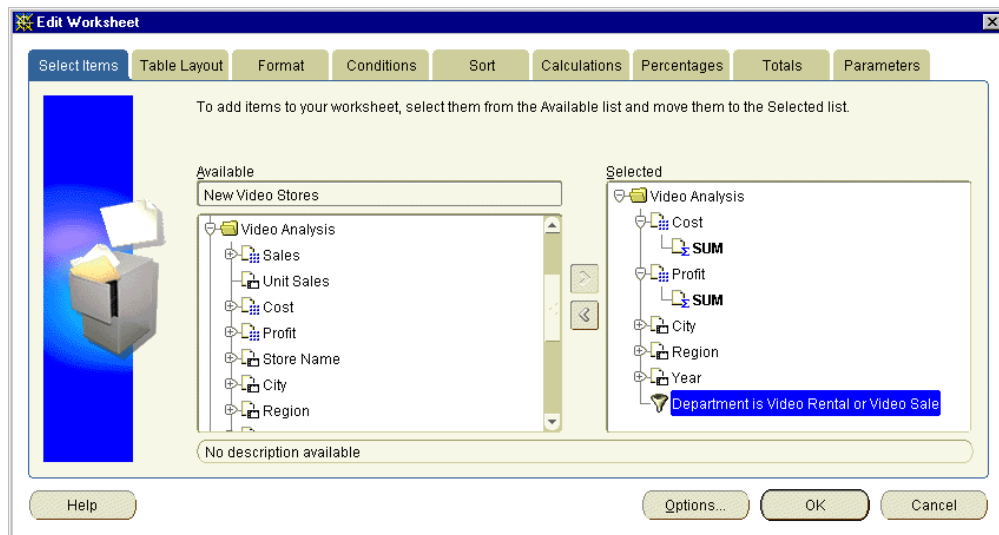
5. 「値を選択してください」リストで、「Video Rental」および「Video Sale」チェックボックスを選択します。
6. 「OK」をクリックすると、選択した値が「値」フィールドに組み込まれます。
7. 「名前の自動生成」チェックボックスを選択解除して、独自の条件名を指定できるようにします。
8. 「名前」フィールドに「Department is Video Rental or Video Sale」と入力します。
9. 「OK」をクリックします。

これで Video Analysis フォルダに条件が作成されました。この条件では、部門が Video Rental であるか Video Sale であるかに基づいてデータをフィルタ処理できます。この条件を、Discoverer Plus でワークブックに適用できます。

Discoverer Plus ユーザーに表示される内容

Discoverer Plus には、条件がフィルタ・アイコンとして表示されます。次の図に、Discoverer Plus で条件「Department is Video Rental or Video Sale」がどのように表示されるかを示します。

図 9-5 Discoverer Plus でのワークシートに適用される条件の表示状態



この演習では、複合フォルダ内で条件を作成しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、複合フォルダを作成し、そのフォルダ内で条件を作成しました。

このレッスンでは、次の演習を完了しました。

- 複合フォルダの作成
- 条件の作成

次のレッスンでは、エンド・ユーザーがデータ間でナビゲートしやすいように階層を作成します。

10

レッスン 9: 階層での作業

レッスン 9: 階層での作業

このレッスンの所要時間は、約 20 分です。

このレッスンでは、エンド・ユーザーが階層をドリルアップおよびドリルダウンして関連する情報を表示できるように、階層内でアイテムを設定します。

通常、階層内のアイテム間でドリルするには、表示する集計情報の詳細レベルを上下に調整する必要があります。たとえば、会社全体の売上データを地域レベルから個別レベルへ、最終的には単一店舗レベルへとドリルします。各階層レベルには、大量の集計情報が表示されます。エンド・ユーザーは、ドリルダウンするときに、フィルタを使用しても使用しなくてもかまいません。たとえば、エンド・ユーザーは軸アイテムの特定のデータ値（2000 年など）を選択したり、軸アイテムのすべてのデータ値（すべての年など）を選択してドリルダウンできます。

Discoverer 管理者は、エンド・ユーザーに関連情報への複数のドリル方法を提供できます。この項では、ドリルアップおよびドリルダウン機能を使用可能にします。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「[演習 1: 単一アイテム階層の定義](#)」
- 「[演習 2: より複雑なアイテム階層の定義](#)」
- 「[演習 3: 日付階層テンプレートの作成](#)」
- 「[演習 4: アイテムの内容タイプの変更](#)」
- 「[演習 5: ディテール・ドリル・データの定義](#)」

演習 1: 単一アイテム階層の定義

この演習では、New Video Stores ビジネスエリアに新規階層を作成します。

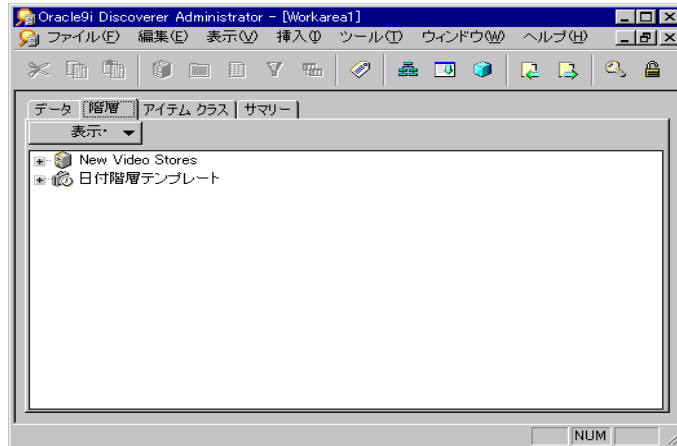
企業データの一部は、本来、階層構造を持っています。階層の最上位に達するまで、店舗の売上は市の売上へ、市の売上は地域の売上へと順に組み込まれます。

階層を定義し、エンド・ユーザーが階層を構成するアイテムを正確に知らなくても、集計情報に簡単にドリルできるようにします。

新規階層を作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「階層」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックします。

図 10-1 「ワークエリア」: 「階層」タブ



これにより、New Video Stores ビジネスエリアの階層で作業できます。

2. 「挿入」→「階層」を選択して、「階層ウィザード」ダイアログを表示します。

図 10-2 「階層ウィザード」 ダイアログ



3. 「アイテム階層」ラジオ・ボタンを選択します。

注意：アイテム階層では、文字アイテムと数値アイテムをドリルアップおよびドリルダウンできます。日付階層では、日付アイテム（年、四半期、月、週、日など）をドリルアップおよびドリルダウンできます。

4. 「次へ」をクリックすると、「階層ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

図 10-3 「階層ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



次の手順では、エンド・ユーザーのドリル階層に表示するアイテムを選択できます。階層内の各アイテムの位置には、Discoverer Plus でのドリルの表示が反映されます。

5. Video Analysis 複合フォルダの左のプラス記号 (+) をクリックしてアイテムを表示します。

図 10-4 「階層ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



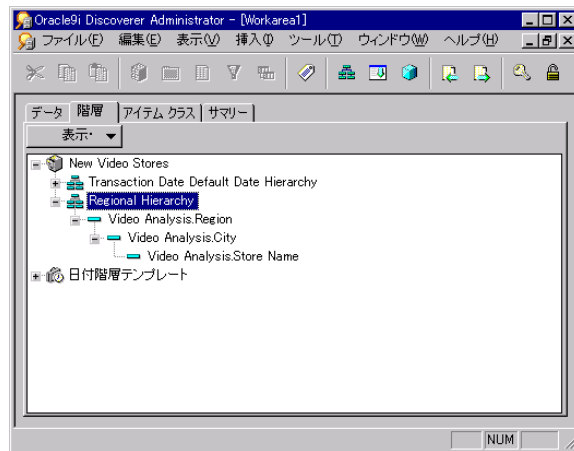
6. 「Video Analysis.Region」 アイテムを右側のリストに移動します。
一度に複数のアイテムを選択するには、[Ctrl] キーを押しながら各アイテムをクリックします。
7. 「Video Analysis.City」 アイテムを右側のリストに移動します。
8. 「Video Analysis.Store Name」 アイテムを右側のリストに移動します。
9. 「次へ」をクリックすると、「階層ウィザード ステップ 3」ダイアログが表示されます。
10. 「名前」フィールドに「Regional Hierarchy」と入力します。
11. 「説明」フィールドに「Region-City-Store」と入力します。

図 10-5 「階層ウィザード ステップ 3」ダイアログ



12. 「完了」をクリックして階層を作成します。
13. 「ワークエリア」の「階層」タブを表示します。
New Video Stores ビジネスエリアに新規の「Regional Hierarchy」が表示されます。
14. 「Regional Hierarchy」のプラス記号 (+) をクリックし、作成した新規階層のすべてのレベルを表示します。

図 10-6 「ワークエリア」: 「階層」タブ



これで、エンド・ユーザーは階層のすべてのレベルをナビゲートし、必要に応じて各レベルをスキップできます。

この演習では、New Video Stores ビジネスエリアに新規階層を作成しました。

Discoverer Plus ユーザーに表示される内容 – 階層のナビゲート

次の図に、Discoverer Plus のワークシートに作成した階層の 3 つのレベル（Region、City および Store Name）を示します。

図 10-7 Discoverer Plus のワークブック – 階層内のアイテム間のナビゲート

● Region

○ City

○ Store Name

	Department	Profit SUM	Sales SUM	Cost SUM
	Page	¥1552	¥2128	¥577
	Rental	¥4,4120	¥5,8632	¥1,4515
Central	Laser Disc Rent	¥3,1577	¥4,7751	¥1,6174
Central	Snacks	¥1083	¥1938	¥856
Central	Video Rental	¥11,6174	¥20,8073	¥9,1931
Central	Video Sale	¥23,4498	¥34,2361	¥10,7865
East	Beverage	¥3130	¥4122	¥992
East	Game Rental	¥7,8361	¥9,6496	¥1,8133
East	Laser Disc Rent	¥5,1627	¥7,9236	¥2,7609
East	Snacks	¥1656	¥3043	¥1387
East	Video Rental	¥17,9417	¥32,6317	¥14,6907
East	Video Sale	¥36,3657	¥53,4767	¥17,1108
West	Beverage	¥1649	¥1870	¥221

◀◀

◀

ページ 1 / 1

▶

▶▶

Discoverer Plus ユーザーが階層を明示的にセットアップする必要はありません。階層の一部であるアイテムをワークブック用を選択すると、ポップアップ・メニューを使用して階層内の他の要素にナビゲートできます。

演習 2: より複雑なアイテム階層の定義

この演習では、エンド・ユーザーが製品詳細にドリルできるように、より複雑なアイテム階層を作成します。

より複雑なアイテム階層を New Video Stores ビジネスエリア内に作成する手順は、次のとおりです。

- 1. 「ワークエリア」の「階層」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックします。
- 2. 「挿入」→「階層」を選択して、「階層ウィザード」ダイアログを表示します。
- 3. 「アイテム階層」ラジオ・ボタンを選択します。
- 4. 「次へ」をクリックすると、「階層ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。
- 5. Product Information フォルダの左のプラス記号 (+) をクリックして、このフォルダ内のアイテムを表示します。

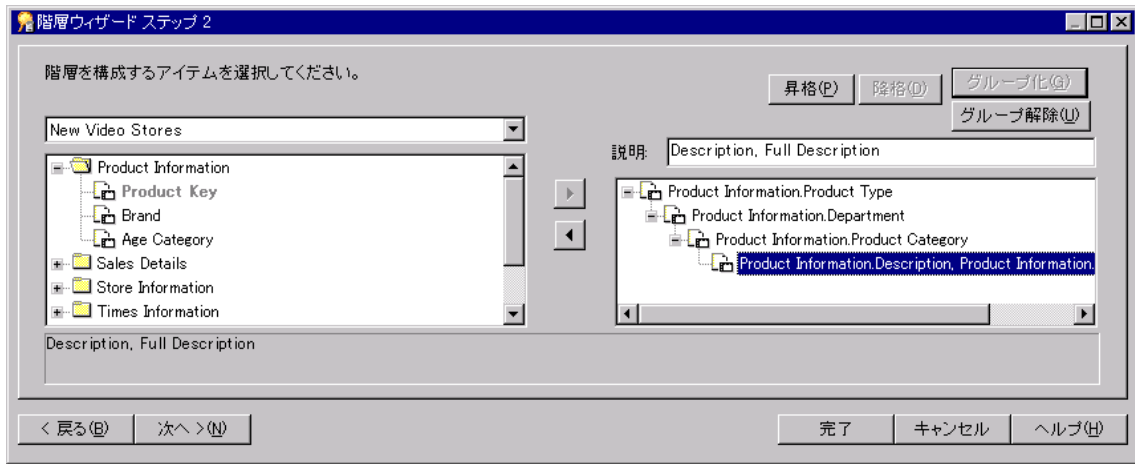
図 10-8 「階層ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



6. 次のアイテムを（順番どおりに）右側のリストに移動します。
 - Product Information.Product Type
 - Product Information.Department
 - Product Information.Product Category
 - Product Information.Description
 - Product Information.Full Description
7. 右ウィンドウの階層から次の 2 つのアイテムを選択します。
 そのためには、最初のアイテムを選択し、[Ctrl] キーを押しながら 2 番目のアイテムを選択します。
 次のアイテムの両方を選択します。
 - Product Information.Description
 - Product Information.Full Description
8. 階層内で同じレベルに表示されるように、「グループ化」ボタンをクリックして選択したアイテムをグループ化します。

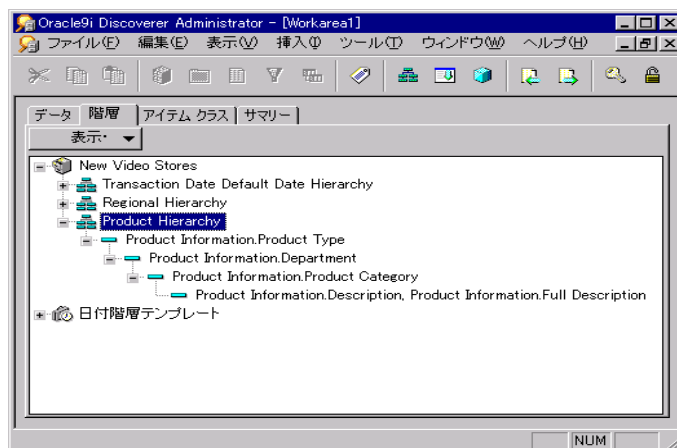
この方法でアイテムをグループ化すると、Discoverer Plus ではエンド・ユーザー問合せに同時に表示されます。Product Category からドリルダウンすると、Discoverer により Description と Full Description が同じレベルに表示されます。

図 10-9 「階層ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



9. 「次へ」をクリックすると、「階層ウィザード ステップ 3」ダイアログが表示されます。
10. 「名前」フィールドに「Product Hierarchy」と入力します。
11. 「説明」フィールドは空白のままにします。
12. 「完了」をクリックして新規階層を作成します。
13. 「ワークエリア」の「階層」タブを表示します。
14. 「New Video Stores」ビジネスエリアの左のプラス記号 (+) をクリックして、ビジネスエリア内の階層を表示します。
15. 作成した「Product Hierarchy」の左のプラス記号 (+) をクリックして、この階層のアイテムを表示します。

図 10-10 「ワークエリア」: 「階層」タブ



この演習では、エンド・ユーザーが製品詳細にドリルできるように、より複雑なアイテム階層を作成しました。

演習 3: 日付階層テンプレートの作成

この演習では、既存の日付階層テンプレートに加えて新規日付階層テンプレートを作成します。

日付階層テンプレートでは、日付階層を日付アイテムに自動的に関連付けることができます。たとえば、年から月、月から週、週から日へのドリルを定義する日付階層テンプレートを作成できます。日付階層テンプレートを日付アイテムに関連付けると、Discoverer では自動的に各日付の新規アイテムが作成され（年、月、週、日など）、アイテム間のドリル関係が定義されます。

Discoverer Administrator では、すでに標準の日付階層テンプレートが使用されています。このテンプレートには、年から四半期、月、日への階層が含まれています。このテンプレートがエンド・ユーザーの要件を満たさない場合は、新規日付階層を作成できます。たとえば、年から月ではなく週へのドリルや、時間ベースのデータの場合に時と分から秒へのドリルが必要な場合があります。

日付階層テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「階層」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックします。
2. 「挿入」→「階層」を選択して、「階層ウィザード」ダイアログを表示します。
3. 「日付階層」ラジオ・ボタンを選択して「次へ」をクリックすると、「階層ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

図 10-11 「階層ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



4. 次の日付書式を（順番どおりに）左側のリストから右側のリストに移動します。
 - YYYY（年フォルダ内）
 - "Q"Q-YYYY（四半期フォルダ内）
 - Mon-YYYY（月フォルダ内）
 - "W"W Mon-YYYY（週フォルダ内）
 - Dy "W"W Mon-YYYY（日フォルダ内）
 - HH24 Dy "W"W Mon-YYYY（時間フォルダ内）
5. 先に進む前に、「階層ウィザード ステップ 2」ダイアログが次のように設定されていることを確認します。

図 10-12 「階層ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



6. 「次へ」をクリックすると、「階層ウィザード ステップ 3」ダイアログが表示されます。
このダイアログで、作成した日付階層をビジネスエリア内のアイテムに割り当てます。

図 10-13 「階層ウィザード ステップ 3」 ダイアログ



7. 「Time Information.Transaction Date」を、「選択可能なアイテム」から右側の「選択されたアイテム」リストに移動します。
8. 「次へ」をクリックすると、「階層ウィザード ステップ 4」ダイアログが表示されます。
9. 「名前」フィールドに「Y-Q-M-W-D Hierarchy」と入力し、「説明」フィールドは空白のままにします。

図 10-14 「階層ウィザード ステップ 4」ダイアログ



10. 「完了」をクリックします。

新規の日付階層テンプレート（Y-Q-M-W-D Hierarchy）が作成され、階層アイテムが Time Information フォルダ内の Transaction Date アイテムに適用されます。新規日付階層アイテムは、Time Information フォルダに表示されます。

注意：すでに日付階層が適用されている日付アイテムに日付階層テンプレートを適用すると、新規日付階層用の日付アイテムが追加作成されますが、古い日付階層から日付アイテムは削除されません。使用しない日付アイテムを削除する場合は、フォルダから手動で削除する必要があります。

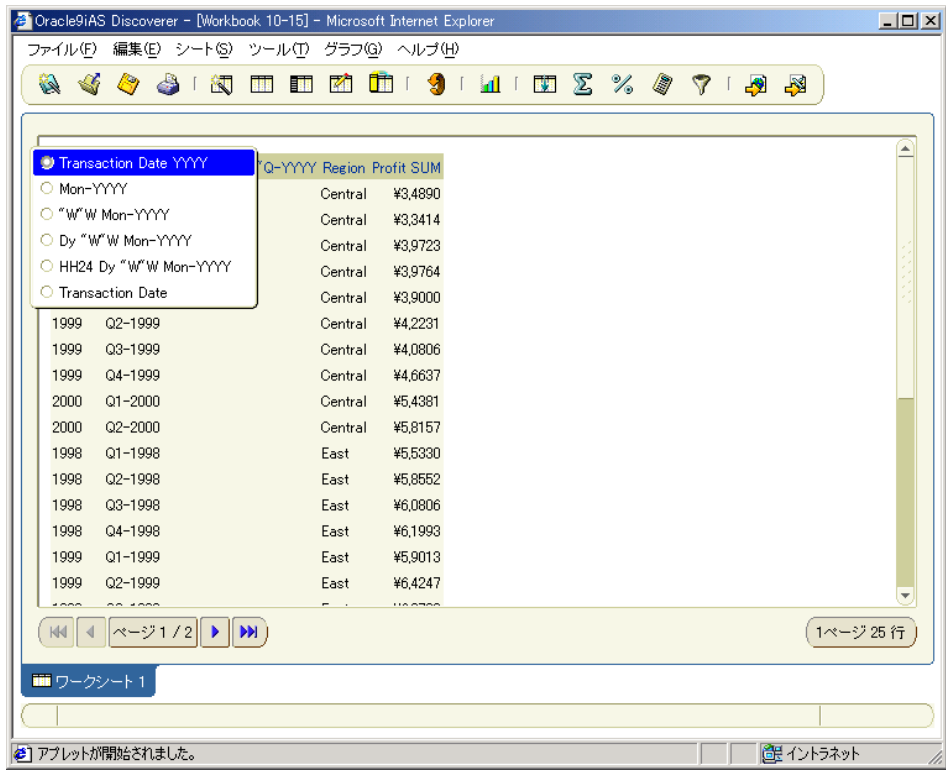
この演習では、既存の日付階層テンプレートに加えて新規日付階層テンプレートを作成しました。

Discoverer Plus ユーザーに表示される内容 – 階層レベル間のナビゲート

Discoverer Plus では、エンド・ユーザーは階層のすべてのレベルをナビゲートし、必要に応じて各レベルをスキップできます。次の図に、前の演習で作成した日付階層のレベルを表示する Discoverer Plus のワークシートを示します。エンド・ユーザーが日付階層を明示的にセットアップする必要はありません。階層の一部である日付をワークブック用を選択すると、ポップアップ・メニューを使用して日付階層内の他の要素にナビゲートできます。

日付階層の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

図 10-15 Discoverer Plus のワークブック – 日付階層内のアイテム間のナビゲート



この演習では、既存の日付階層テンプレートに加えて新規日付階層テンプレートを作成しました。

演習 4: アイテムの内容タイプの変更

この演習では、一部のアイテムの内容タイプ・プロパティを変更します。

内容タイプ・プロパティにより、Discoverer Plus でワークブックに表示されるアイテムの処理方法が決定されます。

Discoverer Plus では、アイテムは次の 2 つの方法のどちらかで表示されます。

- データベースから返されるデータとして。
たとえば、製品名、地域、売上高、計算結果などです。Discoverer では、データはワークブックに直接表示されます。
- データベース外部に格納されたファイルの参照の形式で、データベースから返されるデータとして。
たとえば、ローカルまたはネットワーク・ファイル・システムに格納されているビデオ・ファイルの名前とパス (d:\salesfilms\january.avi など) です。Discoverer でこのファイルに含まれているデータを表示させるには、ビデオ・アプリケーションを実行する必要があります。
アイテムにファイルの参照が含まれており、そのファイルが他のアプリケーションの実行を必要とする場合、Discoverer ではファイルの内容を表示するアプリケーションが検索され、ロードされます。

内容タイプ・アイテムのプロパティには、次の 2 つの値のどちらか一方を指定できます。

- 「FILE」
ファイルに関するデータがワークブックのセルに表示されます。エンド・ユーザーがセルをクリックすると、ファイル拡張子 (エンド・ユーザーのマシンで定義) に適したアプリケーションが起動し、アプリケーションにファイルの内容が表示されます。
- 「指定なし」
データベースからのデータがワークブックのセルに表示されます。

次の表に、一部のアプリケーションとその起動に使用されるファイル拡張子を示します。

表 10-1 ファイルの内容タイプの例

アプリケーション	ファイル名拡張子
MS Word	.doc
Media Player	.avi
MS Excel	.xls
Lotus Screencam	.scm
Web ブラウザ	.html

New Video Stores ビジネスエリアで、Store Information.Reports アイテムは MS Word ドキュメントを参照し、データベース列の情報はディレクトリ・パスとファイル名です。Product Information.Full Description アイテムは HTML コードを含む Web ページを参照し、データベース列の情報はディレクトリ・パスとファイル名です。Reports ドキュメントはワード・プロセッサで開き、Full Description ドキュメントは Web ブラウザで開く必要があります。

次の演習では、Discoverer Plus でアイテムの内容（ディレクトリ・パスとファイル名）がオペレーティング・システムに渡され、ファイルのコンテンツ表示に必要なアプリケーションが起動されるように、アイテムのコンテンツタイプを変更する方法を示します。

アイテムのコンテンツタイプを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、次のアイテムを選択します。
 - Video Analysis.Reports
 - Video Analysis.Description
 - Video Analysis.Full Description
2. 「編集」→「プロパティ」を選択して、手順 1 で選択したアイテムの「アイテム プロパティ」ダイアログを表示します。
3. 「コンテンツタイプ」を「FILE」に設定します。
4. 「OK」をクリックします。

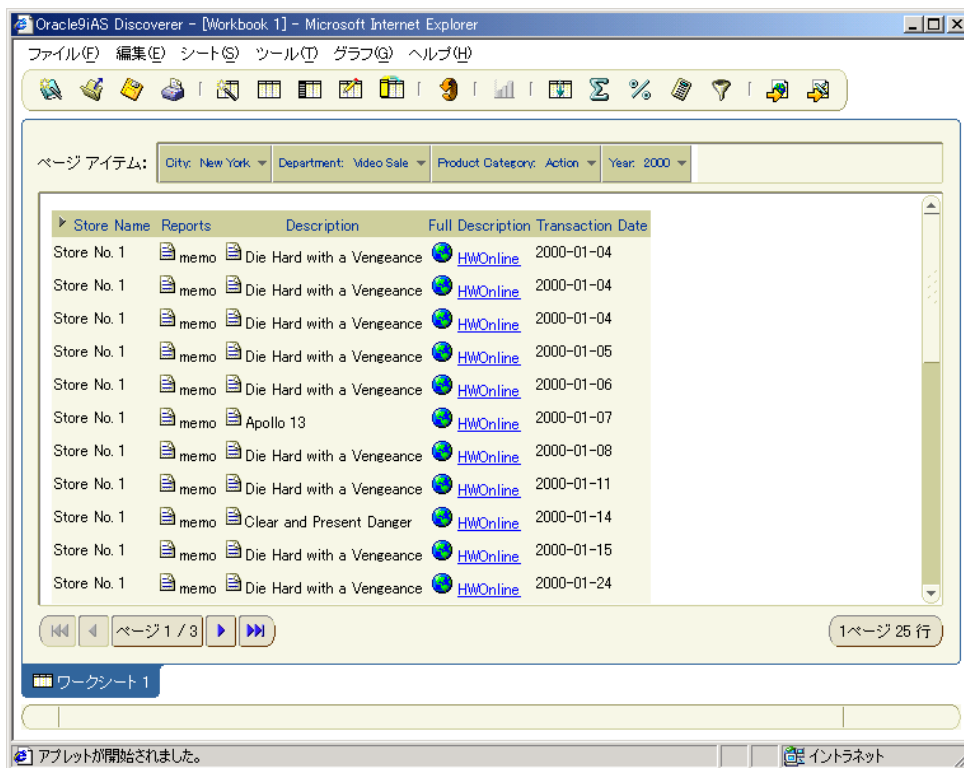
この演習では、一部のアイテムのコンテンツタイプ・プロパティを変更しました。

Discoverer Plus ユーザーに表示される内容 – ワークシートの外部アプリケーション・アイコン

これらのアイテムを Discoverer Plus で表示すると、情報は適切なワード・プロセッサ・アプリケーションまたは Web ブラウザで表示されます。

エンド・ユーザーは、ワークシートに表示されるアイコンに基づいて、外部アプリケーションを実行する必要があるアイテムを指定できます。次の図に、Microsoft Word と HTML ページを起動できるワークシートの例を示します。

図 10-16 外部アプリケーション・アイコンを含む Discoverer Plus ワークシートの例



演習 5: ディテール・ドリル・データの定義

この演習では、ディテール・ドリルにも使用する値リストのアイテム・クラスを編集します。

Discoverer Plus では、エンド・ユーザーは管理者により作成された階層を使用してドリルアップまたはドリルダウンし、様々なレベルの集計データを表示できます。ディテールにドリルする場合は、集計データ内の関連情報の詳細にジャンプします。たとえば、多数のビデオ・ストアからの日次売上データを検討するエンド・ユーザーは、日次合計を構成する詳細トランザクション・レコードを表示する必要があります。

エンド・ユーザーがディテール・データにドリルできるようにするには、ディテール・ドリル・アイテム・クラスを作成する必要があります。ディテール・ドリル・アイテム・クラスにより、エンド・ユーザーはワークシートで集計ディテール・アイテムを選択し、結果を生成するために集計されたソース・データに直接ドリルできます。

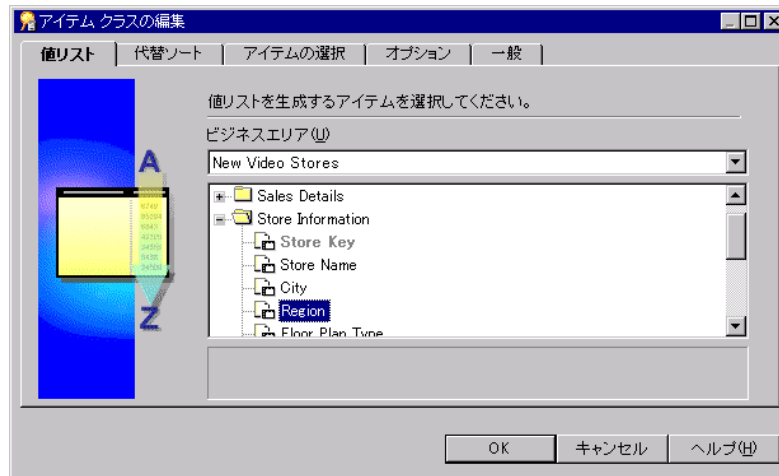
アイテム・クラスの任意のアイテムにドリルでき、そのアイテムは異なるフォルダにあっておかまいません。この2つの条件は、アイテム間にリンクが存在する必要があることと、エンド・ユーザーは同じアイテム・クラスのアイテムを含むフォルダへと簡単にディテール・ドリルできることを意味します。

次の手順では、集計情報から詳細情報にドリルするアイテム・クラスを簡単に編集し、Region フォルダからの一意の値のリストを表示する方法を説明します (Region クラスは、このチュートリアル最初にロード・ウィザードで作成したアイテム・クラスです。詳細は、第3章「演習 2: ロード・ウィザードを使用した新規ビジネスエリアの作成」を参照してください)。

ディテール・ドリル・アイテム・クラスを編集する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「アイテム クラス」タブを表示します。
2. プラス記号 (+) をクリックして「New Video Stores」ビジネスエリアを展開し、すべてのアイテム・クラスを表示します。
3. 「Region」を右クリックし、ポップアップ・メニューから「アイテム クラスの編集」を選択します。
4. 「アイテム クラスの編集」ダイアログの「値リスト」タブを表示します。
5. Store Information フォルダの「Region」アイテムが選択されていることを確認します (次の図を参照)。

図 10-17 「アイテム クラスの編集」ダイアログ: 「値リスト」タブ

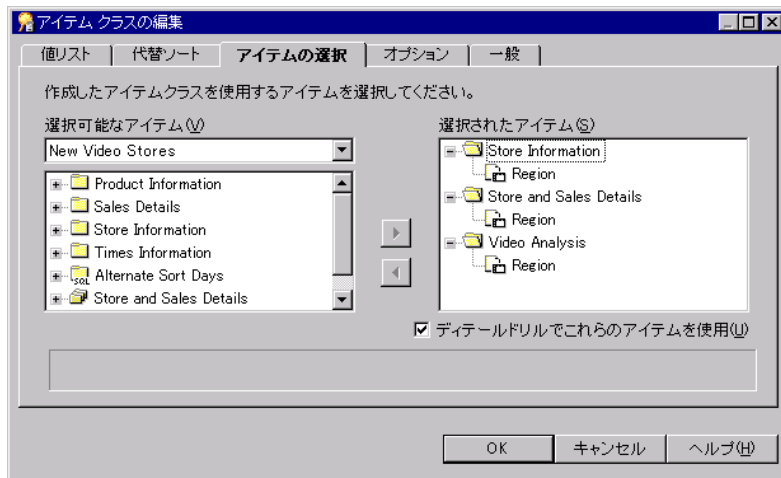


次の手順では、「Region」アイテムの一意の値のリストを定義します。

6. 「アイテム クラスの編集」ダイアログの「アイテムの選択」タブを表示します。

7. 「**選択されたアイテム**」リストに次のアイテムが表示されていることを確認します。
 - Store Information.Region
 - Store and Sales Details.Region
 - Video Analysis.Region
8. 「**ディテールドリルでこれらのアイテムを使用**」チェックボックスが選択されていることを確認します。
 これにより、アイテム・クラスをディテール・ドリルに使用できることがわかります。
9. 先に進む前に、「アイテム クラスの編集」ダイアログが次の図のように設定されていることを確認します。

図 10-18 「アイテム クラスの編集」ダイアログ: 「アイテムの選択」タブ



10. 「OK」をクリックして設定を保存し、「アイテム クラスの編集」ダイアログを閉じます。

注意: 「Region」アイテムには値リストが関連付けられているため、「ワークエリア」の「データ」タブでは、このアイテムの左にプラス記号 (+) が表示されます。エンド・ユーザーは、このアイテムにより参照される一意の値のリストを表示できます。

詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

この演習では、ディテール・ドリルにも使用する値リストのアイテム・クラスを編集しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、エンド・ユーザーが階層をドリルアップおよびドリルダウンして関連する情報を表示できるように、階層内でアイテムを設定しました。

このレッスンでは、次の演習を完了しました。

- 単一アイテム階層の定義
- より複雑なアイテム階層の定義
- 日付階層テンプレートの作成
- アイテムの内容タイプの変更
- ディテール・ドリル・データの定義

次のレッスンでは、サマリー・フォルダを作成します。サマリー・フォルダを使用すると、Discoverer Plus と Discoverer Viewer のユーザーはデータの取出しにかかる時間を短縮できます。

レッスン 10: サマリー・フォルダの作成によるパフォーマンスの最適化

レッスン 10: サマリー・フォルダの作成によるパフォーマンスの最適化

このレッスンの所要時間は、約 20 分です。

このレッスンでは、サマリー・ウィザードを使用して次の方法でサマリー・フォルダを作成します。

- 自動サマリー管理 (ASM: Automated Summary Management) 機能を使用 (サマリー・フォルダは自動的に作成されます)。
- 手動 (EUL からのアイテムを使用します)。

New Video Stores ビジネスエリアはエンド・ユーザー用に準備が完了していますが、頻繁に繰り返されるエンド・ユーザーによる問合せで本番データベース内のディテール表にアクセスするには非効率的な場合があります。ディテール表に多数の行が含まれていると、問合せ結果が戻されるまでに長時間かかることがあります。

Discoverer Administrator では、問合せ効率を改善するためにサマリー・フォルダを作成できます。サマリー・フォルダは、エンド・ユーザーがワークシートで分析することがわかっている、事前に集計されたデータを参照します。Discoverer の問合せは、問合せを実行するたびに大量のディテール・データを集計しなくてもよいように、事前に集計されたデータにダイレクトして問合せ効率を最適化できます。

注意：Discoverer 管理者には、Discoverer の ASM 機能を使用してサマリー・フォルダを作成することをお勧めします。ASM の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

このレッスンは、次の演習で構成されています。

- 「[演習 1: 自動サマリー管理 \(ASM\) を使用したサマリー・フォルダの作成](#)」
- 「[演習 2: 手動によるサマリー・フォルダの作成](#)」

演習 1: 自動サマリー管理（ASM）を使用したサマリー・フォルダの作成

この演習では、サマリー・ウィザードと自動サマリー管理（ASM）を使用して、サマリー・フォルダを作成します。

ASM とは、ユーザーにかわってサマリー・フォルダの作成と管理を行う Discoverer の機能です。

ASM は次の方法で実行できます。

- ロード・ウィザードを使用する方法
「ロードウィザードステップ 4」ダイアログを使用すると、「作成されたフォルダをベースとしたサマリー」チェックボックスを選択できます（詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください）。
- サマリー・ウィザードを使用する方法

ASM を使用してサマリー・フォルダを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「挿入」→「サマリー」を選択して、「サマリー ウィザード」ダイアログを表示します。

図 11-1 「サマリー ウィザード」ダイアログ



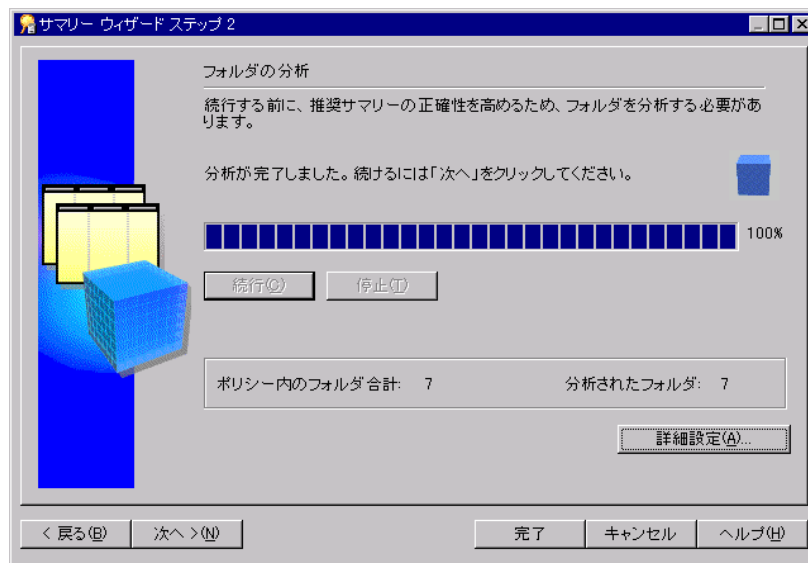
2. 「Discoverer の推奨するサマリーを作成」ラジオ・ボタンを選択します。

3. 「次へ」をクリックし、「サマリー ウィザード ステップ 2」ダイアログを表示します。
4. 「開始」をクリックすると、ASM により End User Layer (EUL) 内のフォルダが分析されます。

ASM によるフォルダの分析は、適切なサマリー・フォルダ・セットを作成対象として提示できるように、現行 EUL 内から開始されます。

分析中のフォルダ数を示す進行状況バーが表示されます。

図 11-2 「サマリー ウィザード ステップ 2」ダイアログ



フォルダ分析が完了すると、「分析が完了しました。続けるには「次へ」をクリックしてください。」というメッセージが表示されます。

5. 「次へ」をクリックし、「サマリー ウィザード ステップ 3」ダイアログを表示します。

図 11-3 「サマリー ウィザード ステップ 3」 ダイアログ

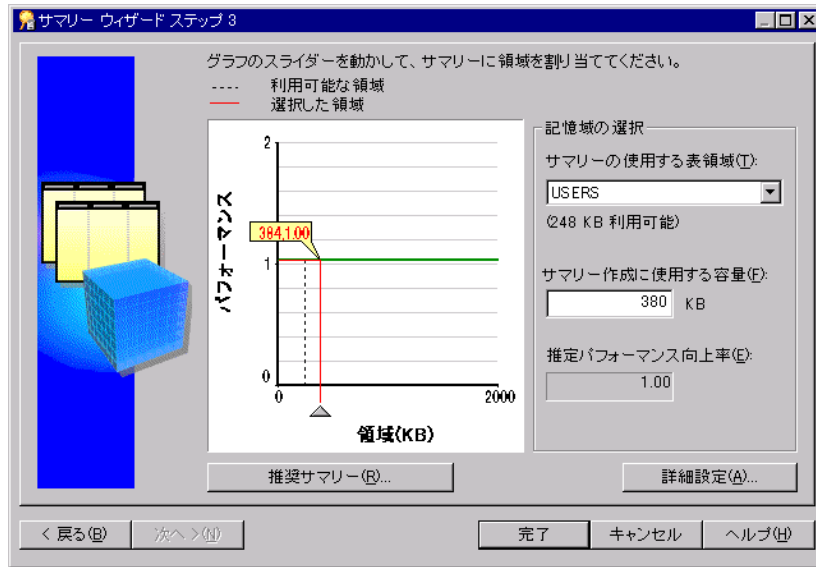


図 11-3 のダイアログには、次を示すグラフが表示されています。

- 推奨されたサマリー・フォルダの作成により達成される問合せパフォーマンスの向上
- 新規サマリー・フォルダに使用されるデータベースの領域

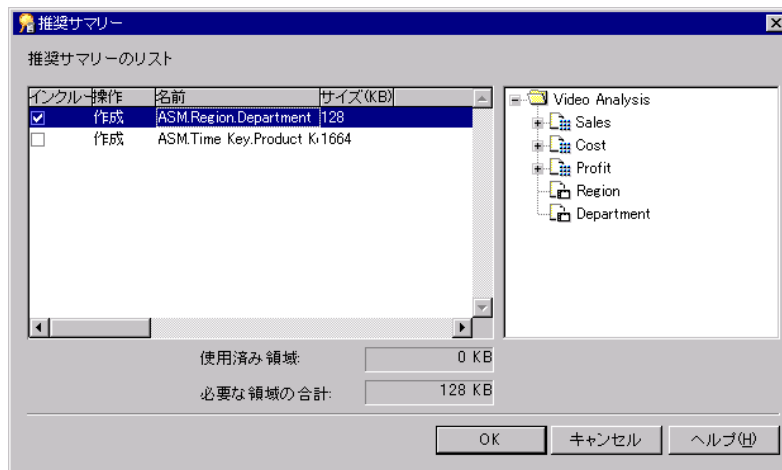
このダイアログでは、ASM でサマリー・フォルダに使用させる表領域のサイズを設定できます。グラフのポインタと「サマリー作成に使用する容量」フィールドを使用して、Discoverer で使用される表領域のサイズを変更できます。

注意：「サマリーの使用する表領域」フィールドまたは「サマリー作成に使用する容量」フィールドの値は小さくしないでください。

注意：前述の図に表示されている推定パフォーマンス向上率は、エンド・ユーザーの問合せから収集された問合せ統計の一部と、データベース表に関する一部のデータから計算されています。Discoverer では、以前に実行されたエンド・ユーザーの問合せから統計が収集されるため、通常の使用時にはパフォーマンス向上率が高くなります。ただし、Discoverer ではまだエンド・ユーザーの問合せ統計が収集されていない場合があります。

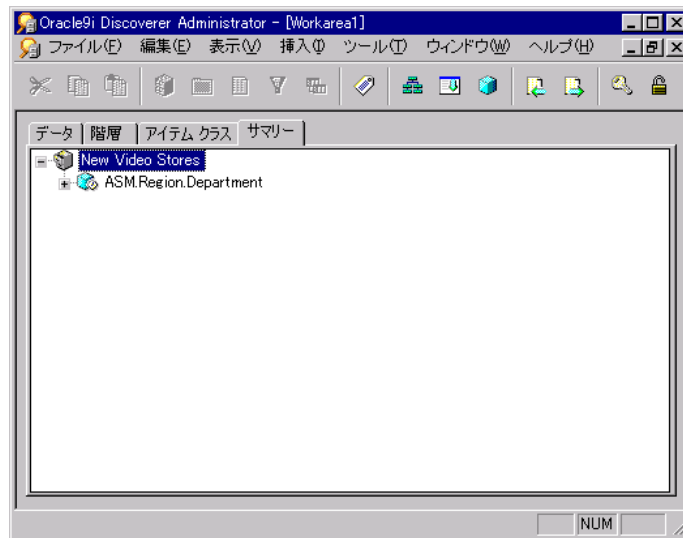
6. 「推奨サマリー」をクリックして、「推奨サマリー」ダイアログを表示します。
「推奨サマリー」ダイアログには、ASM により推奨されるサマリー・フォルダが表示されます。
7. 推奨サマリー・フォルダの 1 つをクリックして、現在選択されているサマリー・フォルダの作成に使用するソース・フォルダを表示します。

図 11-4 「推奨サマリー」ダイアログ



8. 「キャンセル」をクリックし、「サマリー ウィザード ステップ 3」ダイアログを再表示します。
9. 「完了」をクリックすると、ASM によりサマリー・フォルダが自動的に作成されます。
サマリー・フォルダの作成中は、進行状況ダイアログが表示されます。
その後、サマリー・フォルダの作成が完了したことを示す「サマリーの自動作成」ダイアログが表示されます。
10. 「OK」をクリックします。
11. 「ワークエリア」の「サマリー」タブを表示して、ASM により作成されたサマリー・フォルダを確認します。

図 11-5 「ワークエリア」: 「サマリー」タブ



ASM により、エンド・ユーザーの問合せパフォーマンスを改善するサマリー・フォルダが作成されています。エンド・ユーザーのサマリー・フォルダが最も適切かどうかを確認するには、ASM を定期的に実行する必要があります。

ASM の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

この演習では、サマリー・ウィザードと自動サマリー管理（ASM）を使用して、サマリー・フォルダを作成しました。

演習 2: 手動によるサマリー・フォルダの作成

この演習では、サマリー・ウィザードを使用し、EUL に存在するアイテムに基づくサマリー・フォルダを指定して、サマリー・フォルダを手動で作成します。

サマリー・フォルダを手動で作成する手順は、次のとおりです。

1. 「挿入」 → 「サマリー」を選択して、「サマリー ウィザード」ダイアログを表示します。

図 11-6 「サマリー ウィザード」ダイアログ



2. 「サマリーを個別に指定」ラジオ・ボタンをクリックします。
3. 「次へ」をクリックし、「サマリー ウィザード ステップ 2」ダイアログを表示します。
4. 「End User Layer 上のアイテムを指定」ラジオ・ボタンを選択します。

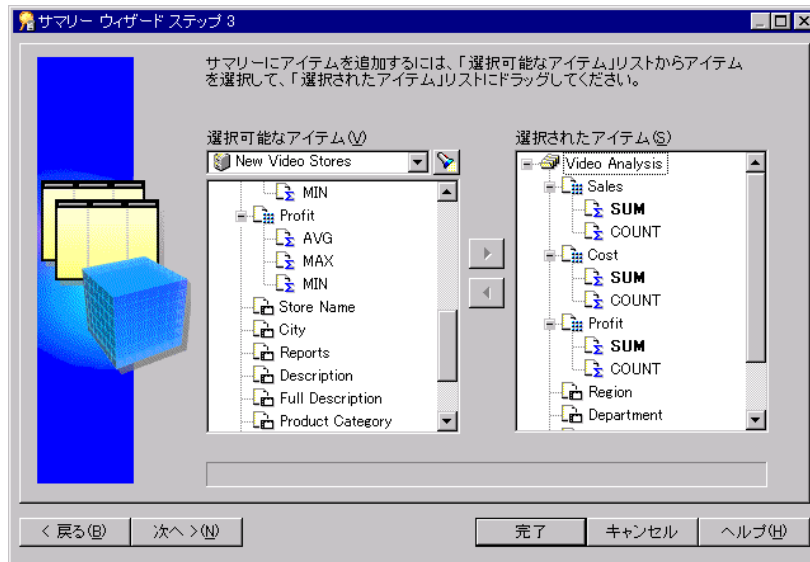
図 11-7 「サマリー ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



5. 「次へ」をクリックし、「サマリー ウィザード ステップ 3」ダイアログを表示します。
6. ドロップダウン・リストから「New Video Stores」ビジネスエリアを選択します。
7. Video Analysis フォルダ内の次のアイテムを、「選択可能なアイテム」リストから「選択されたアイテム」リストに移動します。
 - Region
 - Department
 - Transaction Date
 - Year
 - Month
8. Video Analysis フォルダ内の次のデータ・ポイント（数値）アイテムごとに、SUM および COUNT 関数を「選択可能なアイテム」リストから「選択されたアイテム」リストに移動します。
 - Sales
 - Cost
 - Profit

9. 先に進む前に、「サマリー ウィザード ステップ 3」ダイアログが次の図のように設定されていることを確認します。

図 11-8 「サマリー ウィザード ステップ 3」ダイアログ



10. 「次へ」をクリックし、「サマリー ウィザード ステップ 4」ダイアログを表示します。

次の作業は、Discoverer で作成して管理するサマリー組合せを選択することです。

注意：サマリー組合せとは、サマリー・フォルダを構成する軸アイテムとメジャー・アイテムの個別セットです。エンド・ユーザーがサマリー組合せで指定されているのと同じアイテムを使用して問合せを実行すると、データベース内のディテール・データのかわりに、事前に集計されたサマリー・データに対して問合せが実行されます。その結果、すべてのディテール行をスキャンするかわりに、事前に集計されたデータが使用されるため、問合せパフォーマンスが改善されます。

「サマリー ウィザード ステップ 4」ダイアログでは、番号付きの各列がサマリー組合せを表します。

11. 「組合せの追加」をクリックし、新規組合せ列を作成します。

12. 新規列（1 にマーク付けされている列）で、次のアイテムを選択します。
 - Region
 - Department
 - Transaction Date
13. 列 1 で、「Year」および「Month」の右のチェックボックスを選択解除します。
14. 先に進む前に、「サマリー ウィザード ステップ 4」ダイアログが次の図のように設定されていることを確認します。

図 11-9 「サマリー ウィザード ステップ 4」ダイアログ



15. 「次へ」をクリックし、「サマリー ウィザード ステップ 5」ダイアログを表示します。

次の作業は、サマリー・フォルダの初期リフレッシュおよび定期リフレッシュ間隔をスケジュールし、サマリー・フォルダ名を指定して、作成スケジュールを設定することです。

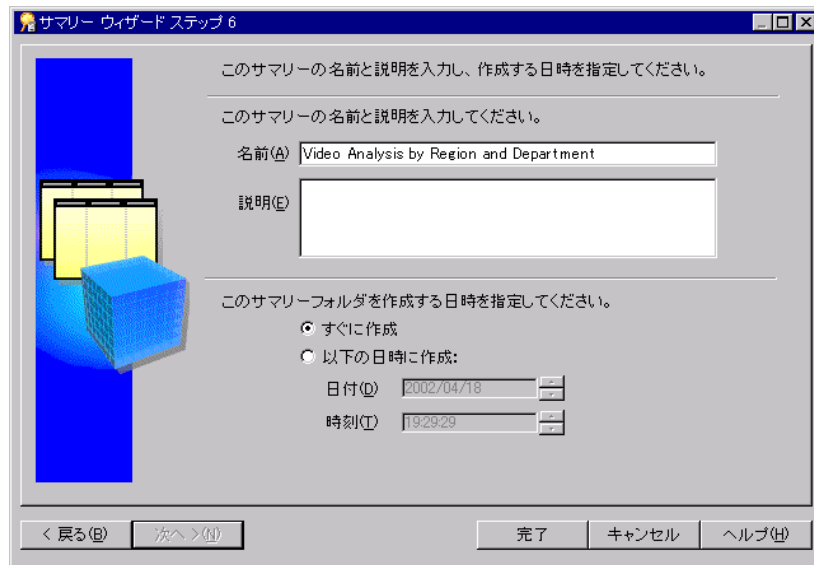
注意：リフレッシュ・スケジュールにより、Discoverer でサマリー・フォルダ内のデータが自動的に更新される間隔が確立されます。Discoverer 管理者は、集計されたサマリー・データがエンド・ユーザーから要求される間隔で最新になるように、定期リフレッシュをセットアップする必要があります。

図 11-10 「サマリー ウィザード ステップ 5」 ダイアログ



16. 「次の日時からこのサマリーフォルダを自動リフレッシュ:」 チェックボックスを選択解除します。
17. 「次へ」をクリックして、ウィザードの最終ページである「サマリー ウィザード ステップ 6」ダイアログを表示します。

図 11-11 「サマリー ウィザード ステップ 6」 ダイアログ



18. 「名前」フィールドに「Video Analysis by Region and Department」と入力します。
19. 「説明」フィールドは空白のままにします。
20. 「すぐに作成」ラジオ・ボタンをクリックします。
21. 「完了」をクリックすると、Discovererにより新規サマリー・フォルダが作成されます。
サマリーの作成中には、進行状況バーが表示されます。
22. 「ワークエリア」の「サマリー」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアの左のプラス記号 (+) をクリックして、新規サマリー・フォルダを表示します。
23. 作成したサマリー・フォルダを右クリックします。
24. ポップアップ・メニューから「プロパティ」を選択します。
25. 「問合せで使用可能」プロパティが「はい」に設定されていることを確認します。
26. 「OK」をクリックします。

これで、Discoverer のサマリー・ウィザードを使用してサマリー・フォルダを手動で作成する作業は完了です。任意のサマリー組合せと一致するエンド・ユーザー問合せでは、このサマリー・フォルダを使用してパフォーマンスを改善できます。

この演習では、サマリー・ウィザードを使用し、EUL に存在するアイテムに基づくサマリー・フォルダを指定して、サマリー・フォルダを手動で作成しました。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、サマリー・ウィザードを使用して次の方法でサマリー・フォルダを作成しました。

- 自動サマリー管理（ASM: Automated Summary Management）機能を使用（サマリー・フォルダは自動的に作成されます）。
- 手動（EUL からのアイテムを使用します）。

次の章では、このチュートリアルの一部として完了した作業をすべて削除できます。

レッスン 11: チュートリアルの完了時の作業

レッスン 11: チュートリアルの完了時の作業

これで、Oracle9i Discoverer Administrator のチュートリアルは完了です。Oracle9i Discoverer Administrator の主な機能と、各機能がビジネスエリアを通じてデータベース情報のエンド・ユーザー・ビューの様々な側面に及ぼす影響を十分に理解したことになります。

エンド・ユーザーがデータベース情報をより効率的に使用できるように、Oracle9i Discoverer Administrator を使用してデータ・ビューを反映するビジネスエリアを作成する方法と、ワークシートで使用する必要のある条件と結合を作成してエンド・ユーザーによる作業を簡素化する方法を学習しました。

このチュートリアルでは、一意のチュートリアル・データベース・ユーザー、EUL、ビジネスエリアおよびサマリー・フォルダを作成しました。この時点で、これらのオブジェクトをすべてデータベースから削除できます。

このレッスンでは、チュートリアルの一部として完了した作業をすべて削除します。

このチュートリアルの一部として完了した作業をすべて削除するには、次の演習に進んでください。

- 「[演習 1: ビジネスエリアからのサマリー・フォルダの削除](#)」
- 「[演習 2: New Video Stores ビジネスエリアの削除](#)」
- 「[演習 3: チュートリアル・データベース・ユーザーが所有する EUL の削除](#)」
- 「[演習 4: データベースからのチュートリアル・データベース・ユーザーの削除](#)」

演習 1: ビジネスエリアからのサマリー・フォルダの削除

ビジネスエリアからサマリー・フォルダを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「サマリー」タブを表示します。
Discoverer で New Video Stores ビジネスエリアを削除するには、先にレッスン 10 で作成したサマリー・フォルダをすべて削除する必要があります。
2. New Video Stores ビジネスエリアのすべてのサマリー・フォルダを選択します。
3. 「編集」→「削除」を選択して、「削除の確認」ダイアログを表示します。
4. 「はい」をクリックして、チュートリアルの一部として作成したサマリー・フォルダを削除します。

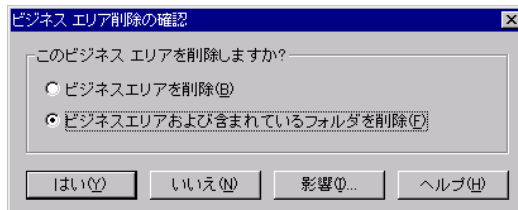
これで New Video Stores ビジネスエリアを削除できます。

演習 2: New Video Stores ビジネスエリアの削除

New Video Stores ビジネスエリアを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ワークエリア」の「データ」タブを表示し、「New Video Stores」ビジネスエリアをクリックします。
2. 「編集」→「削除」を選択して、「ビジネス エリア削除の確認」ダイアログを表示します。

図 12-1 「ビジネス エリア削除の確認」ダイアログ



3. 「ビジネス エリアおよび含まれているフォルダを削除」ラジオ・ボタンを選択します。
4. 「はい」をクリックして New Video Stores ビジネスエリアを削除します。

演習 3: チュートリアル・データベース・ユーザーが所有する EUL の削除

チュートリアル・データベース・ユーザーが所有する EUL を削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ツール」→「EUL マネージャ」を選択すると、「EUL マネージャ」ダイアログが表示されます。
2. 「既存の EUL を削除」をクリックすると、「EUL の削除」ダイアログが表示されます。

注意：「EUL」フィールドに表示されている EUL が、チュートリアル・データベース・ユーザー名と同じであることを確認します。異なっている場合は、チュートリアル・データベース・ユーザー名とパスワードを使用して Discoverer に再接続し、手順 1 および 2 を繰り返してください。

3. 「OK」をクリックします。
警告ダイアログが表示されます。
4. 「はい」をクリックして、チュートリアル・データベース・ユーザーが所有する EUL を削除します。
「進行状況」ダイアログが表示されます。
5. 「EUL が削除されました。」ダイアログが表示された時点で「OK」をクリックします。

このチュートリアルの一部として行った作業内容がすべて EUL から削除されました。次に、チュートリアル・データベース・ユーザーをデータベースから削除する必要があります。

演習 4: データベースからのチュートリアル・データベース・ユーザーの削除

データベースからチュートリアル・データベース・ユーザーを削除する手順は、次のとおりです。

1. SQL*Plus を起動します。
SQL*Plus の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。
2. DBA 権限を持つデータベース・ユーザー名とパスワードを使用して、データベースに接続します。
3. SQL> プロンプトで次の SQL を入力します。

```
SQL> drop user admintutor(your initials) cascade;
```
4. SQL> プロンプトで次の SQL を入力します。

```
SQL> commit;
```

SQL*Plus により、チュートリアル・データベース・ユーザーがデータベースから削除され、次のメッセージが表示されます。

User dropped

このチュートリアルの一部として作成した作業内容がすべて EUL から削除されました。

Discoverer Administrator 機能の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

レッスンのまとめ

このレッスンでは、チュートリアルの一部として完了した作業の内容を、次の手順ですべて削除しました。

- ビジネスエリアからのサマリー・フォルダの削除
- New Video Stores ビジネスエリアの削除
- チュートリアル・データベース・ユーザーが所有する EUL の削除
- データベースからのチュートリアル・データベース・ユーザーの削除

Discoverer チュートリアル用 EUL、データ およびワークブックのインストール

Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール

この項では、Discoverer Administrator チュートリアルを行えるように、Discoverer チュートリアル用の EUL、データおよびワークブックをインストールする方法について説明します。この手順では、Discoverer Plus チュートリアルに使用する Video Tutorial Workbook もインストールされます。

この項の項目は、次のとおりです。

- 「Discoverer Administrator チュートリアル・ユーザーがチュートリアル・レッスンを開始するためのデータベースの前提条件」
- 「Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール時の処理」
- 「チュートリアル・データのインストールに必要な権限」
- 「Discoverer Administrator に初めて接続するときに適用される条件」
- 「EUL の作成が必要な理由」
- 「Discoverer チュートリアルの EUL、データおよびワークブックのインストール手順」
- 「チュートリアル用プライベート EUL の作成方法」
- 「Discoverer チュートリアルのインストール方法」
- 「VIDEO5 データベース・ユーザーにチュートリアル EUL 用のアクセス権限を付与する方法」
- 「Video Tutorial Workbook にアクセスするためのパブリック接続の作成方法」
- 「チュートリアル用ビジネスエリアを他の End User Layer にインストールする方法」
- 「チュートリアル用ビジネスエリア、表およびデータをアンインストールする方法」
- 「チュートリアル・データを再インストールする方法」

Discoverer Administrator チュートリアル・ユーザーがチュートリアル・レッスンを開始するためのデータベースの前提条件

Discoverer Administrator チュートリアル・ユーザーがチュートリアル・レッスンを開始する前に、データベースに次が存在している必要があります。

- End User Layer (EUL)
- VIDEO5 データベース・ユーザー
- VIDEO5 データ

注意：Discoverer Administrator を初めて使用するときには、VIDEO5 データベース・ユーザーが存在しない場合があります。VIDEO5 データベース・ユーザーが存在しない場合は、チュートリアルのインストール時に作成できます（詳細は、「[Discoverer チュートリアルのインストール方法](#)」を参照）。

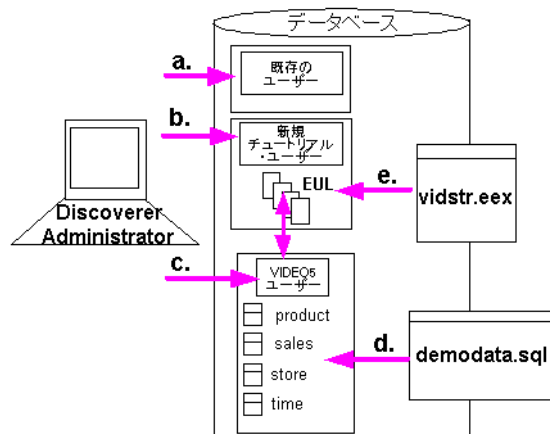
Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール時の処理

Discoverer EUL、データおよびワークブックのインストール時には、Discoverer Administrator により次の操作が実行されます。

- 指定した名前で新規データベース・ユーザーが作成されます（このユーザーが EUL の所有者になります）。
- 新規 EUL が作成されます。
- VIDEO5 データベース・ユーザーが存在しない場合は、Discoverer により次の操作が実行されます。
 - 新規データベース・ユーザー VIDEO5 が作成されます。
 - VIDEO5 データベース・ユーザーの表領域にチュートリアル表が作成されます。
 - チュートリアル表にチュートリアル・データが移入されます。
- 新規 EUL に VIDEO5 表のメタデータが移入されます（つまり、ファイル vidstr.eex からチュートリアルのビジネスエリアがインポートされます）。

次の図に、チュートリアルのインストール時に発生するイベントを示します。

図 A-1 チュートリアルインストール時に発生するイベント



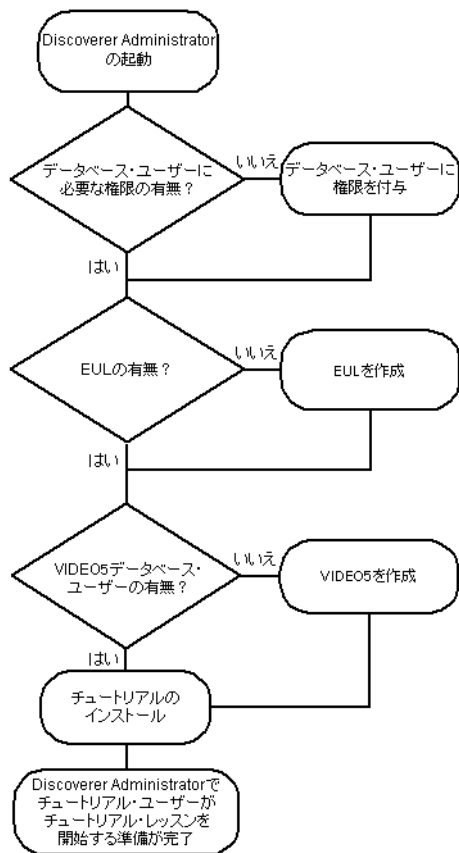
前述の図では、次のことに注意してください。

- a. チュートリアルインストールに必要な権限を持つ既存のデータベース・ユーザーとして、Discoverer Administrator に接続します（詳細は、「[チュートリアル・データのインストールに必要な権限](#)」を参照）。
- b. 新規データベース・ユーザー用の EUL が作成されます。
- c. EUL にチュートリアル・データをインストールするように選択すると、Discoverer Administrator により VIDEO5 ユーザーが作成されます（未作成の場合）。
- d. Discoverer Administrator により VIDEO5 ユーザー表（Product、Sales Fact、Store、Time など）が作成され、ファイル demodata.sql からデータが移入されます。
- e. Discoverer Administrator により、新規データベース・ユーザー用の EUL に、ファイル vidstr.eex からビデオ・ストア・チュートリアル・ビジネスエリアのメタデータが移入されます。

注意： Oracle 以外のデータベースを使用している場合は、チュートリアルをインストールする前に、データベースに VIDEO5 データベース・ユーザーを作成する必要があります。

次の図に、チュートリアルインストール時の選択肢を示します。

図 A-2 Discoverer チュートリアルインストール時の選択肢を示すフロー・チャート



チュートリアル・データのインストールに必要な権限

現行の EUL にチュートリアル・データをインストールするには、Discoverer Administrator への接続に使用するデータベース・ユーザーに多数のデータベース権限が必要です。

- CREATE TABLE
- CREATE VIEW
- CREATE PROCEDURE

ヒント: スクリプト <ORACLE_HOME>%discv902%sql%eulasm.sql を実行すると、データベース・ユーザーに前述の権限を付与できます。

- VIDEO5 ユーザーが作成されていない場合は、さらに次のデータベース権限が必要です。
 - CREATE USER
 - GRANT ANY PRIVILEGE
 - ALTER USER
- Oracle 8.1.6 以上のデータベースに対して実行する場合は、Discoverer のサマリー管理および ASM 機能を使用するために、さらに次のデータベース権限も必要です。
 - CREATE ANY MATERIALIZED VIEW
 - DROP ANY MATERIALIZED VIEW
 - ALTER ANY MATERIALIZED VIEW
 - GLOBAL QUERY REWRITE
 - ANALYZE ANY

ヒント: スクリプト <ORACLE_HOME>%discv902%sql%eulasm.sql を実行すると、データベース・ユーザーに前述の権限を付与できます。

- SELECT ON V_\$PARAMETER

前述のデータベース権限を付与する方法の詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。

Discoverer Administrator に初めて接続するときに適用される条件

Discoverer Administrator に初めて接続するときには、次の条件が適用されます。

- 特定の権限を持つデータベース・ユーザー（チュートリアル・データをインストールするには DBA ユーザーなど）として接続すること。
詳細は、「[チュートリアル・データのインストールに必要な権限](#)」を参照してください。
- データベースには EUL も EUL メタデータも存在しないこと。
- VIDEO5 データベース・ユーザーおよび表が作成されていないこと。

VIDEO5 データベース・ユーザーが存在しない場合は、チュートリアル・レッスンを開始する前に作成し、VIDEO5 表にチュートリアル・データを移入する必要があります。詳細は、「[Discoverer チュートリアル用 EUL、データおよびワークブックのインストール時の処理](#)」を参照してください。

EUL の作成が必要な理由

次の操作を行えるように、EUL を作成する必要があります（EUL が存在しない場合）。

- Discoverer チュートリアル のインストール
- VIDEO5 ユーザーの作成と VIDEO5 表へのデータの移入
- Discoverer Administrator チュートリアル の完了

チュートリアルを EUL にインストールすると、EUL へのアクセス権限を持つすべてのユーザーがチュートリアル・データを使用できます。

Discoverer チュートリアル の EUL、データおよびワークブックのインストール手順

Discoverer チュートリアル の EUL、データおよびワークブックをインストールする手順は、次のとおりです。

1. プライベート EUL を作成します。「[チュートリアル用プライベート EUL の作成方法](#)」を参照してください。
2. 作成したプライベート EUL に Discoverer チュートリアル・データをインストールします。「[Discoverer チュートリアル のインストール方法](#)」を参照してください。
3. VIDEO5 ユーザーに、チュートリアル EUL へのアクセスに必要な権限があるかどうかを確認します。「[VIDEO5 データベース・ユーザーにチュートリアル EUL 用のアクセス権限を付与する方法](#)」を参照してください。

- （オプション）Discoverer Plus ユーザーが事前定義の接続を使用して Video Tutorial Workbook にアクセスできるように、VIDEO5 ユーザー用のパブリック接続を作成します。「[Video Tutorial Workbook にアクセスするためのパブリック接続の作成方法](#)」を参照してください。

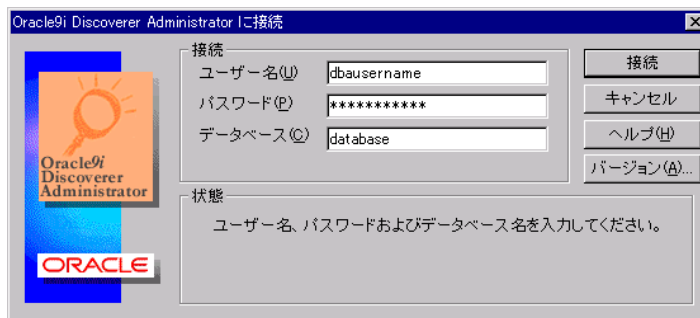
チュートリアル用プライベート EUL の作成方法

EUL が存在しない場合は作成します。チュートリアル EUL を作成するには、十分な権限を持つデータベース・ユーザーとして Discoverer に接続し（詳細は、「[チュートリアル・データのインストールに必要な権限](#)」を参照）、新規データベース・ユーザー用の EUL を作成する必要があります。

チュートリアル EUL を作成する手順は、次のとおりです。

- Windows の「スタート」メニューから「プログラム」、「Oracle9i Developer Suite - <HOME_NAME>」、「Discoverer Administrator」、「Oracle9i Discoverer Administrator」の順に選択し、「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログを表示します。

図 A-3 「Oracle9i Discoverer Administrator に接続」ダイアログ



- 十分な権限を持つデータベース・ユーザー名（DBA ユーザーなど）を入力します。
詳細は、「[チュートリアル・データのインストールに必要な権限](#)」を参照してください。
- パスワードを入力します。
- 「データベース」フィールドで、次のように操作します。
 - デフォルト・データベースにログインする場合は、このフィールドを空白のままにします。

Oracle 8.1.6 以上のデータベースの場合、この接続を機能させるには tnsnames.ora ファイルにエントリが必要です（詳細は、Discoverer 管理者に問い合せてください）。

- デフォルト・データベース以外の Oracle データベースにログインしている場合は、適切な SQL*Net 接続文字列を指定します（接続文字列の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください）。
- Oracle 以外のデータベースにログインしている場合は、「ODBC:<data source name>」と入力します。

5. 「接続」をクリックします。

Discoverer Administrator の動作は、接続に使用するデータベース・ユーザー用の EUL が作成済みかどうかに応じて異なります。

EUL が存在しない場合は、「ここで EUL を作成しますか?」というメッセージが表示されます。

6. 「はい」をクリックして「EUL マネージャ」ダイアログを表示します。

ヒント: 1 つ以上の EUL が存在する場合は、ロード・ウィザードが表示されます。ロード・ウィザードで「キャンセル」をクリックし、「ツール」→「EUL マネージャ」を選択して「EUL マネージャ」ダイアログを表示します。

図 A-4 「EUL マネージャ」ダイアログ



7. 「新しい EUL を作成 ...」をクリックします。「EUL 作成ウィザード」ダイアログが表示されます。

図 A-5 「EUL 作成ウィザード」 ダイアログ



このウィザードを使用して、EUL と新規データベース・ユーザーを作成します。チュートリアル・データを VIDEO5 ユーザーにインストールする前に、新規 EUL とデータベース・ユーザーを作成する必要があります。

8. 「新規ユーザーを作成」ラジオ・ボタンを選択します。

9. 次のチェックボックスを選択解除します。

- 「パブリック シノニムにアクセスを許可する」チェックボックス
- 「新規 EUL は Oracle Applications ユーザー用のみ」チェックボックス

10. 「ユーザー」フィールドに新規データベース・ユーザーの名前を入力します。

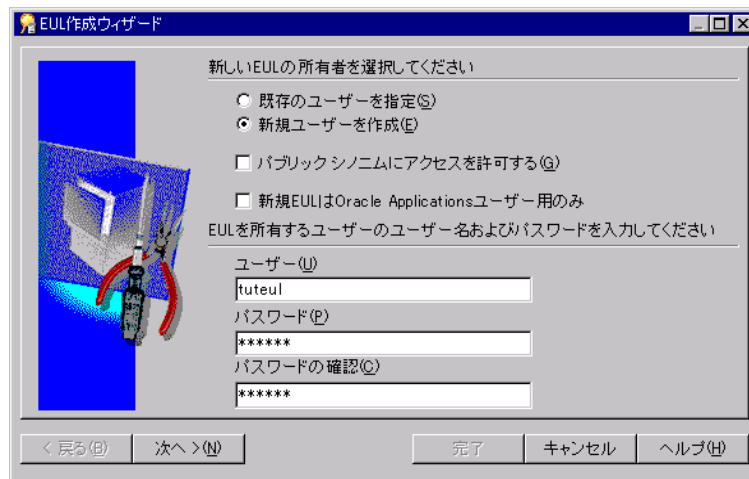
新規データベース・ユーザーには任意の名前を使用できます。たとえば、「TUTEUL」と入力してチュートリアル・ユーザーを識別できます。

11. 「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドにパスワードを入力します。

ヒント：前述のステップで入力したのと同じユーザー名を、「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに入力できます。

12. 「EUL 作成ウィザード」で、ラジオ・ボタンとチェックボックスが次のように設定されていることを確認します。

図 A-6 「EUL 作成ウィザード」 ダイアログ



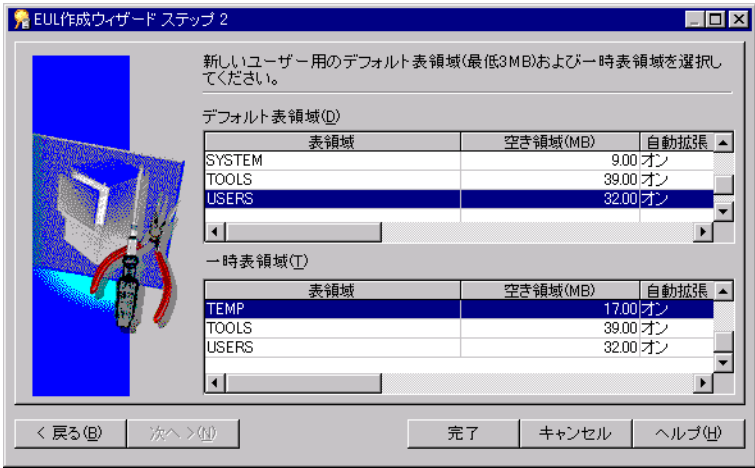
13. 「次へ」をクリックすると、「EUL 作成ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

図 A-7 「EUL 作成ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



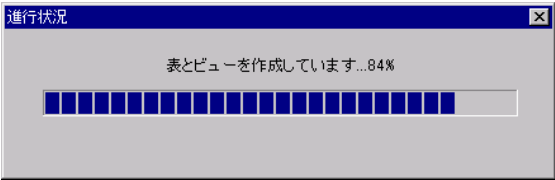
14. デフォルト表領域と一時表領域を選択します。
- たとえば、デフォルト表領域として「USERS」、一時表領域として「TEMP」を選択します。

図 A-8 「EUL 作成ウィザード ステップ 2」 ダイアログ



15. 「完了」をクリックすると、Discoverer Administrator により EUL が作成されます。
- 進行状況バーが表示されます。

図 A-9 進行状況バー



Discoverer Administrator により新規 EUL が作成されると、EUL が正常に作成されたことを示すメッセージが表示されます。

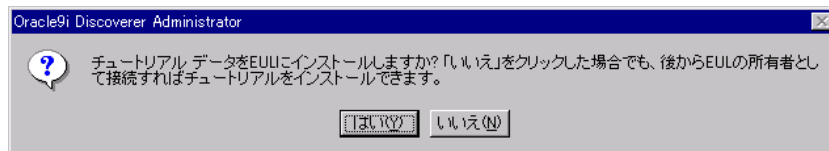
図 A-10 EUL 作成完了ダイアログ



16. 「OK」をクリックします。

最初の EUL の作成を完了したため、チュートリアルをインストールする必要があります。

図 A-11 「チュートリアル データを EUL にインストールしますか？」 ダイアログ



17. 「はい」をクリックして「チュートリアル インストール」ダイアログを表示します。

図 A-12 「チュートリアル インストール」ダイアログ



18. 次の「[Discoverer チュートリアルインストール方法](#)」の手順を完了します。

Discoverer チュートリアルインストール方法

チュートリアル用のプライベート EUL の作成を完了したため、Discoverer チュートリアルをプライベート EUL にインストールできます（詳細は、「[チュートリアル用プライベート EUL の作成方法](#)」を参照）。

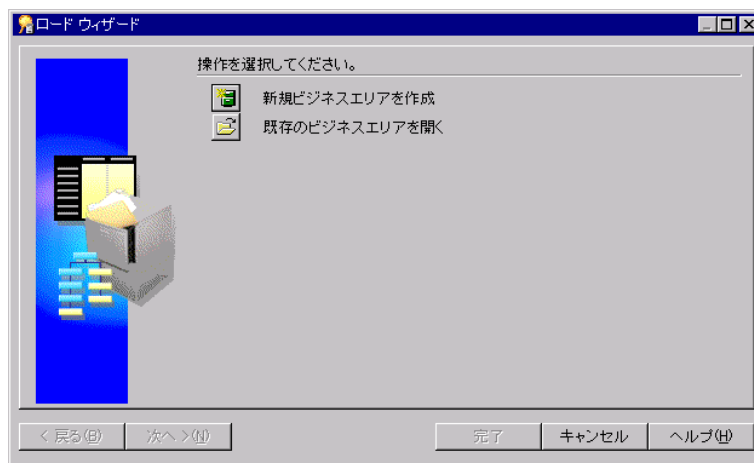
Discoverer チュートリアルインストール方法は、インストールを決定する時期に応じて異なります。

- チュートリアル EUL を作成した直後に Discoverer チュートリアルをインストールするには、次の手順のステップ 5 から始めます。
 - 既存の EUL に Discoverer チュートリアルをインストールするには、次の手順のステップ 1 から始めます。
1. チュートリアル用ビジネスエリアを含める EUL の所有者として Discoverer Administrator に接続します（詳細は、[第 3 章「演習 1: Discoverer Administrator への接続」](#)を参照）。

注意：データベースへの接続に使用するデータベース・ユーザーに、チュートリアルのインストールに必要な権限があるかどうかを確認してください（詳細は、「[チュートリアル・データのインストールに必要な権限](#)」を参照）。

ロード・ウィザードが表示されます。

図 A-13 「ロード ウィザード」 ダイアログ



2. 「キャンセル」をクリックしてロード・ウィザードを終了します。
3. 「ツール」→「EUL マネージャ」を選択すると、「EUL マネージャ」ダイアログが表示されます。

図 A-14 「EUL マネージャ」ダイアログ



4. 「チュートリアルをインストール ...」をクリックして、「チュートリアルインストールウィザード ステップ 1」ダイアログを表示します。

図 A-15 「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 1」ダイアログ



「EUL」フィールドに表示される EUL に、チュートリアル用ビジネスエリアがインポートされるため注意してください。

5. 「次へ」をクリックすると、「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

図 A-16 「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 2」ダイアログ



6. 「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに「VIDEO5」と入力します。

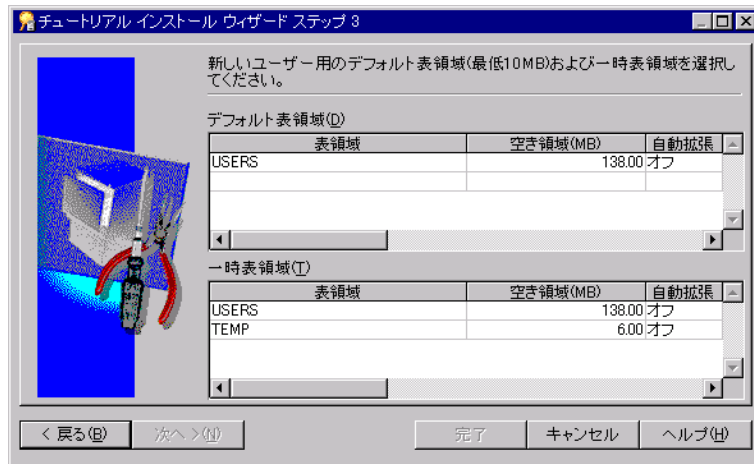
注意：チュートリアルをアンインストールまたは再インストールする場合は、このパスワード VIDEO5 を使用します。

注意：Oracle 以外のデータベースを使用している場合は、データベースに VIDEO5 ユーザーを作成してから、「チュートリアル インストール ウィザード」を再起動してください。

注意：前述とは異なるパスワードを使用できます。

7. 「次へ」をクリックして、「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 3」ダイアログを表示します。このダイアログで、VIDEO5 データベース・ユーザー用のデフォルト表領域と一時表領域を指定します。

図 A-17 「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 3」 ダイアログ

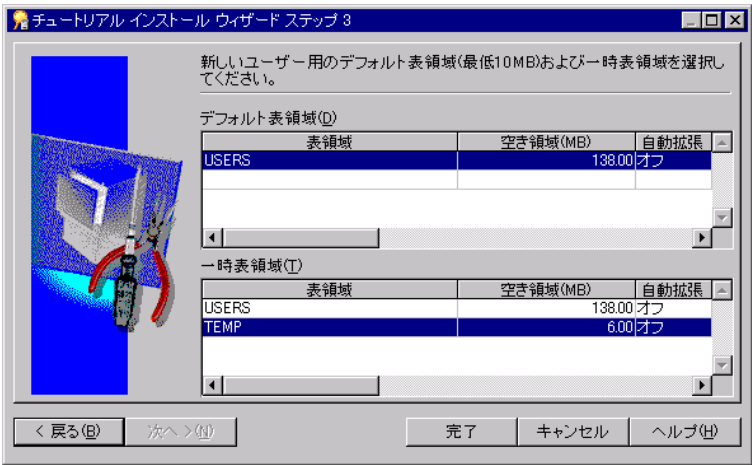


注意：VIDEO5 を新規データベース・ユーザーとして作成していない場合、「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 3」ダイアログは表示されません。

8. デフォルト表領域と一時表領域を選択します。

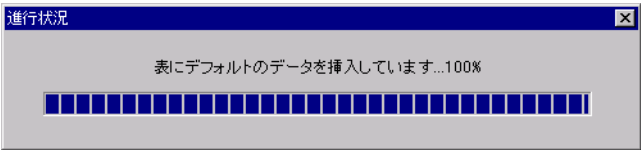
たとえば、デフォルト表領域として「USERS」、一時表領域として「TEMP」を選択します。

図 A-18 「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 3」 ダイアログ



9. 「完了」をクリックすると、「進行状況」ダイアログが表示されます。

図 A-19 「進行状況」メッセージ・ダイアログ



ファイル demodata.sql (¥sql ディレクトリ内) を使用して、VIDEO5 データベース・ユーザー表にデフォルト・データが移入され、ファイル vidstre.ex (Discoverer の実行ファイルと同じディレクトリ内) を使用して、新規 EUL にビデオ・ストア・チュートリアル ビジネスエリアがインポートされます。

このプロセスが完了すると、チュートリアル・データが正常にインストールされたことを示すダイアログが表示されます。

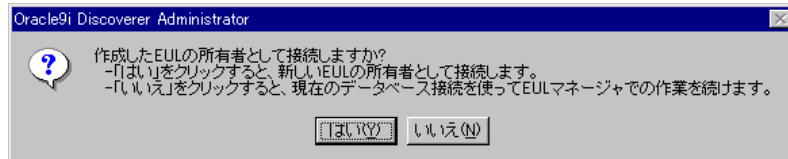
図 A-20 「チュートリアル データは正常にインストールされました。」 ダイアログ



10. 「OK」をクリックします。

次のダイアログが表示されます。

図 A-21 「作成した EUL の所有者として接続しますか？」



11. 「いいえ」をクリックして「EUL マネージャ」ダイアログを表示します。

図 A-22 「EUL マネージャ」ダイアログ



12. 「閉じる」をクリックして「EUL マネージャ」ダイアログを閉じます。

これで次の作業が完了しました。

- VIDEO5 データベース・ユーザーの作成
- VIDEO5 表へのデータの移入
- 新規 EUL へのチュートリアル・ビジネスエリアのインポート

これで Discoverer Administrator が適切に構成されたため、チュートリアル・ユーザーは次の章で説明するチュートリアル・レッスンを完了できます。

VIDEO5 データベース・ユーザーにチュートリアル EUL 用のアクセス権限を付与する方法

プライベート EUL の作成と Discoverer チュートリアル・データのインストールを完了したため、VIDEO5 データベース・ユーザーにチュートリアル EUL へのアクセス権限があることを確認する必要があります。これにより、Discoverer に VIDEO5 データベース・ユーザーとして接続する Discoverer エンド・ユーザーは、チュートリアル・データ、EUL およびワークブックにアクセスできます。

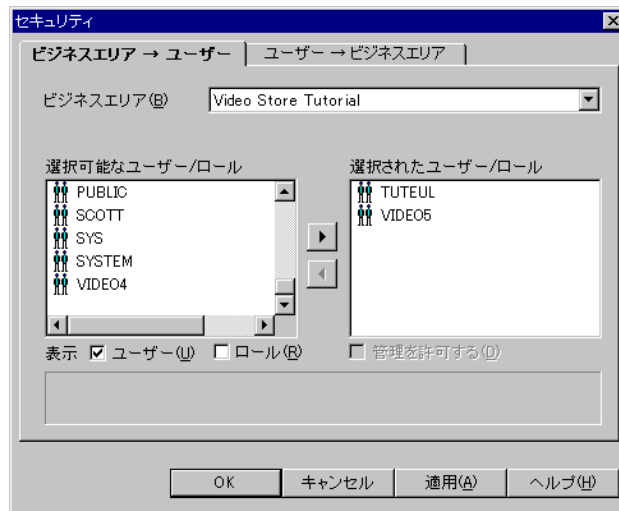
VIDEO5 データベース・ユーザーにチュートリアル EUL へのアクセス権限があることを確認する手順は、次のとおりです。

1. 「チュートリアル用プライベート EUL の作成方法」で作成したプライベート・チュートリアル EUL の所有者（TUTEUL）として、Discoverer Administrator に接続します。
2. 「ツール」→「セキュリティ」を選択して、「セキュリティ」ダイアログを表示します。
3. 「ビジネスエリア → ユーザー」タブを表示します。

VIDEO5 データベース・ユーザーが「選択されたユーザー / ロール」リストに表示されることを確認する必要があります。

4. VIDEO5 データベース・ユーザーが「選択されたユーザー / ロール」リストに表示されない場合は、このユーザーを「選択可能なユーザー / ロール」リストから「選択されたユーザー / ロール」リストに移動します。

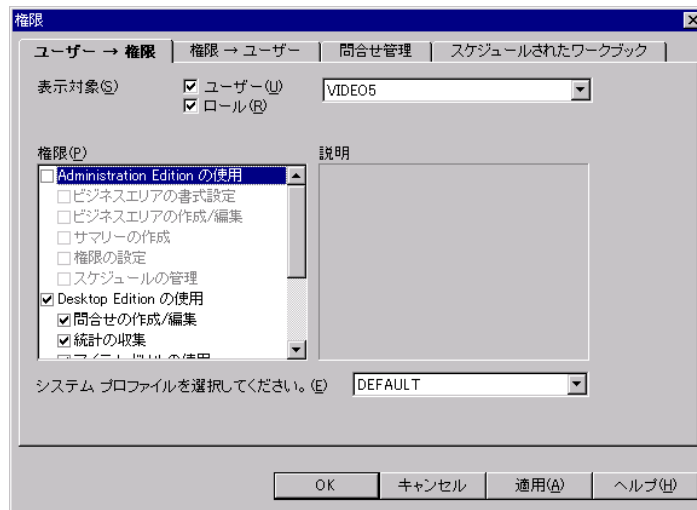
図 A-23 「セキュリティ」ダイアログ



5. 「OK」をクリックして詳細を保存し、「セキュリティ」ダイアログを閉じます。
6. 「ツール」→「権限」を選択して、「権限」ダイアログを表示します。
7. 「ユーザー → 権限」タブを表示します。
8. ユーザー / ロールのドロップダウン・リストをクリックし、データベース・ユーザー / ロールを表示します。
9. VIDEO5 データベース・ユーザーを選択します。

VIDEO5 ユーザーに「Desktop Edition の使用」（つまり、Discoverer Desktop および Discoverer Plus の使用）権限があり、「Administration Edition の使用」権限がないことを確認する必要があります。
10. 「権限」リストで、「Administration Edition の使用」チェックボックスが選択解除され、「Desktop Edition の使用」チェックボックスが選択されていることを確認します。

図 A-24 「権限」 ダイアログ



11. 「Desktop Edition の使用」権限リストで、「ワークブックのスケジュール設定」および「パスワードの変更」チェックボックスを選択解除します。

図 A-25 「Desktop Edition の使用」権限



12. 「OK」をクリックして詳細を保存し、「権限」ダイアログを閉じます。

これで、VIDEO5 データベース・ユーザーには、チュートリアル EUL、データおよびワークブックへのアクセスに必要な権限が付与されました。

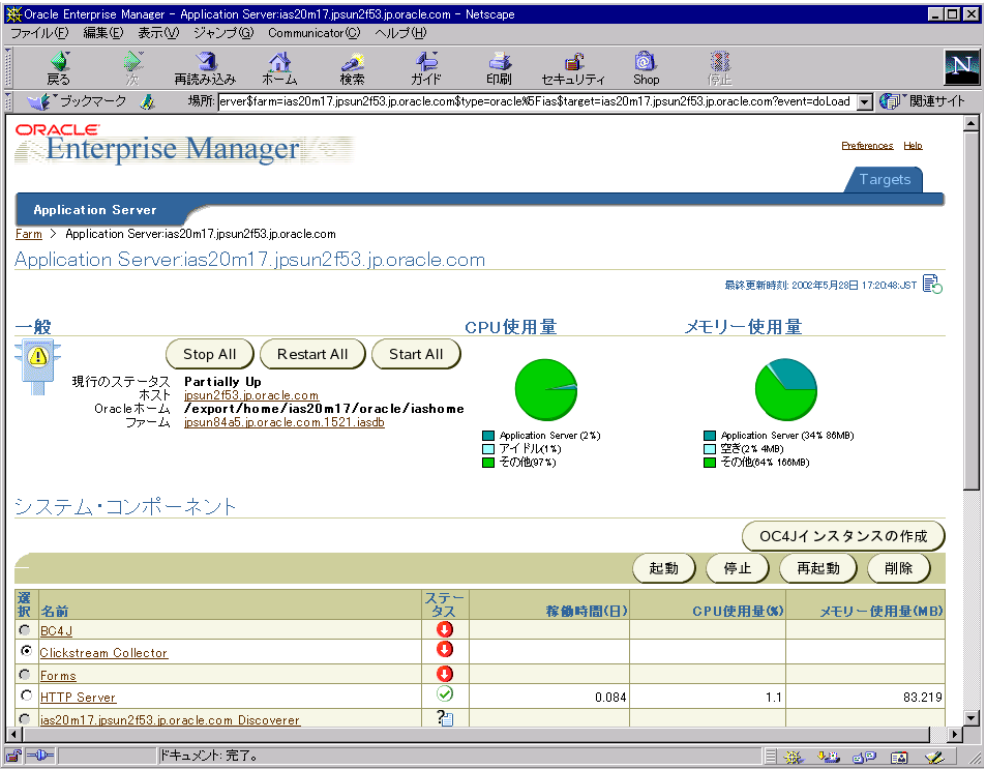
Video Tutorial Workbook にアクセスするためのパブリック接続の作成方法

Discoverer Plus ユーザーが Video Tutorial Workbook に簡単にアクセスできるように、すべての Discoverer Plus チュートリアル・ユーザーが Discoverer Plus の起動に使用するパブリック接続を作成できます。パブリック接続は、Discoverer エンド・ユーザーが先にユーザー定義接続を作成しないで Video Tutorial Workbook にアクセスできるようにするための、事前定義のログインです。Discoverer 用パブリック接続の作成には、Oracle Enterprise Manager を使用します。

Video Tutorial Workbook にアクセスするためのパブリック接続を作成する手順は、次のとおりです。

1. Oracle Enterprise Manager を起動します。

図 A-26 Oracle Enterprise Manager







2. 「名前」列の Discoverer コンポーネント名をクリックすると、「Oracle9iAS Discoverer サービス構成」ページが表示されます。
- たとえば、Discoverer コンポーネントが「My Discoverer」と呼ばれている場合、「My Discoverer」をクリックすると「Oracle9iAS Discoverer サービス構成」ページが表示されます。

図 A-27 「Oracle9iAS Discoverer サービス構成」 ページ



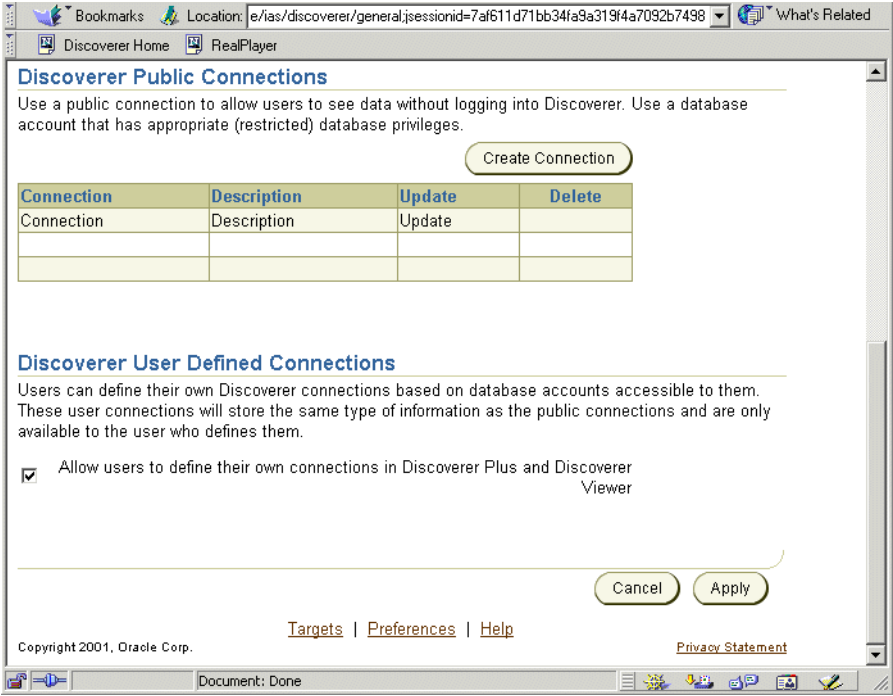
Oracle9iAS Discoverer Services Configuration

Oracle9iAS Discoverer empowers business users at all levels of the organization with on-demand access to information from datamarts, data warehouses, or OLTP systems. Utilizing any standard web browser, Oracle9iAS Discoverer provides users with ad hoc query, reporting, analysis, graphing and web-publishing capabilities in order to make faster and more informed e-business decisions.

Configuration	Description	Update
General Discoverer	Locale, graph and connection options	
Discoverer Viewer	Stylesheet and progress page options	
Discoverer Plus	Communication protocol options	
Discoverer Portlet Provider	Session and stylesheet pooling options	

3. 「Discoverer 一般」 行の「更新」 アイコンをクリックすると、「Discoverer 一般構成」 ページが表示されます。

図 A-28 「Discoverer 一般構成」 ページ



4. 「新規接続の作成」をクリックし、「Discoverer パブリック接続の作成」ページを表示します。

図 A-29 「Discoverer パブリック接続の作成」 ページ

ORACLE Enterprise Manager

Preferences Help

Targets

Create Discoverer Public Connection

Connection Name and Description

Enter a connection name that is easy to remember. Add a description for this connection, followed by the database account details.

Connection Name

Connection Description

Locale

This locale is used when there is no locale explicitly specified on the URL (&nlst).

Database Account Details

☐ Allow users in Discoverer Plus and Discoverer Viewer to see database account

5. 「接続名」フィールドに「Start tutorial」と入力します。
6. 「接続の説明」フィールドに「Open the Video Tutorial Workbook from the tutorial database」と入力します。
7. 「ユーザー名」フィールドに「VIDEO5」と入力します。
8. 「パスワード」フィールドに「VIDEO5」と入力します。
9. 「データベース」フィールドに、チュートリアル EUL を含むデータベースの名前を入力します（入力するデータベース文字列の詳細は、データベース管理者に問い合せてください）。

10. 「EUL」 フィールドに「TUTEUL」と入力します。
- これは、「チュートリアル用プライベート EUL の作成方法」で作成したチュートリアル EUL の名前です。
11. 「Oracle Applications ユーザー」 チェックボックスの選択を解除します。
12. 「適用」をクリックして詳細を保存します。
- 作成した新規接続（「Start tutorial」）が「Discoverer 一般構成」ページの「Discoverer パブリック接続」リストに表示されます。
- Discoverer Plus に接続する Discoverer エンド・ユーザーは、作成した「Start tutorial」接続を選択できます。新規接続により、エンド・ユーザーは Video Tutorial Workbook にアクセスできます（次の図を参照）。

図 A-30 Start tutorial 接続を含む「接続先 Discoverer Plus」ページ



チュートリアル用ビジネスエリアを他の End User Layer にインストールする方法

チュートリアル用ビジネスエリアを1つのEULにインストールした後、他のEULにインストールできます（詳細は、「[Discoverer チュートリアル用ビジネスエリアのインストール方法](#)」を参照）。

最初にチュートリアルをインストールしたEULではなく、チュートリアル用ビジネスエリアにユーザーをアクセスさせる場合は、各EUL所有者が独自のチュートリアル用ビジネスエリアを使用できるように、チュートリアルを1つ（以上）の代替EULにインストールできます。チュートリアルを他のEULにインストールするたびに、そのEUL内で別のチュートリアル用ビジネスエリアが作成されます。各チュートリアル用ビジネスエリアは、データベース内の同じ表セットからのデータにアクセスすることに注意してください。データベースには、各表のバージョンが1つのみ（VIDEO5 データベース・ユーザーの表領域に）作成されます。

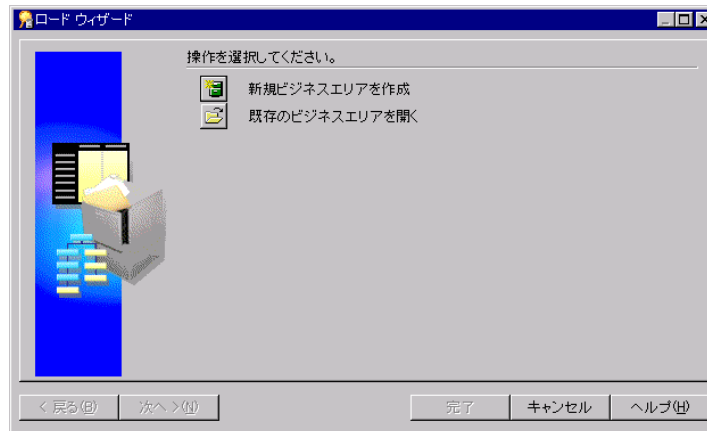
チュートリアル用ビジネスエリアを他のEULにインストールする手順は、次のとおりです。

1. チュートリアルのインストール先EULを所有するデータベース・ユーザーとして Discoverer Administrator に接続します（詳細は、[第3章「演習 1: Discoverer Administrator への接続」](#)を参照）。

注意：データベースへの接続に使用するデータベース・ユーザーに、チュートリアルのインストールに必要な権限があるかどうかを確認してください（詳細は、「[チュートリアル・データのインストールに必要な権限](#)」を参照）。

「ロード・ウィザード」ダイアログが表示されます。

図 A-31 「ロード ウィザード」ダイアログ



2. 「キャンセル」をクリックしてロード・ウィザードを終了します。
3. 「ツール」→「EUL マネージャ」を選択すると、「EUL マネージャ」ダイアログが表示されます。

図 A-32 「EUL マネージャ」ダイアログ



4. 「チュートリアルをインストール ...」をクリックして、「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 1」ダイアログを表示します。

図 A-33 「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 1」ダイアログ



「EUL」フィールドに表示される EUL に、チュートリアル用ビジネスエリアがインポートされるため注意してください。

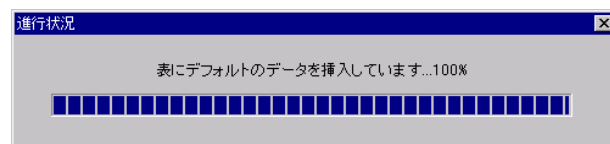
5. 「次へ」をクリックすると、「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 2」ダイアログが表示されます。

図 A-34 「チュートリアル インストール ウィザード ステップ 2」ダイアログ



6. 「パスワード」フィールドに「VIDEO5」と入力します。
注意: VIDEO5 データベース・ユーザーに指定したパスワードを使用できます。
7. 「完了」をクリックします。
「進行状況」ダイアログが表示されます。

図 A-35 「進行状況」ダイアログ



ファイル vidstr.eex (Discoverer 実行ファイルと同じディレクトリ内) を使用して、ビデオ・ストア・チュートリアル用ビジネスエリアが EUL にインポートされます。

このプロセスが完了すると、チュートリアル・データが正常にインストールされたことを示すダイアログが表示されます。

図 A-36 「チュートリアル データは正常にインストールされました。」 ダイアログ



8. 「OK」をクリックします。

「EUL マネージャ」ダイアログが表示されます。

図 A-37 「EUL マネージャ」ダイアログ



9. 「閉じる」をクリックして「EUL マネージャ」ダイアログを閉じます。

Discoverer Administrator により、現行 EUL にチュートリアル用ビジネスエリアのコピーが作成されました。前述の手順を繰り返し、単一の EUL 内でチュートリアル用ビジネスエリアの複数コピーを作成できます。

注意：チュートリアル用ビジネスエリアのすべてのコピーは、データベース内の同じ表セット内のデータにアクセスします。

チュートリアル用ビジネスエリア、表およびデータをアンインストールする方法

チュートリアルをアンインストールする場合は、次を削除します。

- 現行 EUL からチュートリアル用ビジネスエリア
- データベースからチュートリアル表

次の点に注意してください。

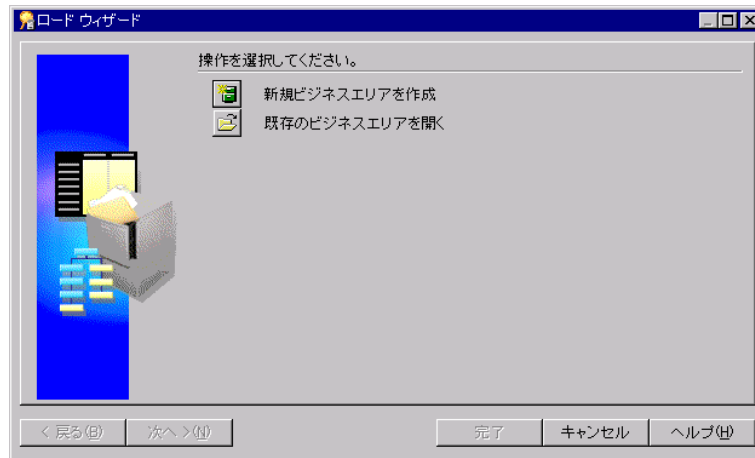
- VIDEO5 ユーザーはデータベースから削除されません。
- チュートリアルを他の EUL にもインストールしていた場合、チュートリアル用ビジネスエリアは（それが指す表がデータベースから削除されていても）他の EUL からは削除されません。
- 複数の EUL からチュートリアルのコピーを削除する操作は、一度に 1 つずつ行う必要があります。

チュートリアル・データをアンインストールする手順は、次のとおりです。

1. チュートリアル用ビジネスエリアの削除対象 EUL を所有するデータベース・ユーザーとして Discoverer Administrator に接続します。

「ロード ウィザード」ダイアログが表示されます。

図 A-38 「ロード ウィザード」ダイアログ



2. 「キャンセル」をクリックしてロード・ウィザードを終了します。
3. 「ツール」→「EUL マネージャ」を選択すると、「EUL マネージャ」ダイアログが表示されます。

図 A-39 「EUL マネージャ」ダイアログ



4. 「チュートリアルを削除」をクリックして、「チュートリアルの削除 ステップ 1」ダイアログを表示します。

図 A-40 「チュートリアルの削除 ステップ 1」ダイアログ



「EUL」フィールドに指定されている EUL が、チュートリアル用ビジネスエリアの削除対象 EUL であることを確認します。

EUL 名が正しくない場合は、「キャンセル」をクリックし、チュートリアル用ビジネスエリアの削除対象 EUL の所有者として Discoverer Administrator に再接続します。

5. 「次へ」をクリックすると、「チュートリアルの削除 ステップ 2」ダイアログが表示されます。

図 A-41 「チュートリアルの削除 ステップ 2」ダイアログ



6. VIDEO5 データベース・ユーザーの場合は、「パスワード」フィールドに「VIDEO5」と入力します。
または、チュートリアルを初めてインストールするとき（つまり、VIDEO5 データベース・ユーザーの作成時）に指定したパスワードを入力できます。
7. 「完了」をクリックします。
チュートリアルをアンインストールすると、データベースからチュートリアル・データおよび表、現行 EUL からチュートリアル用ビジネスエリアが削除されることを示す警告メッセージが表示されます。
8. 「はい」をクリックすると、チュートリアル用ビジネスエリアとデータベース表が削除されます。

チュートリアル・データを再インストールする方法

以前にチュートリアルをアンインストールしており、再インストールする必要がある場合は、「[チュートリアル用ビジネスエリアを他の End User Layer にインストールする方法](#)」の手順に従って操作してください。

索引

E

End User Layer (EUL)、プライベート EUL の作成,
2-2

EUL

作成が必要な理由, A-7
チュートリアルインストール, A-6

S

SQL

カスタム・フォルダでの定義, 6-2
カスタム・フォルダでの編集, 6-5

V

Video Tutorial Workbook

アクセス用パブリック接続の作成, A-23

あ

アイテム

アイテムの内容タイプの変更, 10-16
値リストの作成, 8-7
代替ソートの作成, 8-15
ビジネスエリア内のアイテムの非表示化, 8-2
フォルダ内のアイテムの名前変更と説明の追加,
5-6

アイテム・クラス

ディテール・ドリル, 10-18

アクセス権限

VIDEO5 データベース・ユーザーに付与する方法,
A-20

ビジネスエリアへのアクセス権限の付与, 4-9

ユーザーに対するアクセス権限の付与, 4-3

値リスト

値リストの作成, 8-7

い

インストール

チュートリアル, A-6

か

階層

アイテムの内容タイプの変更, 10-16
単一アイテム階層の定義, 10-3
ディテール・ドリルの定義, 10-18
日付階層テンプレートの作成, 10-11
より複雑なアイテム階層の定義, 10-8

カスタム・フォルダ

SQL の編集, 6-5

カスタム・フォルダの作成、SQL の定義, 6-2

け

結合

ビジネスエリア内のフォルダ用の作成, 7-2

さ

サマリー・フォルダ

サマリー・フォルダの作成, 11-3

し

- 条件
 - 条件の作成, 9-6
- 初回の接続
 - 適用される条件, A-7

せ

- 「説明」フィールド
 - ビジネスエリアへの説明の追加, 5-2

た

- 代替ソート
 - 代替ソートの作成, 8-15

ち

- チュートリアル
 - インストール, A-6
- チュートリアル・データ
 - 再インストール方法, A-36
- チュートリアル・データの再インストール, A-36
- チュートリアルのインストール
 - 処理, A-3
 - 手順, A-7
 - 必要な権限, A-6
 - 方法, A-14
- チュートリアル・ユーザーのためのデータベースの前
提条件, A-3
- チュートリアル用ビジネスエリア
 - アンインストール方法, A-33
 - 他の EUL へのインストール方法, A-29

て

- ディテール・ドリル
 - ディテール・ドリル・アイテム・クラスの定義,
10-18

な

- 内容タイプ
 - アイテムに関する変更, 10-16

は

- パブリック接続
 - Video Tutorial Workbook にアクセスするための
作成, A-23

ひ

- ビジネスエリア
 - アイテムの非表示化, 8-2
 - アクセス権限の付与, 4-9
 - 説明の追加, 5-2
 - フォルダ内のアイテムの名前変更と説明の追加,
5-6
 - フォルダの名前変更と説明の追加, 5-4
 - ロード・ウィザードでのソースの場所の識別, 3-4
- 日付階層
 - 日付階層テンプレートの作成, 10-11

ふ

- フォルダ
 - アイテムの名前変更と説明の追加, 5-6
 - カスタム・フォルダの作成、SQL の定義, 6-2
 - カスタム・フォルダ、SQL の編集, 6-5
 - 結合の作成, 7-2
 - 名前変更と説明の追加, 5-4
 - 複合フォルダの作成, 9-3
- 複合フォルダ
 - 条件の作成, 9-6
 - 複合フォルダの作成, 9-3
- プライベート EUL
 - 作成方法, A-8

ゆ

- ユーザー
 - アクセス権限の付与, 4-3

ろ

- ロード・ウィザード
 - ビジネスエリアのソースの場所の識別, 3-4